

して獨逸の統計を基礎として調製されたる百分率の圖表は次ぎの如し。

エンヂル氏の法則 (撒遜)

支出の諸項目	家庭支出の百分率		
	一ヶ年二二五弗乃至三〇〇弗の收入ある労働者	一ヶ年四五〇弗乃至六〇〇弗の收入ある中等階級	一ヶ年七五〇弗乃至一、〇〇〇弗の收入ある餘裕階級
一、食料品	六二、〇	五五、〇	五〇、〇
二、衣服 <small>被服のオモロ</small>	一六、〇	一八、〇	一八、〇
三、住宅	一二、〇	九〇、〇	一二、〇
四、薪炭及び點燈料	五、〇	五、〇	五、〇
五、教育及び宗教其他	二、〇	三、五	五、五
六、法律の保護	一、〇	二、〇	三、〇
七、衛生上の注意	一、〇	二、〇	三、〇
八、快樂、精神上、身體上の休養	一、〇	二、五	三、五
合計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

次ぎの圖表は諸國間に於ける生活状態の比較を示せるものなり、

イリノイ州、マサチューセツ州、大英國及び撒遜に於ける労働者家庭の支出比較

費用の項目	支出比較			
	イリノイ	マサチューセツ	英吉利	撒遜
食物類	四一、三八	四九、三八	五一、三六	五五、〇四
衣服類	二二、〇〇	一五、九五	一八、一二	一八、〇〇
地代家賃等	一七、〇〇	一九、七四	一三、四八	一二、〇〇
燃料類	五、六三	四、三〇	三、五〇	五、〇〇
雜物雜件	一四、五七	一〇、七三	一三、五四	一〇、〇〇
合計	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

以上圖表によりて表示せるが如く撒遜に於ける家計豫算を研究したる結果として有名の統計學者たるエルンスト、エンゲル博士は次ぎの如く家庭支出又は家内消費に關する一般的法則を作れり。

家族の収入増加する時に

(1) 食料品に對する支出の割合は減少す。

(2) 衣類に對する支出の割合は(収入の増減に由りて變動すること少く)殆んど同一に止まる。

(3) 地代、家賃、燃料及び點燈料に對する支出の割合は變化せず。

(4) 教育、衛生、休養其他に對する支出の割合は増加す。

圖表に示したる數字によれば、如何なる社會に於ても、食物に對する需要は比較的に彈力の少きものなり、何んとなれば生存上十分必要な丈は如何なる場合にも要求せらるゝものなればなり、而して凡べての階級によりて需要せらるゝ關係的數量は其必要が満足さるゝに従ふて急速に低下するものなるや明かなり。他の一方に於て財

富の増加は慾望養成に寄與する凡べての種々なる財貨及び勤勞に對する需要を増加するものなり。

さて人の高尚なる慾望の満足は生産者としての能力を完全ならしむるに必要なが故に、吾人は以上の圖表より「貧者を苦しめ且つ之を墮落せしむるものは全く其貧窮なるにある」を理解し得るなり。彼等は非倫理的なる圈内に生活す。彼等が生るゝところの貧窮は自ら其圏外に脱出せんとするを妨ぐるの障壁たるなり。彼等をして一度此等の境遇より脱出せしめよ、若し彼等にして此等の境遇より脱出し得たらんか、彼等は自己の繁榮を永久に享受し且つ持續するの力を彼等の掌中に握るに至るべし、何となれば此の如くにして彼等は生産者として一層有效なるものとなり、而して彼等の勞力によりて増加せる生産物に對し、相當なる配當を更に巧妙に獲得し得るに至るべければなり。

エンゲル氏の法則は又無頓著なる、又は企劃的なる惡稅則によりて課稅せられたる負擔の不公平なる社會的分配を説明するにあたりても大に價值あるものなり。或租

税、假令へば麥粉一「バアルル」に對し一弗の租税が賦課せらるゝとすべし、この場合に該課税は全然不平等非比例的なる負擔を貧民階級の肩上に投下するものなり。なほ、租税の現制度に關して考慮するとき、如斯き課税の常に屢行はれつゝあるは何人も疑はざるところなり。

摘要

- 一、人は消費をなすにあたり費用以上に最も大なる可能的剩餘效用を得べく、及び種々なる支出に於て限界效用を同一様に維持せんと努むるものなり。
- 二、貨物の經濟的重要は其限界效用に由りて決定せらるゝものなり。
- 三、需要は直接に貨物の限界效用及び消費者の富力に伴ふて變化し、需要せらるゝ分量は價格と逆比例に變化するものなり。
- 四、収入の増加は常に生活上の快樂及び禮節に關する支出を増加すべき機會を意味す。

復習問題

- 一、各自自身の場合に於ける消費の種々なる種類の初首效用、及び效用漸減を概略ながら表示するところの圖表を畫け。
- 二、水或は黄金、水或は小麥、その何れが吾等人間に對し最も大なる經濟的重要を有するものなるか、同様なる方法にて他の諸貨物を比較せよ。
- 三、需要の法則又は諸法則を説明せよ、其等の圖解的説明を與へよ。
- 四、家事的支出に關するエンケルの法則を説明せよ、この法則は貧民の生活狀態に關して如何なる關係を有するか、租税につきても如何なる關係を有するか。

研究問題

- 一、如何なる學術語にて日常生活に於ける限界效用を推算しなすか。
- 二、自働車及び小麥の價格が比例的に下落したらんには、この兩者に對する需要の上

に如何なる關係的結果を生ずるに至るべきか、何故に銅の價格はその供給の大に増加せるに不拘、高價を維持しなすか、大統領の突然の死去は如何なる結果を葬儀用財貨に及ぼしなすか、何故にしかるか。

三、社會に於ける各個人は如何なる割合によりて各自の收入をエンゲルの法則に於て説明せられたる種々なる種類の財貨間に消費しなすか。

四、單一より更に多き弾力性を、單一より更に少き弾力性を、單一なる弾力性を表示するところの表を作れ。

第四章 出費及び貯蓄の經濟

茲に消費經濟に關して研究すべき二個の重要問題は残れり。その第一は如何にして人の全支出は全消費が最大多量の満足を得るがために現在及び將來の間に分配せらるるかといふところの問題是なり。その第二は第一問の解答せられたるを假定し、如何にせば現在の消費が満足の最大合計數に結果するの順序に排列せらるるかと問ふところの問題是なり。此二問題は實際上支出の問題として研究すべきものなれども、尙ほ普通に吾人は第一問を貯蓄の問題として考へ、第二問に於て取扱はるゝところの出費問題より區別するものなり。

一、貯蓄の經濟

先づ第一に注意すべきは現在支出と將來支出との間に於ける分配割合が、既に説明せる「消費の經濟的順序の法則」と稱する一般的法則に合致するものなりと云ふと是な

り。吾人は支出の必要ある毎に常に費用以上なる剩餘效用を得んと努むるものなり、故に吾人の有する購買力の殘部を將來の購買に適用することによりて一層大なる剩餘效用を得べしと感ずれば、乃ち現在の支出をも中止するものなり。勿論多數の人に取りて現在の需要は現在及び將來の剩餘を平衡せしむるの機會なき迄に緊要にして、且つ其収入は制限せらるゝものなり。乍併貯蓄の行はるゝ場合には必ず以上説明せる比較考量によりて爲さるゝを常とす。

一、貯藏 然らば財貨は如何にして貯蓄せらるゝか。明かに自身も又他人も現在に於て其等の財貨より享樂し能はざる方法によりて貯蓄し得べし。或國の農夫は銀行を信ぜざるより、彼等は自家家屋の周圍に或祕密の場所を定めて其處に蓄藏するが如き是なり。此の如きは最良の方法に非ざるも、現在に於て有害若くは贅澤なる消費に支出せんよりは遙に勝れり、何となれば若し財貨——假令へば金銀——を他より損害を受くることなき方法によりて貯藏したらんには結局將來に於て、眞實にして善良なる慾望に寄與し得べければなり。

二、投資 然れども近世に於て、財産の安固は強力なる政府に依り保證せらるゝに至りたること、及び秩序的に収入を生ずる生産的使用に貯蓄を投ずる機會の容易なるに至りたることより、勤儉なる人々は貯藏に依るよりは寧ろ投資に依りて貯蓄する方法を選ぶものなり。而して如斯きの投資は(a)直接に商賣の上に又は收入を生ずる財産の上に爲さるゝものなり。然れども産業の益、複雑となり而して經營上成功を收めんと欲せば、更に益、多くの熟練を要するに至りしより、人民の大多數は直接に投資せんよりは寧ろ他人の手中に彼等の貯蓄を信托する方法、即ち(b)間接なる投資を選ぶに至れり。該過程は最も多くの場合に於て更に一步を進めて運用せらるゝものなり。即ち彼等は其貯蓄を直接に生産企業に従事する人に貸附することなく現金又は信用證券の形式にて(c)彼等の貯蓄を銀行に預入れ、而して銀行は如何なる企業に其等の貯蓄を最も安全に、且つ最も有利に投下すべきかを決定するの衝に當るものなり。

財富の貯藏と投資的貯蓄との相違せる點は、前者に在りては財貨が最後に生産的に又は經濟的に使用せらるべしと云ふにあるも、後者に在りては貨物が生産的に使用せ

The difference between hoarding and saving by investment.

らるゝと同時に貯蓄せらるゝものなりと云ふことなり。

貯蓄の眞性質 一般に貨幣が財貨を代表することの事實は、吾人をして貯蓄の眞性質を看過するに至らしめたるが如し。個人的見地より觀察して、貯蓄は消費の延期を意味するものなり。人あり一週間の収入より五弗を貯蓄する時、彼等はその金額に相當する財貨を他人より受取るべき権利の實行を將來に延期するものなり。彼はこの貯蓄を、金錢を貯藏すること、又は他人に貸附くることの孰れかによりてなすものなり。然れども此の如き行爲は必ずしも社會的見地より觀察して、貯蓄たるの結果を生ずるものに非ず。社會的貯蓄は全體としての社會的方面に於て將來に享樂し得る大なる力を意味するものなり。茲にAありBに貨幣を貸附け、Bは直ちに之を浪費したらんには、Aは個人的に貯蓄し得たるも、社會的貯蓄なるものはこれあることなし、何となれば此行爲に依り將來に享樂すべき財貨の更に多からざるべければなり。然れども若しBにして直に浪費する代りに之を機械製作に使用したらんには、茲に始めて社會的貯蓄は生ず、何となれば機械の使用により將來に於て更に多くの財貨が生産せらるべ

ければなり。近世的社會は主として財貨生産上の便宜を改良することによりて貯蓄す、而して合衆國人民が將來の使用の爲めに貯蓄する食料、衣服其他の數量は比較的尠少なり。

濫費に關する謬想 吾人は金錢を無制限に濫費する人を以て社會の恩惠者なるが如く考へ、同時に贅澤に使用せざる人のかへりて非難せらるゝを聞くに屢なり。然れどもこの事實よりして前者は刻下に貨物及び勤勞を使用しつゝあるものにして、後者は投資に依りて社會の生産的設備を改良しつゝあるものなることは明瞭なり。一は其家庭、厩舎若くは遊船等に於て働くべく多くの人々を使用するものなり、他は製造所に働くべく多くの人々を使用するものなり、即ち後者は社會的に貯蓄しつゝあるものなり。而してこの理由は更に擴充し得べし。しかも吾人は現實の生活につきて考慮するの賢明にして且妥當なる時に於てすら、ある將來に於ける生活のために準備すべく、吾人の時間と努力とを費消するの過誤に陥ることあるものなり。然れども恐らく個人も又國民も次ぎの如き警告を必要とせざるべきか。

金錢の費消は商賣を盛ならしむるものなりといふは虚妄なりと認むべきものなり。

二、出費の經濟

本章の始めに擧げたる二個問題の中、已にその第一を研究せるを以て茲にはその第二問題につき説明を試むべし——即ち最大幸福なる結果を得るが爲めに現在の消費を如何なる順序に排列し、處理すべきかてふ問題これなり。

まづ第一に出費經濟につきて二個の主要なるものあり、吾人はその一を正當なる選擇の經濟と稱し、他を正當なる使用の經濟と稱す。而して正當なる選擇の經濟は貨物が最も有益に適用せらるゝところの其等貨物の現在使用に關する正確なる智識を必要となし、同時に正當なる使用の經濟は其等貨物を有利に適用し得る最も有效なる方法に關する智識を必要となすものなり。

(A) 正當なる選擇の經濟 如何に經濟が正當なる選擇によりて得らるべきかを考慮するにあたり、吾人は倫理學及び經濟學間に於ける境界地を形成するところの思想の分

野に入るものなり。まづ第一に、吾人は全體としての社會的見地より經濟は、社會的努力の結果が最高級なる實行的程度に於て、社會の各個人間に分配せられざるべからざることを要求するものなることを恐らく確信を以て斷言し得べし。多數者が勞苦し、而して最少數者が勞苦又は憂慮なく奢侈贅澤に享樂し得ることのために單なる合宜的生活だに得ずして過ぎ行くときに、社會的經濟の根本的法則が破壊せらるゝことは明かなり。こゝには如何なる點にまで如斯き状態が防止せられ得るかの議論に入ることなく、たゞ吾人は如斯き分配状態は民主的社會に對して經濟の理想を表示するものにあらずとの主張に同意を表す。

奢侈の浪費 奢侈向の出費又は奢侈的消費は經濟的消費にあらず、何となれば此種の消費にありては其資源を最も有利なる用途に使用しなざればなり。さて奢侈の問題は論議するに頗る困難なる問題の一なり、何んとなれば奢侈そのものゝ定義は容易に與へらるゝものにあらざるが故なり。二世紀前に在りて獨り富豪或は權力家によりてのみ使用せられたりし多數の事物は、今日貧窮者にも容易に求め得らるゝに至れ

り。かゝる貨物を今日誰か奢侈品と考ふるものあらんや、然かも若し往時にありて其等事物の所有が貧者の利用によりて得られ、而して其所有者が其所有に對する報償として社會的勤勞を與へざりしならば、吾人は其等を目して奢侈品なりしことを主張せざるべからず。目に一丁字を解せざる人に向ひて、圖書館は一の奢侈物なるも、科學者にとりてはその完全にして有效なるほど必要なるものなり。従つて以上の説明によるも奢侈の單純にして明瞭なる定義に到達するの困難なるを知るべし、而して吾人が日常如斯きの支出を判斷する普通の原理を立つることも亦同じく困難なるものなり。尙同時に支出中に社會經濟の原理を含蓄し、且つ道義的訓戒を暗示するところの定義を下すは不可能にあらざるなり。曰く奢侈とは消費者が報償として社會に盡くすところの勤勞に對し比例を失したるところの、しかも消費者にとりて必ずしも直接に有害なるものにあらざるところの貨物及び勤勞の消費によりて生ずるものなり。

然れども人あり或は問はん人は自己の所有物を、その欲するまゝに處理するの權利を有せざるかと。而して若し法律に準據して單に判斷したらんには、然り充分にその權

利を有すと答ふべきなり。何れの法廷にありてもエベルの保護者にカインを指名しなさざりき。乍併法律規則は權利及び義務に關する觀念が種族間に發達したる後に徐々に且つ停滯的に發達するものなり。法律は屢、財産の權利及び其使用を極端にまで許容したり、これ大體に於て人は其生産物を無拘束に處理し得るの權利を與へらるるときに更に懸命に勞働し更に多大の生産を爲し、而してこれに依りて更に大に幸福なるを得べしと信せられたるが故なり。乍併今や世人は次第々に社會的に傾きつゝあるなり。かくて富者及び能力者は社會の人々につきて何等與ふるとなく其所有物を浪費し得るとなすよりも、寧ろ彼等に預けられたるところの信託として彼等の富及び才能を考慮するに至れり。此責任の觀念と保管者たるの感情とが充分に發達するに至りたる時に法律は人類思想に於ける變化を承認するため、而して若し人々にして進歩せる責任觀念を有せざらんか其等道義を虚飾すべき非社會的なるものを強制する爲めに變更せらるゝものなり。然れども例外の場合を除きて何等法律を變更するの必要なかるべし、何となれば輿論の力は奢侈濫用の行はるゝを阻止するに充分なるべければなり。

乍併茲に注意すべきことあり。即ち極端に過ぎたる吝嗇は、浪費濫用よりもその弊害のただ僅に少しといふまでにして弊害たるや一なり。而してこゝに吾人の忘るべからざることは人間慾望の數並びに種類に於ける合理的増進は人類社會の進歩に必要なりと云ふこと是れなり。

有害なる消費の浪費 奢侈的消費を論ずるときにあたり吾人は奢侈的消費が必ずしも消費者に直接の害毒を與ふるものにあらざるを説きたり、しかも如斯き害毒の生ずるときに之を贅澤なる消費と言はんよりは寧ろ有害なる消費として論ずるを常とす。言ふまでもなく有害なる消費は倫理教師によりて非難せらるゝ以上に經濟學者よりも排斥せらるゝものなり、何となれば有害消費は個人的見地より言ふも亦社會的見地より論ずるも非常に無益の浪費たればなり。國民が其勞力と資本を消費上、幸福よりは更に多く不幸を招致し而して將來に於ける國民の氣力及び聰明の根源を微弱ならしむるところの貨物の生産に使用する時に、經濟的消費はその正しき軌道より脱離すべく従つて激烈なる非難を惹起するに至らん。若し社會にして此の如き有害なる消費

を廢棄したらんには、麵麩は廉價なるを得べく、高尚なる慾望は満足を見出すべく、而して人は單なる肉感的満足の動物的下劣の水準より遠ざかるを得べし。

選擇の經濟に關する二三法則 眞實なる大満足が比較的少なる支出によりて得らるゝところの方法に於て吾人は吾等慾望の増長を支配し得るものなり。かくして吾人は(1)其性質に於て排他的なるよりは寧ろ包括的なる享樂又は消費を養成し、且つ獎勵せざるべからず。若し社會が個人的に美術品を所有することよりは、寧ろ其等佳麗なる繪畫若くは彫刻を公衆と共に觀賞することによりて満足の得らるゝ様美術的嗜好心を養成したらんには、社會は合同購買に依り最も經濟的に更に多くの満足を享悦せしむるを得べし。又(2)吾人は調和統一ある消費を養成し、獎勵せざるべからず。茲に熟知の一例を擧げんか、麵麩及び牛酪を共用することは、二個のものを分離して消費せんよりは大なる享悦を與ふるものなり。然れども消費の調和は以上の如き單純なる場合にのみ限らるゝものに非ず。諸貨物の「集團」が何時にても集合的に消費せらるゝときに其等貨物を個々に離して消費するよりも更に大なる満足の得らるゝものなるが故に、

「二集團」の消費は調和せる消費にして、最も經濟的なるものなり。終りに(3)吾人は消費上多種多様な習慣を養成し、奨励せざる可からず。消費せらるゝ財貨の異種多様、即ち種類にして種々ならば其等財貨の限界效用は更に高かるべし、而して夫故に其等の消費より享受する満足は更に鋭敏なるものなり。更に又、人の嗜好範圍にして宏汎ならんか、他邦に旅行する場合の如き、多種多様な状態の下に満足を享受し得べきは更に確實なることなり。一例を挙げんに、食物に關する嗜好と願望とが狭少なる範圍に限らるゝ家族は、食料品の購買を其範圍に限られ市價の變動に支配せらるゝものなり、之に反して多種多様な嗜好に養はれたる家族は、食料品の一種に對して多くの支出を要するに至れる時、さしたる享悦の損失なくして該食料品を棄却し得るなり。若し亞米利加人が小麥粉にて造られたる麩麩以外に、更に他の種類の麩麩に對する嗜好を養成したりとせば彼等は現在に於て享悦するよりも更に廉價に、小麥製麩麩より享取ると同じき満足を他種類の麩麩より享受することを得べし。

(B) 正當なる使用の經濟、上來已に吾人は正當なる貨物の選擇上、又は有益なる使用

のために選擇せるものゝ觀賞上の失敗より起れる經濟的缺陷に關して説明を試みたり。然かも其等貨物の選擇が正當に適用せらるゝの時にありてすら貨物の使用一般に或種の浪費は起るものなり。かくて假令特徴ある害毒は勿論僅少なりと雖も、使用の場合に於ける貨物の浪費は恐らく選擇の場合に於けるよりも、更に多かるべし。

家政は經濟上重要なものなり 家政上主婦(妻又は母)の勢力は大なるものなり。

恐らく普通の家族にありて収入の四分の三より少からざる金額は、支出經濟のために家事萬端の當事者たる主婦によりて使用せらるゝものなり。此考慮すべき重要な事實も往々にして看過せられたり。特に米國に於て家族の食事準備に關する浪費的方法に對し非難の聲を生ずるに至れり。而して如斯き無益の消費は次ぎの事情より生じ來るものなり。

- (一) 比較的少量の滋養分を含有する食料品を選擇すること、
- (二) 消費者の特殊的必要によく適合せざる食料品を選擇すること、
- (三) 購買せられたる而して滋養分を供給するところの材料を充分に利用せざる過失、

- (四) 食物料理法の宜しからざることを、
- (五) 料理に用らるゝ燃料を充分に利用せざる過失、

此等と同様な浪費は衣服につきても亦繰返へざるものなり。即ち注意深き研究者の計算に依れば、此等の浪費によりて全収入の十分の一以上は無益に支出せらるゝものなり。若し此計算にして正當ならんには、吾人は此等浪費の制止が平均家族をして一日一時間若くは夫れ以上労働時間を短縮せしむるも尙ほ従前と同一なる享悦を爲さしめ得べく、或は要求せらるゝ労働の量を増加することなくして享樂の和を更に一割以上多く増加せしめ得べしと結論し得るなり。

摘要

- 一、消費上の經濟は現在消費と將來消費との間に支出の經濟的權衡を要求す、而して現在支出の經濟的順序の一は「貯蓄」の經濟にして他は「出費」の經濟なり。
- 二、單に貯藏にあらざるも、貯蓄は實際將來の爲めに費消せらるゝものなり。夫故に

現在と將來との良權衡は吝嗇と濫費との平衡によりて得らるゝものなり。奢侈濫費は公共の利益にあらず。

- 三、現在消費に於ける經濟は、正當なる選擇及び選擇せられたるものゝ正當なる使用を要求す。

四、奢侈及び有害なる消費は共に正當なる選擇の法則を破壊し、且つ非經濟的なり。包括的、調和的及び多種多様な消費は最も經濟的なり。

- 五、正當なる使用の經濟は大に家政當事者の運用如何によるものなり。

復習問題

- 一、金銀を費消することが商賣を盛ならしむるものなりといふの謬論なるを論ぜよ、貯蓄するところの人は何故に、及び如何に費消しなすか、如何なる機關によりて通常將來に對しての費消は近代的社會に於て行はるゝか。
- 二、如何なる二個の一般的原则が現在の支出を節約するために遵奉せられざるべから

ざるか。

三、奢侈とは如何なるものなりや、その經濟的結果は如何、如何に奢侈は有害なる消費と異りなすか。

四、例證を擧げて消費に於ける多種多様の經濟を説明せよ、又調和的消費の經濟及び包括的消費の經濟を説明せよ。

研究問題

一、何故に公立圖書館は經濟的なりや。

二、貯蓄は消費なりとの説明によつて如何なることの意味せらるゝか、貯蓄は將來財貨に對しての費消なりとの説明によりて如何なることの意味せらるゝか。

三、若し人々が單なる必需品として考へらるゝところのものに彼等の收入のみを費消したらんには如何なる結果を生ずるに至るべきか。

四、貧民は貯蓄銀行に金錢を預入るゝこと、又は通常投資と稱せらるゝもの以外に於

て將來財貨に對し貯蓄し能ふか、如何なる支出が彼等自身又は彼等の兒童の效力を増加し得るか。

五、人々の間に於ける社會收入の殆んど平等に近き分配より生ずる可能的社會的所得を表示するために限界效用の法則を使用せよ。

第二部 生産

第一章 小引

何故に生産は第二に研究せらる、か 吾人は人間の慾望、消費及び需要を以て經濟原理を研究するの第一主題となせり、何んとなれば凡べて他の經濟現象は何れも此等より生じ來るものなればなり。而して何故に人は生産事業に努力するかに就きては已に之を説明せり。次ぎに論理的順序として如何にして人は生産事業に著手するかを研究せざる可からず。吾人は已に需要の原因及び其法則を研究せり。吾人は次ぎに供給に關して同様の研究を爲さざるべからず。夫故に今茲に研究せんとするは即ち生産の一般的問題なり。

○生産とは何ぞや 消費は物質そのもの、破壊に非ずして、或る状態を成せる物質の特殊の效用の破壊を意味するが如く、生産は物質そのもの、創造に、あらずして、效用の創造を意味するものなり。人は到底物質を創造する能はず。農夫又は商賈は地上に存

在する材料に一元子をも加ふるものにあらず。猶ほ此兩者は當然、生産者と稱せらるるものなり。さて彼等は何物を生産し爲すか、若し人あり何を生産しつゝありやと考ふるあらば、彼等は效用を生産するのみ、他に何物をも生産せざるを發見すべし。而して彼等は如何にして生産を行ひ爲すか、この生産は單にその目的に適合せる場所に物を按排することによりて爲さるゝものなり。ジョンスタート・ミルが生産を論じて「物質内部の力及び他の自然物に存する力を有效ならしむるために物質を適當の場所に按排するところの作業行爲は人間が物質を取扱ひ爲す又は取扱ひ能ふところの凡べてなり」と云へるは又この意義に外ならず。

○總ての生産は實質上同じ 或人によりて農夫が製造業者より更に一層生産者なり、又製造業者は商賈よりも一層生産者なるが如く考へられ、又往時の經濟學者の中にも如斯く考へたるものありき、然れども注意して考ふるときに如斯き見解の誤謬なるを知べし。凡べての産業階級は已に記述せるが如く一樣に四種效用の一種又は一種以上を生産す、即ち彼等は時と場所とに於ける物の關係を變更することによりて生

Productive activity

1. those which are directed toward the production of material good.
2. those which render personal services.

産するものなり。農夫は種子を地中に播布して穀物の地位を變更す。次に彼等は雜草を芟除し而して生長し來る葉柄に培ふ。かくして天然の材料及び力に助けられて物の關係及び地位を變更する人間の行動は人類の消費に對して更に多く穀物の生産を増加するものなり。これと同様なる方法により製造業者は連續なき、斷片的なる物の位置を變更す、即ち生産目的物の内外に於ける天然力の助けによりて、彼は物質を人類の必要に最もよく適合する形態に變更するものなり。更に又商人は其等貨物があまりに有用ならざる處より、一層有用なる處に其等の場所を變更し、又時には外部的事情の變化が大なる時間的效用を與ふるに至るまで一定所に其等を保存するものなり。かくて商賈は農夫又は製造業者がなすと同じく效用を生産しつゝあるものなり。勿論、商賈によりて實際に生産せらるゝ效用は其等貨物が現時の場合に於けるよりも經濟力の更に少き出費を以て生産せられ得べく、及び貯蓄の大小は生産業の組織の良否如何によりて影響せられ得るは可能のことなり。又時として商賈は效用の一定量の生産に對して農夫が得るよりもさらに大なる報酬を得ることあるべし。然れどもそれが爲め

に商賈の勤勞が他の産業階級の勤勞よりも、比較的にその生産的性質の少なきものなりとの普通の印象は到底謬れる判斷たるをまぬかれず。唯相違は種々なる産業階級が生産に従事しつゝあるところの效用の種類によるものなり。最後に記憶すべきことは、これと同様なる理由によりて、醫師、教師、及び個人的勤勞に従事するところの他の人々も同様に效用を生産しつゝあるものなり、それ故に彼等も又生産者たるなり。

かくて如上の説明より吾人は生産の定義を下して次ぎの如く云ふを得べし、

生産とは材料及び力を供給するところの實體的萬有に人間の精神力及び體力を適用して生ずるところの效用の創造これなり。

吾人は已に財貨及び經濟的財貨の定義を下せり。茲に吾人の注意すべきことは勞力の結果として生ずるところの其等效用の數量は經濟的財貨なり、然れども凡べての經濟的財貨は勞力の結果と同一範圍にあるものに非ざるは事實なり。人は歩行の時、躓きたる路上に金剛石又は金塊を拾得することあらん、而して如斯き場合にありて經濟

的財貨は全く勞力の結果なりと云ふを得ざるべし。而かも如斯き稀有の場合に於てすら尙ほ記憶せざるべからざることは其等金剛石又は金塊を拾得するに於て何等勞力を要せざりしとするも、なほ如斯き財貨の全貯藏は力役辛酸痛苦の結果なることこれなり、ただ金剛石及び黄金の價格が其等の生産に相當したる報酬を表示するものに非ずと屢唱へらるゝことあるのみ。

尙ほ茲に財富生産に非ずして、價值創造の顯著なる場合あり。例へば紐育又は市俄古の所在地たるや、一度は眞に僅少なる金額を投じて購買するを得たりしなり。然れども、今日此等の土地を表示する大なる價值は可なり程度までは人間勞力の結果に外ならざるも、然かもその大部分は人口の大増加に歸因す、而して人口そのものは決して勞力の結果なりてふ觀念を表示し居らざるなり。如斯きの價值は社會全體の所産にして個人的努力の所産にはあらざるなり。かくして土地の地代即ち個人の勤勞によりて生ぜざる價值の増加を個人に占有せしむべきや否やに關する問題は後に論ずるところあらんとす。此には單に以上の如く勤勞なくして價值の増加する場合の存在

に注意すれば足れり、換言すればこの社會にありて價值創造、即ち同時に財富生産たらざるところの價值創造の如きものゝ存在するに注意すれば足れり。

個人的財富及び社會的財富 觀察點の個人的なると社會的なるとの區別は經濟學の全體を通じて現はるゝ所なるが、此區別は殊に財富即ち經濟的財富に關する觀念の場合に於て重要ななり。個人にとりて財富なるも、然かも社會にとりて財富ならざるものあり、又これと反對に社會にとりて財富なるも個人の所有權内に屬せざるものあり。かくして質、又は抵當物は之を保留するところの個人には財富なるも、然かも社會的財富の一部には數へられず、夫故に若し該質又は抵當物に對する要求にして消滅したりとするも社會の財富に少しも増減することなきなり。又都市、聯邦、及び國家によりて發行せられたる公債の場合に於ても同様なり。質、抵當物、證券、公債等の如き其等を一般の財貨と區別するために時として表現的財貨と稱することあり。而して社會の觀察點よりして、其等表現的財貨は財富にあらず、ただ法律上、財富に對する強制的要求權たり又は財富の部分的所有權の標準たるに過ぎざるなり。

生産的要素は屢、看過せらる。生産に關する多くの重要事實の存在が屢、等閑視せらるゝことあり。かくして吾人は今日に於てすら生産の大部分は家内生産にして、其等生産は全く市場を目的に生産すべく豫想せられたるものにあらざること忘れたるものゝ如し。

吾人は又合衆國人口の三分の一が生活し而して勞作するところの田舎地方に於て、財貨の大部分が年々市場を目的とすることなく、家内の消費を目的として生産せられつゝあるの事實を看過する傾きあり。野菜、栽培せる若くは野生の菓物、牛酪、鶏卵、肉類、公有河川に於て漁撈せられたる魚類及び狩獵獲物は家内の消費を目的としたるの説明として容易に想到せらるゝものなり。

以上の如き事實の實相につきての考慮は、一國の年生産額を他國の夫れと比較し、或は同一國の年生産額をその異なる年代により比較するに當り注意の甚だ必要なるを示すものなり。かくして家内の生産はその比較的重要の度を減じつゝあると同時に、市場を目的としての貨物の生産、即ち其價格が貨幣により計量せらるゝところの貨物の

生産は、絶えず其重要の度を加へつゝあるなり。夫故に外見上の年生産、即ち市場價格を有するところの貨物の生産は、實際の年生産の増加するよりも更に急速に増加しつゝあるものなり。その結果として此等の進歩は過大に見積らるゝの傾向あり、而して全く進歩と目すべきものにあらざるものをも進歩せるが如くに考ふることさへあるなり。之を以て若し下宿屋及び旅館生活が家事經營を廢棄せしむるに至らば、年生産は假令ひ實際に於て其國の眞の財富及び収入が明白に何等些少の影響をも被るべきにあらずとするも、該變化の結果として増加するものゝ如く見ゆべし、尙ほ如斯き統計に伴ふところの誤謬は、その各員が相互の洗濯をなすがために生活を得べしとなすところの社會に關する舊諸謔を解くの鍵論たるものなり。

尙ほ一層の注意は國家的財富の官廳的又は非官廳的見積を研究するに當りて爲さざるべからず。此等の見積は普通貨幣の名目によりて爲さるゝものなり。今若し或る商品の供給が貨幣に對して甚だ饒多ならんには、假令その國の財富は大なりとも、その價格は、他事情の同一なるに於て低廉なるべし。假へば若し二統計調査時期の間に綿織

物の數量が二倍の生産額に上れりとなし、同時に其價格が半額に低落したらんには、該生産物の合計價値は假令第二期に於ける社會がこの有要なる商品の數量を二倍に増加したるも統計上の見積に於てこの二つの調査時期を通じて同一なるものとして表示せらるべし。

生産過多及び消費過少 一般的生産過多の可能性、即ち起るものなりとの信念を言明する人の少からざるは普通のことなり。尙は一般的生産過多が可能性のものなるときに於てのみ正常なりと考へらるゝところの見解を有する人あるは更に普通のことなりといふべし。一世紀以前の或經濟學者すら同様なる誤謬に陥りたるなり。一般的生産過多とは一般に社會の必要を超えたる貨物の生産の意味するものなり。然れども少しく熟慮するときは直ちに如斯き思想の不合理なるを悟らん。即ち生産の目的は消費なればなり。經濟的財貨が實際に人々の合理的需要を満足せしむるに必要なる以上に更に多く生産せられたる時の決してこれあらざりしは明白なり。否な反對に、此目的のために充分に生産せられたるとの決してこれあらざりしなり。時として、生産は不均

欠

欠

恐慌の原因を貨幣上及び信用上の状態及び關係にありとし、其理由を力説せり。例へば一千八百九十三年の恐慌は或論者によりて、その大部分は貨幣上の混亂に由來するものなりと論せらるゝが如きこれなり。

生産と犠牲 消費は規則正しく満足を提供す。生産は規則正しく犠牲と努力とを要求す。而してこゝに吾人は已に消費を研究せしときに注意せし處のもの、即ち生産上要求せらるゝ努力及び犠牲と之に對して消費より得らるゝ慾望の満足との平衡が、凡べての經濟思想の眞の中心觀念たることを回想せざるべからず。多數の勞力はそれ自身満足を與ふるが如く愉快に感ぜらるゝことあるは事實なり。然れども若し如斯き勞力にして社會の需要する財貨を生産するに充分ならざるとあらんか、勞力その物の中に未だ報酬を得ざるの他の勞力が生産に適用せられざるべからず、而して社會はこの生産に適用せられたる凡べての勞力に對して同一割合の報酬を支拂はざるべからず。乍併、多くの場合に於て愉快の感は勞力そのものよりも、寧ろ勞力の實際的又は豫想的結果より起るものなるは研究によりて知るを得べし。又吾人が將來に於て更に大な

る生産を爲すの目的を以て、今日消費のために使用し得る金銭よりも更に少く消費するとき、これ吾人が現に享受し得べき快樂を一時節制して、將來の生産を助成しつあるなり。實に如斯き場合に於て吾人は現在の不満足なる感情に優るところの満足を將來に希望するものなり、然れども吾人は現に不満足の感情を抱けり、而して若し吾人にして生産に貢献せんと欲せば、この不満足を忍ばざる可からず。

財貨及び勤勞の生産 吾人はこゝに物質的財貨及び勤勞の生産に關する説明に入るべし、何んとなれば生産の此等兩形式の間には元來區別の存するものにあらざればなり。乍併貨物及び勤勞の生産に寄與する割合は文明の進歩に伴ふて夫れぞれ異なるは言ふ迄もなきことなり。早期の經濟時代に於て慾望が緊切に感せられ、又は満足の得らるゝときのみ、人間はその必要とするところの單純たる勤勞を彼等自身のために行ふに過ぎず。而して特別なる熟練を要する個人的勤勞に對する慾望の生ずるに至りたるは其後のことなり。社會の組織は漸を追ふて複雑に進めり、而して新らしき慾望を生じ、此等慾望を満足せしむべき資力も増加せる結果として人々の間に勞力の分立、即

ち分業を生じ、こゝに或ものをして歌謠者、詩人、醫師、僧侶たらしめ、彼等の階級をして個人的勤勞の生産に従事せしむるに至れり。更に物質的財貨の生産が優良に組織せらるゝに至りたるときは、人間の努力を要するの割合、比例的に減少することとなり、こゝに多數の人々は社會に對して、種々の個人的勤勞を寄與するために彼等の訓練と努力とを専門化するの有利なるを了知するに至れり。

摘要

- 一、生産とは實質的萬有に人力を適用して效用を創造するの謂にして、物を創造するの謂にあらず、この人力の適用は即ち勞力なり。
- 二、個人的財富は必ずしも社會的財富にあらず。
- 三、多くの生産的要素—假令へば家庭に於ける婦人の仕事、若くは家庭用に向ひて自然的生産物を収集することの如き—は屢々看過せらるゝものなり。
- 四、所謂一般的生産過剰なるものはあらず、此の如き言葉の用ひらるゝときに考ふべ

きは寧ろ消費不足或は不均衡生産と呼ぶるものこれなり。

五、文明の進歩と共に、増加する人間精力の一部は専ら個人的勤勞を専門化するために用ゐらるゝものなり。

復習問題

- 一、生産の定義を與へよ、消費の定義と生産の定義とを比較せよ。
- 二、何故に而して如何にして醫師は生産者なるか、同じく教師も生産者なるか、俳優も生産者なるか。
- 三、個人的財富及び社會的財富につきて二三の例を挙げよ、かく挙げたる凡べての例は財富の兩階級に屬するものなるか。
- 四、都市の膨脹するときに市街鐵道特權の價值は増加す、この價值は生産の結果なるか、其の理由を説明せよ。
- 五、生産過剰なる言明によつて通常意味せらるゝものは何ぞ、如斯きものは可能的の

ことなりや、一般的生産過剰につきて普通誤解せらるゝものは如何なるものなりや。
六、如何に多數の人々が前時代に於けるよりも個人的勤勞を爲すために生産に従事しつゝあるかを詳細に説明せよ。

研究問題

- 一、人口の増加と共に個人に對して開かれたる職業の種類が増加する事實より如何なる經濟(節約)が起りなすか。
- 二、從軍兵士が生産者なりと論せらるゝは如何なる意義よりなさるゝものなりや、竊盜は生産の一過程なりや。
- 三、一萬弗の値打ある田園は五千弗の擔保借に使用せらるゝなり、該田園及び擔保の價值は合せて一萬五千弗なりや、又は一萬弗なりや、その理由を説明せよ、この場合に於て如何様に租税は該財富に賦課せられざるゝからざるか。
- 四、貨幣價值を有せざるところの如何なる效用が家庭に於て生産せられ又は消費せら

るか。

五、獨逸は鐵道を國有とせり、如何にこの事實が北米合衆國人民の財富の國勢調査目積と比較して獨逸人民の財富の國勢調査見積上に影響しなせしか。

第二章 生産の三要件

三要件 今日運營せらるゝ生産に寄與するものに三要件あり。夫故に此等は生産の三要件と稱せらる。而して此等三要件中二要件は本來的又は原始的要件と稱せらる、何となれば該二要件は生産の初期時代の形式に於て存在するものなると共に、又第三要件は該二要件より生じ來るものなるが故なり。二要件とは勞力及び天然或は土地是れなり。吾人は此うち一、即ち土地を受動的と稱し、他、即ち勞力を能動的と稱すべし。換言すれば勞力は元來財富を生ずるところの天然物の上に働くものなり。天然の上に働ける勞力の活動より、勞力の結果を直ちに享樂せずして之を後日に延引することに依りて、資本は生じ來る、夫故に第二位的若くは派生的要件と稱せらる。即ち資本は天然及び勞力に對し第二位的にして、天然及び勞力より派生せるものなり。

一、天然又は土地

用語の意義 「天然」なる用語中に、吾人は天然によりて直接に供給せらるゝ、凡べての物質的材料と共に、生産に使用せらるゝ、凡べての天然力、即ち風力、水力、重力、凝集力等をも包括せしむるものなり。經濟學上普通に「天然」てふ語の代りに「土地」なる語を使用す、何んとなれば天然の幾多恩恵中に在りて經濟學上、吾人は主として土地を取扱ふものなればなり。然れども如斯く使用せらるゝ土地てふ語は、吾人の説明せるが如く廣義の意義を有するものなることを記憶せざる可からず。或る經濟學者は此混雜を避けんがため廣き意味を示さんとする場合には、「天然的要件」なる語を用ゐるものなり。

如何に土地は生産上働きたるか 分解的研究により吾人は土地の生産に寄與する勤勞が單一簡易なるものにあらずして、通常異れる四個勤勞の一又は一以上を寄與するものなるを學びたり。(一)その第一は立脚地又は場所を提供するとなり。場所は生産過程に執掌するにあたり、その上に居住し而して動作する處の或ものを吾人に與ふるものなり。單なる場處は都市に於ける不動産の場處に目撃せらるゝが如く屢々大なる價

fertility

値の泉源たるものなり。かくて絶えず増加する人口の大部分が都市にのみ住居するときに土地によりて寄與せらるゝこの第一勤勞は益々重要な度を増加するものなり。(二)その第二は土地自身に包有する處の天然力の利用によりて生産に寄與する者なり。(三)その第三は土地が植物生活に必要な諸要素を含有す、夫故に農耕上に勤勞を寄與す。吾人は土地の此等固有性を指して豊饒力と呼ぶものなり。(四)最後に土地はその表面下に石炭、瓦斯、重油、鐵、及び金銀の如き天然の生産物を包有す。人間は此等天然的寶庫を創造することも、亦此等の形成を支配することも不可能なり。従つて或る國民は此等天然物を以て個人の所有財産となすを不條理と考へ、而して夫故に之を共通的繼承財産として取扱ひ、若し個人にして之を利用する時には地代又は借地税を要求したり。如斯きは今日歐洲大陸を通じて一般の狀況なり、然れども英吉利法は私有權を認むること廣大なる傾向ありて、反對に土地の表面を所有する人は下方地球の中心に及び上方蒼空に至るまで尙ほ所有權を有すてふ思想を養成したり。

報酬漸減の法則 經濟學上尤も根本的にして且つ重要な諸法則の一は土地或は他

の天然的要件の上に勞力を應用し、及び資本を放下するより生ずるの結果を敘述するところのもの是なり。該法則は報酬漸減の法則と稱せられ、特に意を用ひて研究するの價値あり。こゝに吾人は農業に應用したる該法則の研究より始むべし。

各農夫は其耕作の土地に放下せる勞力及び資本の支出より有利に出來得るだけ多くの收穫を得んと欲するものなり。尙ほこの説明には或る限界のあるありて報酬を制限するものなること、即ち此限界を超えて更に放下したる出費は比較的に不利益なるものなることをも含有す。何が故に該限界は存するか、及び其限界は何に依りて決定せらるゝかは茲に研究せんとする問題なり。例令へば馬鈴薯の耕作に使用せらるゝ「エーカー」の土地ありと假定せよ、扱その土地たるや急速に且つ粗雑に耕作せらるゝとも、又何等肥料の使用せられずとするも、又は荒廢を防ぐために蔓草の芟除に注意の加へられずとするも、幾分の收穫は得らるべし。尙又農夫は耕作上に更に資本と勞力とを加へたらんには更に多くの收穫を得べく、而して農産物の價格が相當に高からんには、その増加せる收穫は増加せる出費を償ふて尙ほ餘りあるを知るなり。かくて若し

耕作上起り得べき状態を明了にせんが爲に之に對する農夫の意見を求むることあらんか、吾人はその農夫より左表の如き見積書を得ることあるべし。

投資額	收穫より得べき全報酬	投資一弗に對する平均報酬
(1) 五弗	四〇「ブッセル」	八「ブッセル」
(2) 一〇弗	一〇〇「ブッセル」	一〇「ブッセル」
(3) 一五弗	一六五「ブッセル」	一一「ブッセル」
(4) 二〇弗	二〇〇「ブッセル」	一〇「ブッセル」
(5) 二五弗	二二五「ブッセル」	九「ブッセル」
(6) 三〇弗	二四〇「ブッセル」	八「ブッセル」
(7) 三五弗	二四五「ブッセル」	七「ブッセル」

まづ暫時、此圖表が如何なるものなるかにつき注意して考慮すべし。第一上段に於ける投資は一「エーカー」を耕作するために放下せられたる勞力及び資本を弗貨に評價して表示したるものなり。夫故に若しある特殊點に於て農夫が投資と同様なる貨幣の

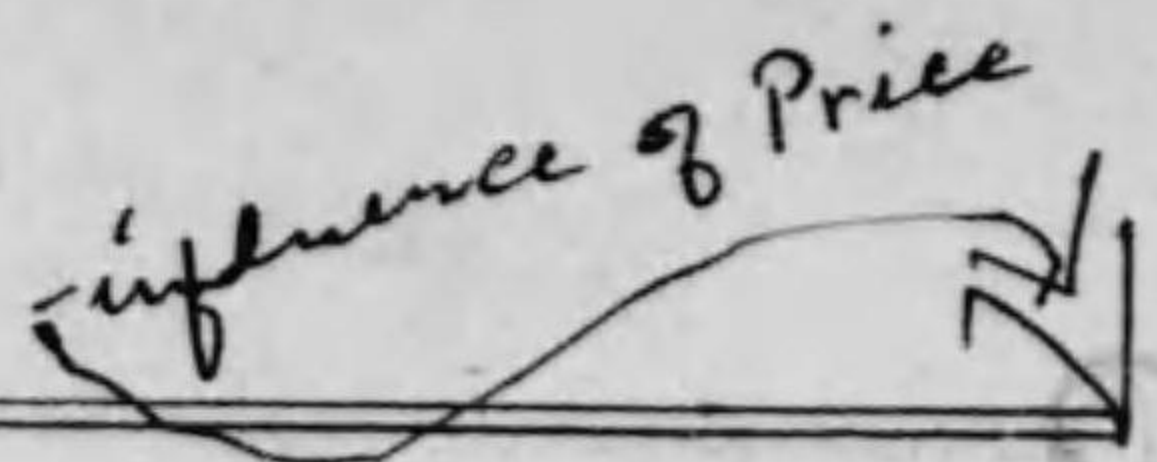
數量にて賣却し得べき生産物を得たらんには、彼はその勞作及び期待に對して充分に報償せらるゝものなり。更に又説明を簡單ならしむるために、該投資はその生産物を賣却するの日に於て「エーカー」に放下せられたる勞力、及び資本に加へられたる利子に對する定限額を抱括するものとして考へらるゝなり。然れども該上段に於ける數字は土地の使用に對する如何なる支拂をも抱括せざるなり、何んとなれば吾人はこゝに耕作に要する費用のみを考慮しつゝあればなり、更に又後に説明せらるゝが如く、吾人の現に試みつゝある研究は如何に、而して何故に或ものが土地の使用に對して仕拂はれ得るか、而して又若干か或る一定状態の下に仕拂はれ得るかを吾人に表示するものなり。第三下段に於ける數字は第一上段に於ける數字によりて、第二中段に於ける相對數字をて除して得たるの商數なり。圖表につき以上の説明により吾人は如何に報酬漸減の法則が解説せらるゝかを知らんと欲す。

圖表中の數字を検するに、五弗の出費を二倍して十弗に増加するとき、生産物の數量が二倍以上に増加し、而して之と同様に生産物の増加は、その追従する次ぎの場合に

於て出費の増加よりも其割合の更に多きを知るべし。然れども出費が十五弗より二十弗に増加したる時に、その生産物は、百六十五「ブッセル」より二百「ブッセル」に増加せるに過ぎず、即ち出費の増加は三分の一に當るに拘らず、生産物の増加は僅かに五分の一強に過ぎざること注意到し、而して又同様なる方法にて次ぎに出費を四分の一の割合にて増加する時に、生産物増加の割合は僅々八分の一に過ぎざること注意すべし（以下準之）。換言すれば或る點まで、出費の増加——こゝには投資十五弗によつて表しせらる——は一樣なる割合又は夫れ以上の割合にて、之に對する報酬を増加するものなり、これと同時に或る程度に達したるの後、更に出費を増加するときは、之に相當する報酬の増加を比例的なるよりも少からしむるものなり。若し此事實にして存在せざらんか、土地耕作上資本の放下及び勞力の使用は無制限に行はるべく、農夫は「エーカー」の土地耕作に資本及び勞力を有利に使用し得るものなり。然かも、到る處、農夫が如斯き利益ある出費の數量に關して嚴酷に制限せらるゝの事實あるは、報酬漸減の限界點が天然的要件に勞力及び資本の適用せらるゝ時に必然に存立するを明

白に立證する者なり。圖表に於て生産の最少平均費用は十五弗の投資に於て、又はその附近に於て見るべし、而して最少費用にて生産せらるゝ、「ブッセル」は數字の表示するかぎり同一點にありとみるべし。乍併若し繼續的假定的投資の行はるゝ間隔が極めて短時間ならんには、最少平均費用の點と、最後の又は限界的「ブッセル」に對する最少費用の點とは到底一致するとなかるべし。何んとなれば最少費用の「ブッセル」が到達せらるゝときに、假令以前のものよりは更に多くの費用を要すと雖も、尙ほそれにも不拘次ぎの繼續的「ブッセル」はその點に到達するまでに生産せられたる凡べての平均費用よりも更に少き費用を要するものなることの發見せらるればなり、而して夫故にさきに費やせしところのものを包括してその平均費用を低減すべし。最少平均費用の點——最少限界的費用の點を較々越えたる——は實際に報酬漸減の點なり、然れども、圖表に於てこの相違は明白に表示せられざるなり、而して如斯き相違を説明することは實際上さまで重要なものにあらず。夫故に今後或る實際的結果を生ずるにあらざるかぎり寧ろ之を不問に附すべし。

Influence of Price



さて更に考ふるに農夫は必ずしもその生産物が關係的に減少し始めたるの耕作地にその出費の繼續を中止するものにあらざるや明かなり。有利の出費の制限——或は耕作の内容的限界——はその生産物の豫期せらるゝ價格如何に關係するものなり。かくして「ブッセル」が十仙の價格なりとすれば農夫は前掲圖解に於ける第二、第三及び第四の場合を除きたる凡べての場合に於て必ず損失する者なり、而して彼が剩餘、即ち利益を見るは唯第三の場合に於てのみなり。又一「ブッセル」が九仙の價格ありとすれば彼は必然耕作に努むることなかるべし。他の一方に於て「ブッセル」の價格が壹弗ならんには、彼は「エーカー」に對し三十五弗の費用を惜むことなかるべし、何んとなれば此場合最後に増加せる五弗の出費は排作に使用せられたる限界的勞力、材料其他に對して充分に報償し得るところの五「ブッセル」の増收を與ふるものなればなり。夫故に吾人は出費の増加するに伴ふて報酬の割合が漸減するに二個の場合あることを云ひ得べし、即ち一は生産物の數量を立脚點として觀察するの報酬漸減にして、他は生産物の價格を立脚點として觀察するの報酬漸減なり。價格の上より見たる第二の報

酬漸減は勿論農夫にとりて決定的のものなり、然れども之とて自ら生産物の數量によりて計算せられたる報酬漸減に基礎を有するものなり。

さてこゝに殊更に注意すべき一事あり。そは該法則の性質に關するの不完全なる理解より、往々人口の増加につれて土地より生活必須物を得るの困難が益甚しきを加ふるものなりとの結論を生ずるに至らしめたるこれなり。然れども此結論は社會の歴史上洽なく知られたる事實と相違するのみならず、該法則が正當に説明せらるゝと

きに、法則そのものとも相違するものなり。實に如斯きの結論は、若し報酬漸減の限界點にして年を重ね、代を更ふるとも到處に於て同一點に止まるものならんか、始めて確實なるを得べし。然れども如斯きは實際に於て極めて遠き最後の假想たるもの也。農耕の技術は改良せる手段及び方法の發明及び發見の結果として絶えず改新せられつ

農耕の技術の改良
人口の増加
報酬の漸減
土地の減少

Influence of investments & Improvements

而してこの限界點を超えて更に「エーカー」の土地に加へられたる資本及び努力の増加は比例的割合よりも少き報酬を與ふるものなり、然れども現時にありて此限界點は往時に於けるが如く直ちに達せらるゝものにあらず。

以上論述し來りし報酬漸減の法則につきてこゝに正式的説明を與ふべし。一定の時に於て天然的要件の單位に對し、努力及び資本を放下するにあたりて、一の限界點あり、此限界點を超えて更に加へらるゝ資本及び努力の放下は比例的割合よりも少き報酬を與ふるものなり。

以上の解説に於て便宜上農業に放下せられたる努力及び資本の場合を採れり。然れども該法則は土地及び鑛業、製造業及び商業の場合に於ける他の天然的要件に對し、努力及び資本の放下せらるゝ時にありても同様に眞實なるものなり。唯その相違せる點は此等産業にありて、報酬漸減の限界點が達せらるゝ以前に、農業の場合に於けるよりも努力及び資本の更に大なる數量が土地の一定單位——即ち「エーカー」——に放下せらるゝことなり。

報酬の漸減
土地の減少
努力の増加
資本の増加

報酬漸減の法則に關する以上の説明は經濟學上分解的説明として尤も多く用ゐらるる者の一なり、而して該法則説明の此形式は、如斯き法則の參照として用ゐらるゝ時に、他に言明的に説明せられざる限り、常にこの形式の如くに解釋せらるゝ者なり。然れども此處に採用せられたる以外の他の觀察點よりも報酬漸減の法則を説明し得べし。一例をあぐれば、單位として「エーカー」の土地を擧げ、而してこの土地に放下せらるゝ勞力及び資本の數量を豫想する代りに、吾人は農夫自身を單位となし、この單位たる農夫にその使用に任かすべく繼續的に土地、勞力、及び資本を加ふる場合を想像し得ざるにあらず。この場合に於て吾人は又始めに報酬の増加するを見、而して次ぎに漸減するを見るものなり、而して同様なる仕方にて吾人は資本の一定量又は單位と共に地及び勞力の増加したる定量とを結合したるところの結果を考慮し得るなり。

二、勞力

定義 生産の意義的又は原始的要件の第二は勞力なり。勞力は效用を創造するの目

的を以て企てられたる人の心力及び體力の勞役なり。

普通の分類は身體勞力と精神勞力とを區別す。此區別をなすに就て記憶すべきことは純粹なる精神勞力と、純粹なる身體勞力との間に常に兩者の抱合したるものゝあること是なり。哲學者又は思想家が其思索せる思想の結果を社會に發表せんと欲するや、手と舌とを以て勞働せざる可からず、而して他の一方に於て溝渠鑿掘者と雖も何等智識の作用なくしては其業務に従事すること能はざるなり。

かくして吾人は勞力、それ自身が目的に非ずして、却つて目的、即ち慾望の満足、を充實するの手段たることを忘る可からず。さてこの思想を堅く心に留めたらんには人間慾望の満足を増加するものに非ざる場合に、勞力の増加が社會的に願はしきものに非ざるを了解するに難からざるべし。窓硝子を破壊するは勞力に對して機會を與ふるものなり、然れども其結果として人間の満足を増加しなさざるなり。他の一方に於て勞力を節約すべき工夫は或は個人的勞働者を妨ぐることありとするも、全體として社會に利益あるものなり、夫故に此等の工夫は同様なる努力によりて更に大なる満足を得せ

しむるものなり。

國民の勞働力 勞力と關聯して最も重要な問題は國民勞力の總數量を支配すべき事情に關するもの是なり、而して國家勞力の總數量とは國民の勞働力と稱せらるゝところのものなり。さて何ものがこの勞働力を決定するものなるか、明かにこれ單なる數のみに非ず、何んとなれば或る一國に於ける百人の勞働者は他の國に於ける同數の勞働者よりは遙かに多量を生産し得るの勞力を供給するものなるが故なり。該問題の分析的研究は國民の勞働力を決定するに二個の要素あるを示せり、二個の要素とは(一)能率及び(二)數量これなり。

(一)勞力の能率 (イ)第一に勞力の能率は勞働者自身の能率によるもの、即ち彼等の精神上、身體上、道德上の性質に依る者なり。節制、誠實、熟練、敏活、神速なる識別、包括的理解、——總て是等の優良なる性質は勞働者の能率に寄與する者にして、頓て勞力の能率に寄與する者なり。而して此等性質の構成に關して、勞働者が養成せらるゝのみならず、又彼等が勞働に従事する處の物質的及び社會的環境は最も重要な關係を有す。

(ロ)勞力の能率に必要な條件たる第二の勢力は勞力が組織せられ、且つ指揮せらるゝ方法の如何によるものなり。このことに關しては次章に於て別に論せんと欲するも尙、此處には勞力が注意して組織せられ、且つ指揮せらるゝときに、各勞働者が其最も適合せる勞作を繼續的に爲し得るものなるが故に、如斯き方法によりて用ゐらるゝ勞力は無定限に益、有效となるものなると注意するの必要あり。

(二)數量 國民の勞働力を決定する第二の要件は其總數又は數量、是れなり。此要素は(イ)部分的に勞働者の勞働に従ふ時間の合計數に依るものなり、即ちこの合計數は勞働する日日の勞働時間の長さとして一年間に於ける日曜日、祭日等の勞働日數等によりて異なるものなり。一日十時間の勞働は一日八時間の勞働よりも勞力の大なる數量を意味す而して、夫故に其能率が長時間の勞働によりて割合上阻、止せられざる限り、勞働力は更に大なるものなり。國民の勞働力は、他の事情に變化なき限り、(ロ)勞働者の可能的増加を意味するところの人口増進と共に疑ひもなく増加するものなり。

「マルサス」の人口論 さて人口の増加につきて生活資料を獲得し得べき方法により

て表示せらるゝ制限を除きて絶對に制限なるものなし。今日まで記録せられたる歴史を通じて吾人は再三再四、或國に於ける人口の増加を見ると共に、他の一國に於ける人口が饑餓の點にまで、即ち生活資料が出生する處の總人口に對して供給の不充分なるに至りしまで、増加しつゝあるを見るなり。而してこの事實より人口の過剰が過去に於て起りたりしが如く、將來に於ても常に繰回さるゝならんとの恐怖は起れり。如斯き恐怖によりて強く刺激せらるゝところの人々は屢「マルサス」主義と稱せらるゝ原理を彼等の唇頭に上すに至れり、而してこの原理は十八世紀の終り頃より十九世紀の三分の第一期頃にかけて生存し、而して著述せしところの英國經濟學者トーマス・ロバート・マルサスの名に負ふものなり。該原理に依れば、人口は幾何學的比例によりて（即ち二、四、八、十六、等の如く倍數によりて）増加するの傾向あり、同時に食物の場合に吾人の希望し能ふところのものは數學的比例によりて（即ち二、四、六、八、十等の如く附加することによりて）増加することなり。而してその結果として若し食物以外なる他の抑制が人口の増加に加へらるゝことなからんか、人間は直ちに饑餓の限界點に達するに到るべし。

人口増加に加へらるゝ積極的及阻止的抑制 さて「マルサス」の原理より觀察して次の如き人口抑制の存立が認容せらるゝものなり、即ち其等抑制に二種類あり、即ち積極的抑制及び阻止的抑制是なり。積極的抑制は生存者の死によりて作用するところの抑制なり、即ち流行病、惡疫、放縱、殺兒、食人及び戰爭の如き事情によりて死亡率を増加するところの抑制なり。此等の積極的抑制は自然に避くべからざるものとして起り來る排他的悲運たるべし、又此等の抑制は悲運に誘致するところの不道德より間接に生ずることあるものなり。阻止的（又は消極的）抑制は出産率を低下することに依りて作用するものなり。此等の抑制は親として不能力者たるの結果を生ずるところの惡徳によりてか、又は「マルサス」が之を「思慮的節制」、即ち結婚を延期し及び回避し、又は家族の生成を回避することによりて行はるゝものなり。注意深き人は妻女を支持し兒童を養育し得るに非ざれば其結婚を延期す。人口が稠密となるや、如斯の人は家族を養ふ責任の重、且つ大なるを知りて結婚を延期し又は之を回避す。かくて結

婚の平均年齢の上進と共に、小兒分娩の数は同一比例に於けるよりは更に多く減少するものなり。結婚及び人口を抑制する社會的必要より生じたるところの無数の風習は世界到處に存在す、例へば或る農村社會に在りては一茅屋が前住居者の死亡によりて空虚となりたるときにのみ結婚の行はれたるが如きこれなり。「マルサス」も結婚に關し定式的に自ら左の演繹的立言をなせり、普通、即ち一社會に於ける平均數の家族を支持し得べき合理的見込の立つに到るまでは、何人と雖も結婚すべからずと。彼は英國人間に親たるの感情を嚴密ならしめんと願ひたるものなりき。

「思慮的節制」マルサスの力説するが如き思慮的節制は容易に人口過剰の危険を防止する方法として行はるゝに至るべしと考ふるを得ん、然れどもマルサスは彼自身に於て屢、人が漸次に進みゆく文化のうちに抱括せらるゝ希望あるを忘れ、かへつて將來に關し悲觀的見解を懷くに至れり。かくて、マルサスの悲觀的推理を繼承せる他の學者は繰回さるゝ人口の過剰より、その結果として生ずる惡徳と不幸とが人類にとりて避け得べからざるものと考へたり。如斯き悲觀論のあるに拘らず、近世の文明は繁

榮を人民の間に傳播したるが故に、人口過剰の問題は大にその憂ふべき方面を失ひ、却りて希望に導くべき諸因を生せしむるに至れり。

統計學者は文明の進歩が到處出産割合に於ける減少の伴ふべきを結論的に表示せり。この出産割合の減少は、その尤も極端なるところの佛蘭西に於て始めて現はれたるといふべし、而し後年に至り佛蘭西及び其他の諸國に於て有福階級より職人階級を通じて最貧民階級に至るまで出産割合の減少が益、甚しきを加ふるに至りたるを表示せり。如斯く、大體に於て假令程度の異り又興味ある相違の認めらるゝとしても、この傾向が殆んど總べての進歩せる文明諸國、地方、人種、宗教及び社會的階級の人民間に行はるゝを見るなり。如何なる程度にこの傾向がマルサスの敘述せしところの思慮的節制の表明、又は伸長なるかは尙ほ或程度までは論争の餘地あるものなり、しかも如斯き議論に入るは提要的なる本書の如き限りある紙面に於て善く盡し得ざるところのものなり。

人口と生活の標準

後に賃銀及び勞働問題に關する章に於て吾人は較、詳細に生活

の標準——人民が享悦するを常とするところの必需品、快意品及び便宜品の總量——が人口の上に働くところの勢力を研究せざるべからず。而して吾人はこゝに生活の標準が高度にして、且つ健實に維持せらるゝ處に於て、この生活の標準を脅かすところのものは、その如何なるものなるにもせよ、已に説明したる阻止的抑制となりてその作用を起すに至るべきものなることを注意するに止むべし。然れども生活の標準は絶対に固定せらるゝものにあらず、而して阻止的抑制の作用によりて起る人口の變化は唯徐々に來るものなり。夫故に生活の標準が繼續的なる國民的災害又は下幸によりて侵さるゝときに、次代の國民は低き生活程度に甘せざるを得ざるに至るべし、而して低度の生活標準に依るが爲めに、人口の更に大なる増加は可能のことにして、又自然のことなるべし。如斯き人口増加の可能性は殆んど考慮せられざりしところの戦費の一部を表示するものなり。

人口増加の二源泉 全世界より離して各國を別個に觀察するに、如何なる國にても人口の増殖に關して二個の源泉を有す——自然的増加及び移民是なり。自然的増加は

如何なる國に在りても死亡數に對する出産數の繼續的過剩によりて起るものなり、換言すれば平均して出産率が死亡率より多きことによりて起るものなり。乍併此の如き人口過剩は種々異なる幾多事情の何れよりも生ずるものなり。かくして露國の如き國にありては死亡率甚だ高きもその出産率が更に一層高きを以て人口は増加す、然るに他の國、即ち英國の如き國は出産率低きも其死亡率が一層低きを以て人口は増加す。勞力に堪へ得る人の割合、即ち國民の勞働力の割合は死亡率の低き所に更に大なるべきは明白なり。又明かに人口の増加は此等事情の何れかその一に基因するの相違によりて一國の眞の幸福に大なる相違を生ずるものなり。我が合衆國の人口は自然的増加及び移民の兩途より、一世紀間餘に驚くべき速度を以て増加せり。現時の歐洲大戰の開始せらるゝに至るまで移民は年々間斷なくその増加を繼續せり、而して假令へ出産率は次第に低落しつゝあるにせよ、その死亡率が殆んど絶えず低落したるが故にその結果として人口の自然的増加は抑止せられざるなり。

資本

資本の定義 生産の第三要件、即ち第二位的又は派生的要件は資本なり。資本は土地又は勞力そのものにあらずして、此等兩者より派生す、しかも特殊の性質を有する一の新らしきものなり。日常の談話に於て「資本」なる語は經濟學上の用語として考ふるに全く資本に非ざるところの事物を表示するために屢、漫然と使用せらるゝものなり。かくしてこの資本なる語は土地をも抱有するものゝ如くに使用せらるゝなり、何んとなれば多くの關係上、營利事業に従ふ人々にとりて、其使用する土地と機械との間に甚しき相違あらざればなり。尙ほ學問上、この二者は截然區別すべき者なり。又事務的才能は屢、箇人的資本として記述せらるゝ者なり、而して此比喩的表明の用ゐらるゝは該種才能が價值を有すといふにあるなり、然ども如斯き用語はただ比喩に過ぎざることを常に記憶せざるべからず。土地は天然なり、資本は人間の生産せるものなり。勞力は勞動者の人格と聯絡して分離せられざるものなり、而して資本は此勞力よ

り生ずる物質的の物なり。日常の談話に於て實業家は更に屢、其會社組織なると、然らざるとに不拘、會社の資本株式の總量或は價值、土地、建物、商業株式、請取勘定、銀行預托金及び手許在金等を抱括せる現商賣の全價值の何れかを記述するために資本なる語を使用するものなり。夫故に此處に嚴密なる注意の必要なことは生産の第三要件を表示するために經濟學者によりて用せらるゝところの用語資本は、將來の生産の目的に對して使用せらるゝところの中間的生産物より成立すといふことは是なり。更に略語すれば、資本とは生産のために使用せらるゝ生産せられたる道具を意味するものなり。

資本的財貨の種類 資本は生産的手段として二個の本來的生産力を働かしむるところの仲介者なり。資本は建物、機械、器具の如き(一)凡べて人爲的なる生産助成物を含むのみならず、又將來の生産に用ひらるゝ牛皮若くは鐵塊の如き(二)凡べての未完了財貨、而して又(三)最終消費者の所有に達するに至らず、然かも尙ほ場所及び時間效用の加へられつゝあるところの消費者の完了財貨をも含むものなり。此等部分的に製造せ

られたる材料は學問上「熟成過程」中にある者として説明せらるゝなり。最終消費者に所有せらるゝ充分に熟成したるの財貨は、假令その巧みなる使用により新資本は得らるるにもせよ、最早資本として考ふべきにあらず。

資本の職分 資本の職分は次ぎの如く説明し得べし——即ち人をして直接なる生産方法の代りに間接なる生産方法を使用して天然の材料及力を最も完全に利用せしむる（こと其一なり）、間接なる生産方法は對して器具を備ふること及び第一次の努力と最後の結果或は消費との間に於ける間隙を成べく長からしむることによりて生産の結果を完成する（こと其二なり）。間接の生産方法は殆んど例外なく直接の生産方法よりも一層有效なるものなり、然ども是等の方法は器具又は機械を必要とし、且つ生産の長期に亘るものなり。かくて人は他の助力なく自己の體力に依頼する代りに杆槓を使用する間接方法によりて更に重量大なる物を動かし得るなり、何となれば彼は如斯にして自然力に援助を求めたればなり。而して機械に於ける各種の進歩改良は勞力應用の最も間接なる方法なり。夫故に資本的生産は其發達すると共に最初の着手より最後

の生産に至る間に階段の數を増加し、而して一般にその間隙の長さをも増加するものなり。改良は屢々功程を短縮するもの、如く考へらるゝなり、然れども吾人をして充分なる研究に歸るときに、吾人は以上説明したる所の法則が一般に正當なること、及び該法則は資本的生産の尤も顯著に且つ重要なる諸原則の一に注意を向けしむることを知るなり。學生諸君は資本的又は迂回的功程の最終階段を全生産工程と混同するの陥り易き誤謬に自ら陥るを避けざるべからず。鐵道列車に乗車することは、車中に座席を占め而して空間を貫きて進行することよりも更に多くを意味するものなり。即ち汽車に乗ることは數年の過去に遡りて鐵道路床、橋梁、客車、及び機關車を造り、更には順次に作られたるところの資本の初期に屬する種々の形態を作り、而して其他幾多の歳月を重ねて人心に侵透するの事業を成したる人間の努力を意味するものなり。されば又農家に使用せらるゝ連枷機を善く注意するに當り、吾人はまづ第一に該機械が甚だ迅速に穀物を打ち落すことのみを心に留むるものなり、然れども該機械の生産に入り込る無數の階段と及び如斯く考慮せらるゝときの生産工程の延長とに回想す

るに至るまでは吾人はこの場合に於ける資本の眞職分を理解し得ざりしなり。勿論迂回的方法は目的にあらずして、目的を達すべき手段たるに過ぎざるなり。

資本の根源 資本は貯蓄の結果なりとは屢唱へらるゝ所なるが、此場合斯の如き資本の説明は少くとも誤謬たるを免れず、貯蓄は唯消極的に動くのみにして決して積極的な結果を生ずるものにあらず。吾人は貯蓄せんが爲に、まづ第一に貯蓄し得べき或物を有せざる可からず——即ち吾人は先づ第一に生産せざる可からず、而して更に其上、生存上必要なよりも更に多くを生産せざる可からず。換言すれば吾人は剰餘を有せざる可からず。若し如斯く生産せられたる剰餘が取置かれ、又は貯蓄せらるゝならば、**該剰餘は資本たるを得るなり。**

資本構成の方法 右の如き貯蓄が將來の生産に向つて直接、又は間接に使用せらるる時に資本たるものなり。貯蓄せられたる剰餘が資本に轉形せらるゝ最も單純なる方法の一は漁夫の場合を探りて説明するを得べし、彼は或時期に於ける漁獲物の或部分を以て自己の生活を支持すると共に、彼はその將來の勞力に對する生産を増加せんが

爲に小舟又は網を作り、又は他の装置をなす爲に勞働するものなり。進歩せる社會にありて、此等の手續は常に複雑なり。例へば農夫が收穫機の結束機を要する場合に直接に貨幣を支拂ひて購入すべし。然れども其貨幣は農夫が耕作より得たる收穫の剰餘を貯蓄したるものに對し報酬として受取りたるものなり。同時に農事用器械の製造を完成するに至るまで、種々の生産工程に参加し作業しつゝあるの人々は、前拂として剰餘より支拂はるゝことによりて彼等の生活を維持し得るものなり。製造業者の場合に在りても亦同様なり。製造業者は其生産物を賣却し、而して賣却の結果即ち代金を生活の料に消費するを得べし、或は總額よりは少く消費し、而して其殘金を以て自己に必要な形態をとれる資本を他より購入し得べし。又凡べて必要な機械を所有するに至りたる場合に、彼は其所得の剰餘金を或會社の株券に投資するを得べし。又此等の場合に於て該會社はこれを必要な資本財貨の購入に使用し得べし。而して凡て此等の場合に於て貨幣の使用は取引の性質を錯雜模糊たらしむるものなるが、此等取引の性質は、結局するに消費者財貨の生産を増加し且つ容易ならしむるために社會

勞働力の一部を完了消費的財貨の生産より資本的財貨の生産に轉向せしむるものに外ならず。

さて以上敘述せるところを摘要して、吾人は資本構成上に於ける階段を論理的に次の如く區別するを得べし、即ち(一)現在の必要を超えたる生産、(二)該生産物の或部分の消費を延期すること、及び(三)將來の生産を成べく大ならしむるために貯蓄せる剰餘の使用これなり。

資本使用の結果

茲に資本使用の結果に關して二三説明を要するもの残れり。その

(1) 第一は資本は生産物の數量増加を可能ならしむることなり。即ち資本を使用することなく單に手にのみにより生産せられたりしところの物は、資本を使用することによりて更に多く生産せらるゝ者なり。(2) 第二に資本は之を使用することなくしては全く享悦し能はざるところの或財貨の生産を可能ならしむるものなり。かくして海岸を遠く離れたる地方にありて牡蠣、若くは他の貝類に對する慾望は、運搬業に投せらるゝ資本なくしては到底満足を得能はざるべし。(3) 第三に資本は多くの場合に於て資本を

使用せざりし時よりも生産物の品質を高尙ならしむるものなり。

表現的財貨 若し稱して財貨といひ得るならば、所謂財貨の一種類は該用語の學術的意味に於て、特に資本より區別せざるべからず。この種財貨は吾人の早くより表現的財貨と稱するところのものにかゝれり、しかも社會の見地より觀察したらんには全然財貨に非ずして、ただ財貨の所有權を表現するの符號たるに過ぎざるものなり。手形、抵當、證書、債券及び株券の如きは社會的財貨に非ずして、單に所有權を表現するものなり。又特殊權利は社會的資本の一部にあらず。都市が市街鐵道の敷設及び運轉につきての特權を一會社に許可したるときに、それにより直接に新資本を生ずるものにあらず。都市は單に現存する社會的資本の使用をなすべく、又は社會的資本を創造すべく許可を與ふるに過ぎざるなり。

固定資本と流動資本 經濟學者間にありて普通に資本を固定及び流動の二種に區別す。流動資本とは唯一回或はその運用の一回轉にのみ使用せらるゝの資本にして、その價值の全部は直ちに完成せる生産物の價值に轉移するものなり。他の一方に於て固

定資本とはその繼續的運用を通じて連續するところの資本にして、其價值の一部分のみがその使用の度毎に生産物の價値に轉移するものなり。かくして製造に使用せらるる原料品及び半製品は流通資本の適例にして、工場の建築物及び機械等は固定資本の適例なり。

自由資本と特定資本 以上説明せるものと稍類似するも實際は、全く異れるところの分類は自由資本及び特定資本即ちこれなり。如斯く分類する場合に、此等用語は普通に於けるよりも更に多く關係的觀念によりて理解されざる可からず。特定資本は其形式及び事情により單に生産の一部門にのみ、若くは概ね生産の制限せられたる種類の數種の部門にのみ使用せらるるものなり。他の一方に於て自由資本は生産の種々なる種類の多數部門の何れにも適用せらるるところの資本なり。かくて石炭、鐵、獸皮等は比較的に自由なる形式をとりたるの資本なり、鐵道、運河及び多數の機械類は關係的に特殊化せられたるの資本なり。此區別の實際的重要は資本の自由なる形式が財貨に對する社會的需要に於ける變化に能く順應し得るの事實に存するものなり。か

くして若し國民の資本のあまりに大部分が鐵道事業の如き特定の形態に轉向せられたらんには、其誤謬は容易に且つ急速に矯正せらるべくもあらずして、其國の全生産は不良なる調節の爲に苦しまざる可からず。此の如き不釣合なる資本の放下は或經濟學者によりて恐慌及び産業的不景氣の最も重要な一原因として考へらるるものなり。

摘要

- 一、生産の三要件中土地及び勞力は第一位にして又本來的のものなり、資本は第二位にして、派生的なり。
- 二、土地は場所、自然力及び天然の富源を供給す。
- 三、勞力は效用を創造するを目的として、人間の精神及び身體を働かすところの努力を意味するものなり。
- 四、國民の勞働力は國民の能率及び數量によるものなり、能率は個々勞働者の能率に基くと共に又其組織の能率によるものなり、勞働數量は總勞働時間及び勞働者數に

よるものなり。

- 五、資本は將來の生産に向ひて用ひらるゝ中間的生産物より成る。
- 六、資本の構成は貯蓄又は可能的消費の延期に依らざる可からず。

復習問題

- 一、人口の抑制となるべき二三の例を挙げよ、如何に生活の標準が人口増加に影響しなすか。
- 二、何故に土地は資本と區別せられざるべからざるか、地上の建築物は如何なる種類の資本なりや、五年前に使用せられしところの肥料は如何なるものなりや。
- 三、如何なる利益が生産の間接的又は迂回的工程より得らるゝか、小麦生産の間接的工程の展開に於ける階段ステップの二三を挙げよ。
- 四、自由資本及び特定資本間の相違を區別せよ、又固定資本及び流通資本間の相違を區別せよ、表現的財貨とは如何なるものなりや。

研究問題

- 一、如何なる意味に於て勞力は凡べての財貨を生産するものなりといふことの眞理なりや、又如何なる意味に於て資本は生産的にあらずといふことの眞理なりや。
- 二、資本は人間との關係に於て自働的なりや、又他働的なりや、天然との關係に於て自働的なりや、又他働的なりや。
- 三、休養のためなる「テニス」遊びは遊戯として分類すべきか、又は仕事として分類すべきか、又好事的「ベースボール」、職業的「ベースボール」、而して強盜は如何に分類すべきか。
- 四、本章に於ける分解的研究の見地より米國の勞働力を論せよ。
- 五、幼兒死亡の永續の高率は如何なる結果を勞働人口の割合上に與ふべきか。
- 六、小麦「ブッセル」の最低平均費用と最低費用との間に於ける相違を表示すべき方法として報酬漸減の法則を説明すべき圖表を作るべし。

第三章 生産の組織

前章に於て吾人は生産の三要件につき考慮すべく、別々に各種要件の性質を研究し更に其能率と、其生産増加を支配する處の原理とを闡明せり。茲には現時に於ける生産が社會化せられ且つ組織化せらるゝに至りし、多種多様の方法に關して研究の歩を進めざるべからず。吾人は假令ば既に一機械の種々なる構成部分の性質を研究したる者の如く、今や此等の各種部分を組立つべき種々なる順序と方法とを研究し、而して該機械が組立てられたる時に如何に全體が單位として働きたりしかを學ばざるべからず。

一、集動的に觀たる生産要件の組織

往時の生産組織は單純なりき 生産てふ大なる機關の三大部分が土地、勞力及び資本なることは已に之を論せり、而して夫故に先づ始めに此等の部分が如何に有效なる仕事を爲すために結合せらるゝかを考察せざる可からず。換言すれば、茲に論せんと

する最初の問題は共同的又は集動的に働く生産要件の共同作用、又は組織に關するもの是なり。この生産組織は社會發達の當初の時代に在りては非常に單純なるものなりき。古代の家内經濟はもし其事の今日一般に行はれしとするも生産上其等三要件を區別し得ると考へ及ばざりしまで單純に組織せられたりしなり。即ち同一人は土地、勞力并に資本を所有し、而して正當なりと信せらるゝ判斷によりて全生産物は其生産を幫助せる人々の間に分配せられたりき。文明の進歩と共に生産が村落により行はるゝに至りたるの時生産上必要な器具は共同的に所有せられ、又生産は共同支配によりて管理せられ、而して生産物の分配は風習によりて支配せられたり。其後、産業及び商業の「ギルト」制度の下に於ても生産の三要件間に嚴密なる區別はあらざりき。中世期の「ギルト」は年期奉公人、職人及び親方の三者を包括せり、而して「ギルト」は統御的監督の下に産業及び商業を支配せり。親方(主人)は營業を指揮し、資本を有し、而して自ら勞働せり。彼は奉公人を給養し、而して職人に支拂ひたる後に商賣より得たる全生産物を收得せり。勞力は或る程度に於て他の要件より分離せられたり、然れど

も其分離は完全なるものに非ざりき。如何なる時にありても勞力を供給せしところの人（即ち奉公人若くは職人）は當然のこととして順次に自ら資本家、備者又は管理者たるべき時の來るを翹望し、且つ勉勵せり、何んとなれば斯の如き昇進は「ギルト」制度の常習的部分なりしが故なり。

益複雑となる 已に説明したるが如く、過去百五十年間に吾人は生産要件の組織に大なる變動の起りたるを目撃したり。今も尙ほ此處彼處に往時の單純なる痕跡は残り、而して生産の一大分派たる農業は今日我合衆國に於て一般に三要件の分離なく經營せらるゝあり。我が小農夫の最大部分は自らその耕作すべき土地及び要用なる資本を有し、而して生産上、全部或は其大部分は彼等自身の勞力并に家族の勞働に依頼するものあり。然れども商業、製造業及び運輸業に於て、今日一般に勞力を供給せる一大階級、資本又は時として土地を供給する他の階級、而して事業を組織しこれを經營する第三階級の三階級あるを見るなり。近代の鐵道會社の如きはその好適例なり。債券及び株式の所有者は資本を供給し、而して報酬として債券に對して利子を受取り株

式に對しては配當金を受取るものなり。他の階級によりて供給せらるゝ勞力は賃銀又は給料の支拂を受くるものなり。土地は又通例債券所有者によりて提供せらるゝ、蓋し此等の土地は彼等資金の一部と交換して取得せらるればなり。而してその結果として、假令土地が直接に購入せらるゝことなく借地せらるゝの場合を除きて、鐵道會社の簿記計算上に、分離せる項目として地代を見ることなきを常とすと雖も、吾人は地代の支拂はるゝを見るなり。終りに、會社員たると然らざるとを問はず、株主によりて選任せられたる營業上の管理者又は支配人は、生産組織に於ける一の分離せる階級を成すものなり。

企業家 營業組織の益、複雑となるに隨ふて中心となるべき指導的聰明の益、必要となるは言ふまでもなきことなり、而して此聰明により全產業界を通觀洞察し而して如何なる事物が生産せらるべきものなるか、又如何なる數量に生産せらるべきものなるかを決定したる後、生産の必要要件が該生産物の創造上に共同的勞作すべき準備をなすものなり。即ちこの衝に當るところの人は常に損失及び失敗の危険を負擔し、而し

て他の一方に於て彼に對し生産上の必要要件を供給したる人又は階級に對して約束せる金額を支拂ふものなり。

十八世紀頃の英國に於て、此等企業家は「アンダーテーカー」又は「アドヴェンチュラー」と呼ばれたりき。其後「アンダーテーカー」なる語が商賣人の小規模なる特殊階級に限らるゝこととなり、而して「アドヴェンチュラー」なる語が今や無謀なる、又は不正直なる聯想を起さしむるに至りたるより英語の「アンダーテーカー」と全く同義なる佛蘭西語の「アントルブルヌール」は、假令近年に至りて「インターブライザー」又は比喩的名稱たる「産業的將校」なる言葉の屢々代用せらるゝも、尙ほ今日一般に使用せらるゝに至れり。

企業家の職分は近世の産業社會にありて最も重要な者となれり、而して産業組織の複雑に進むと共に益々其重要の度を増加しつゝあるなり。彼はよく「産業的將校」と稱せらる、何んとなれば彼は産業的軍隊を訓練し及び指揮し、而して事業の失敗及び成功に對して何人よりも更に多くその責任を負ふものなればなり。優秀なる指導者の下

に立つ事業計劃は光輝ある成功を奏するものなり、然れども如斯き、指導者の死亡によりて指導的手腕と頭腦とが取去らるゝ時には衰頹に陥り、又は全然破産の悲運に沈むものなり。かくして多くの場合に全都市の繁榮すると否とはその産業界の卓越せる「キャプテン」の活動如何によるものなり。乍併事業の成功に關して如何に卓越の人なりとも個人の重要は全體として産業の益々複雑なるに従ひ、恐らくは減退するに傾くものならん。従つて彼大なる重役會と多數の業務執行役員とを有する尨大なる近代的營利會社の組織は單一個人の生活及び事業に於て避くべからざる機會と變化とを拒否するところの非個人的鞏固性及び恒久性を得んとするが如きの狀勢を呈するに至れり。

さて前章に於て説明せる生産の三要件に加へて企業家、又は企業家たる資格を殆んど生産の第四要件として論じ得る如く企業家たるの職分は近代産業に於てしかく重要に、而して企業家の動勞はしかく特殊的なるものなり。されば後に至りて種々なる生産要件によりて獲得せる社會收入の割前を論ずるの時に吾人は利益なる名稱の下にその分離せる割前を研究し企業家たるべき特殊なる性質を承認せざるを得ざるべし。

事業經營の形態 事業を計劃する企業家の資格は常に單一個人によりて試みらるゝものにあらず、かへりて急速に増加しつゝある事業の擴大は、反對に多數個人間に企業家の職分又は職分の一部を分擔せしむるところの形式によりて經營せらるゝの氣運に向へり。左に擧ぐるものは、近代の産業社會に於ける事業經營の主要なる形式なり。

(一) 單一企業者組織 事業經營の此形態に於て單一個人は資本及び土地を所有し又は賃借し、勞力を傭使し、事業を指揮して、危険の全部を負擔するものなり。

(二) 合名會社、合名會社の場合に於ては所有權、指揮及び責任が、時としては平等ならざる割合によりて二人若くは二人以上の社員間に分配せらるゝものにて、社員は法律上彼等の全財産を擧げて其責任に當るものなり。

(三) 營業會社、此形態は會社社員の個人的責任が如斯き會社を監望する特許若くは法律によりて、制限せらるゝの事實により、及び更に如斯き會社の生存年限に關して必然に法律上の制限あらざるの事實により前に説明せるものと同一ならず。此形態の下に行はるゝ商業取引が大規模なるがために企業者としての職分は屢々分掌せらるゝ、即ち株主は事業を所有し、而してこれを管理し、且つ危険を負擔す、然れども事業の實際的經營は株主の選舉せる重役に委任せられ、而して更に又重役の任用せる管督者及び支配人に委任せらるゝものなり。

過去五十年間に於ける北米合衆國に於ける産業の尤も顯著なる特徴の一は個人的企業及び合名組織の事業經營より會社組織の事業經營に推移せるの一大傾向にして、殊に運輸業、鑛業及び製造業の分野に於て然るなり。運輸業は殆んど完全にこの形式に進みたり。鑛業はあまりに後れたるものにあらず。第十五回米國國勢調査によれば、製造業にありて合本組織の會社は千九百九年に生産せられたる、全製造物價格の七九「パーセント」即ち略五分の四を生産したり。而して十年前に於ける全製造物價格の六五「パーセント」は合本組織の會社によりて生産せられたりしなり。従つて千九百二十年に於て合本組織の會社によりて生産せらるべき、全製造物價格の割合が九〇「パーセント」に増進するに至るを想像し得べし。然るに農業上に於けるこの傾向は米國國勢調査が土地所有の形式につきて何等の研究を爲さざりし如くに甚だ微少なるものなり。

然れども農園が普通に會社組織によりて所有せられ、而して經營せられつゝあるは一般に知らるゝところの事實なり。

(四)組合事業、學理上組合生産として知らるゝものにて、労働者は、合名又は合本組織の何れかの形態により生産の他の要件、即ち土地及び資本を所有し若くは管理するために結合し、凡べての危険を分擔す、而して事業の指揮は執務の爲め組合中より選みたる社員又は有給の支配人によりて爲さるゝものなり、夫故にこの形式は法律上の性質として前件合本組織のものと區別し能はざるなり。

(五)政府企業(官業) 合衆國政府、州政府及び地方政府は種々重要な多くの事業を所有し之を經營す。此等の場合に於て人民は全體として該事業を所有し、而して凡べての危険を負擔す、同時に彼等は該事業の指揮を選舉又は任命せる支配人に委託す。

二、生産要件たる勞力の組織

事業經營に關する形態の研究に於て、吾人は社會が全體として生産要件の協力及び組織を成就し得る種々異なる方法を實際に研究したり。茲には個々に離して考慮したりし各要件がその能率を増加するために組織せらるゝの方法如何を研究すべし。而して先づ勞力より始むべし。

若し他とその生産物を交換することなく各個人が各自に要する凡べてを生産したる場合につきて考慮し得たらんには、吾人は孤立的、或は非組織的、勞力及び非組織的生産の事例を有することゝなるべし、然れども此の如き極端なる状態が何處に存在したりしやは明かならず。吾人の知る限りに於て人々の集合する處には必ずや幾分かの社會化あり、生活上の安全を得んが爲に盡くすところの彼等の努力に幾分かの組織あり、生産要件たる勞力に幾分かの組織あるものなり。

勞力組織の形態

(一)單純協力 最も早く人々の間に發達したる組織的形態にして、而かも世界經濟に於て今日尙ほ著しき部分を占むるものは單純協力と稱するもの是なり。一團の人々が重量の大なるものを擧げんが爲に彼等の力を結合する時、又は二人が熱灼せる鐵を同

時に連打し、又は木挽業に共同勞作するとき、吾人は勞力組織の此單純なる形態を説明するところの好箇の實例を見るなり。此等の場合の第一に於けるが如く、この結合は時としては全く單一個人によりて爲し能はざるの結果を成就するものなり。結合は常に多數個人の努力を合計せるよりも、一層大なる結果を成就するものなり。

(二)職業の分立(分業) 文明の進歩と共に、産業は全體として益々各部々々に分離せらるゝに至れり、而して夫故に其等各部分は更に分離して絶へず小なるものとなれり。

勞力の組織に於ける太古時代の一時期、——恐らく前きに記述せるものよりも更に早かりし一時期——は原始的社會の人類が各自の仕事を始め分つに至りし時に起りたりと見るべし。而して爾來社會の全歴史は獨りその經濟方面に於てのみならず、凡べての方面に於て、其仕事又は職分が益々多く特殊化せられ、分離せるの事實を記述するものなり。しかし區分及び小區分が絶へず起ると共に進歩の道程に於ける各階段の凡べてを承認し、而して之に命名することは明かに不可能なり。然れども此等階段中の二階級は一般に特別なる性質を有するものとして承認せらる。その第一は吾人が職業

の分立(分業)と呼ぶところのものなり。此の如き區分の原始的形態は野蠻人の間に見るを得べく、かの戦闘者及び狩獵者としての職分を男子自ら採り而して家事及び農作を婦人に分擔せしめたるは是なり。而して職業の分立、即ち分業は無數の商業及び職業の名稱によりて表示せらる。

(三)勞力の分立(分勞) 更に現存職業の小區分は概して過去數世紀、殊に二世紀間に起りたるものなり。この一層進みたる勞力の小區分、即ち一層進みたる勞力組織に對して學術上「勞力の分立」(分勞)なる名稱は與へられたり。而して職業の分立(分業)は最も早く大仕掛に區分せられたる勞力の分立、即ち分勞なりといふべきなり。この勞力組織の形態は、詳細且つ慎重なる研究を必要となすが如く近世の産業に於て最も重要なものなり。

生産の一要件たる勞力を論せしときに、吾人は勞力の能率如何は大體に於て勞力組織の有効なるや否やによりて決せらるゝものなるを指摘したり。而して如斯き組織の有効如何は高度にまで勞力の分立、即ち分勞によりて得らるゝものなり。分勞は分業

と共に同様なる程度に勞力の共同勞作なりと稱するを得可し。今日生産的工程、特に製造業に於ける工程は微細なる部分にまで區別せらるゝに至れり、即ち事業の一部、又は恐らく多くとも二三の小部分が各労働者又は労働者の各集合體に分配せらるゝものなり。かくして近代の時計製造所に於て一人の労働者は懐中時計の一小部分のみを作り、而して他は第二の一小部分を作るが如く多數の部分に細分せらる。かくて懐中時計を製造する生産工程の區別は三百人より少からざる労働者が、斯の如き時計會社の事業を有效ならしむるために必要なりと稱せらるゝまでに多數なり。これと同様に會つては靴を製造するに、凡べての勞作を一人にてなしたりしに、今や吾人は前面截工、後面截工、後柱截工、頂部截工、縁截工、裏截工、截詰及摺工、型及函製造、後柱削革工、頂部削革工、壁附工、前部仕上工、上前面縫工、上後面縫工及び其他を通じて百十三の多きに細分せらるゝを見るなり。然れども労働者は彼等自らの間に労働工程を分配すると同時に、一の完全なる貨物を生産するために共同し結合す、而して夫故に吾人は勞力の分立、即ち分勞は勞力の共同勞作なりと云ふを得るなり。されば「勞

力の分立」なる語を使用する時は、吾人は生産工程の方面を觀察しつゝあるなり、同時に勞力の共同勞作につきて論ずる時は反對の方面より觀察しつゝあるなり。而して職業の分立、即ち分業の場合に於ても亦同じ。

勞力の分立即ち分勞の解説 分勞を尤も善く説明するの例は今日普般に行はるゝ針製造業に於て見るを得べし。扱、其自身已に高度の分勞により生産せられたる鋼鐵製針金は針製造所の原料品たるなり。總じて針はみな同様に一般的生産工程を通過するものなり。工場參觀者の目撃するが如くその製造の完成せらるゝ迄の工程は次の如く簡単に説明し得べし。まづ第一に針金は伸張機と稱する器械により線の歪み又は曲りを直され、次ぎに切斷器によりて仕上りたる針の凡そ二分の一位の長さに切斷せらる、之を「ブランク」と稱す、次ぎにこの「ブランク」の短かき鐵片は、更に小さき鐵の圓筒管に轉置せらるゝなり。而して該圓筒管は鐵片を管中にて磨擦せしむるが爲に間斷なく回轉す。かくして鐵片はその外部に附着せる鍍屑及び汚點を取り去られて次ぎの工程たる「コールト・スウエーギンク」に送らる。この工程に於て該鐵片は一の漏斗形

の器械に置かるゝと共に、夫より機械により一回一本づゝ取去られ、而して該鐵片の一端は鋼鐵製の截斷型の回轉に接觸する様に向けらるゝなり。此回轉する截斷型の間斷なき開閉によりて鐵片の一端は壓搾せられ、而して針の尖端を作るために引伸さるるなり。此仕事の了りたる後、他の機械によりて針の扁平なる表面に如何なる種類の針が製造せらるゝものなるかを表示するために記號又は數字を刻印す。次に同様な長さの凡べての鐵片を取揃へるために長さの不揃ひなるものを切斷す。斯く記號の刻印せられ長短の整理せらるゝや、次ぎには「グルーヴィング」と稱する器械に送らるゝ、而して此器械によりて針の一面に短かき溝と他の一面に長き溝とが同時に作らるゝなり。この仕事の了りたる時は針目を穿つ許りに出來上りたるなり。此針目を穿つ仕事には通常女工を使用するものなるが、此仕事は熟練なる指端と鋭敏なる視力とを働かして巧みに針と機械との接觸調節に注視するの必要あり。而して一女工は近代の機械を用ゐて一日七千本の針目を穿つを得べし、即ち一分間に十二本以上を穿つの割合なり。次ぎに針の尖頭は機械により圓形、旋條、菱形等の如き種々の種類に應じて作ら

るゝなり。かくして針の製造は大體に於て終りたるものなり、尙ほ其尖頭たる鋼鐵の柔軟なるは實際の使用上効果あるものにあらず。夫故に更にこれを堅硬ならしめざるべからず、これがために更に種々なる工程を要し、従つて更に分勞の機會あるものなり。次ぎに又其等の針は機械を使用して鋭くせられ、又磨かるゝものなるが、該機械は一回に凡そ百本の針を支持して一分間に八千回も回轉する眞鍮線の磨擦刷子に掛け、其後更に剛毛刷子に掛くるの用をなすものなり。また針目は摩擦力が針目の孔口全部に作用し得るやうに針に對し種々なる角度をとりて前後に張り、而して油及び金剛砂の附着せる木綿糸を通じて磨かるゝなり。次ぎに仕上げ研きには細密なる金剛砂を用ひ、仕上げ磨きには「クロカス」磨粉及び「アルコール」等を用ひ何れも回旋刷子を以て仕上げらるゝなり。數を計算し、紙に包むことも亦分勞の機會を供するものなり、而して此等分勞によりて精力の經濟は極度に行はるゝものなり。

勞力の分立即ち分勞の利益 經濟學者が普通に分勞の利益として擧ぐるもの次ぎの如し。

一、まづ第一に受くる處の利益は時間上の所得又は節約、此利益は二方面より生ず。

(a) 労働者が一の作業より他の作業に履轉するの必要なきこと、

(b) ただ少許の時間にて特殊なる生産工程を學び得ること、

二、第二に分勞は熟練上の利益あるものなり。

三、第三に分勞は各個人が各自に適當なる場所を見出し、而してその場所に各個人を排置し得る適用上の利益あるものなり。身體上、精神上強健なる人は彼自身に適應して最も價值ある仕事に全時間を捧げ得ると共に、筋肉に於て精神に於て虚弱なる人は大なる力の部分的に消耗せらるゝ仕事に従事するを得るなり。

四、第四として分勞は人を發明に導の利益あるものなり、生産工程の單純化せらるゝより個人労働者は自ら其等工程を深く熟知するに至るものなるが故に、如何に改良すべきかの焦點に想到し得るの便宜あり。此理由によりて益盛なる近世的發明の大部分は労働者の頭腦より案出せられたり。

五、最後に分勞は資本の利用を更に完全ならしむるの利益あり。即ち各労働者は一個

の又は一組の道具を使用し、又は一臺の機械を運轉するを以て此等の資本を始終間斷なく使用し得るものなり。

勞力の分立(分勞)の不利益 然れども分勞にも亦不利益なる他の一面あり。

一、まづ第一に、この分勞組織は婦人及び幼年者の雇傭を容易に且つ有利ならしむるものなるを以て、屢、傭役中の男子労働者を驅逐し、而して婦人及び幼年者の虐使に導くものなり。米國諸都市に於て、吾人は時々父が「留守居」として家に止まり、却つて家婦及び兒童等が長時間工場に働きつゝあるの奇觀を見出すことあるなり。

二、第二に、分勞は相互に他の人に依頼するの傾向を増大す、此の如きは少くも部分的に弊害たるを免れず。されば或る産業——例へば鑛業——に於ける労働者の特殊なる集團によりて起されたる同盟罷工は、其商賣に従事せる凡べて他の人々を傭役より離れしむるのみならず、又罷工の起りたる産業の生産物によりて作業する他の仕事に従事する數千又は數萬の労働者を労働以外に放逐するものなり。同様なる種類の困難は新職業を修得するに老ひ過ぎたる労働者が、生産の事情又は方法に起りたる變化に

よりて従來の備役より驅逐せられたる時にこの分勞より起るものなり。かくして活字組立機械の發明は高度の熟練に達し、而して高給の支拂を受け居る職工の數百人を備役以外に放逐するものなり。此等の弊害は、隨に長時期に亘りて矯正せらるべし、然れども或論者が痛切に論及せるが如く、如斯の長時期はその生涯の短期なるところの普通人にとりてはあまりに長きものなり。而して兒童等が家長の餘儀なき強要的怠惰により壞亂せる家庭に於て養育せられざるべからざる場合に如何に長くこの期間が必要とせらるるか。

三、分勞組織と關係して起る第三の弊害は、分勞によりて勞力がその吸引力を失ふと同時に又教育上の價值を失ふことなり。懷中時計全部を一人にて製造するところの勞働者は技術者として其仕事に對し愛好の念を生ずるものなり、然れども誰か一日十時間を型の表面に金屬の平圓盤を嵌入するが如き單純なる仕事に對し愛好の念を起し得るか。或論者の「人をして留針の製造に於てその第十八部の分勞以外に何事をも爲さざらしむるは、其人に對して誠に氣の毒のことなり」といへるは痛切にあらずや。

三、生産要件たる資本の組織

前章に於ける勞力組織の研究に於て、勞力の組織は資本の組織と密接に親和抱合するものなることを記述したり。勞力の分立即ち分勞が近世的産業の特質たる機械の形態をとりたる資本の組織なく決して發達し得ざることは針製造業に於ける分勞の記述によりて明かなり。夫故に吾人は此二者を互に分離せしめて、更に資本の組織につきて研究を新にするの必要を認めず、何んとなれば勞力組織につきての論究はただ微少の變更を加へて資本組織に應用し得ればなり。於是、吾人は直ちに他の生産要件たる土地の研究に進まん。

四、生産要件たる土地の組織

地域的分勞 或る範圍まで天然的要件の組織の場合には資本の組織の場合と同一なり。勞力とは常に資本の助力によりて天然的要件に適用せられたる人間努力の謂なり。

り。夫故に勞力の組織は概して天然的要件及び資本の使用に關する組織を同時に包括するものなり。然れども茲に生産要件、天然によりて一般に制限せらるゝ生産組織の一形態あり、而して吾人が之を天然的要件の組織の一形態として論究するは無益の事にあらず。この形態の組織を呼ぶに普通二個の名稱を以てす、一は「産業の地方化」、而して他は「勞力の地域的分立」即ち地域的分勞是なり。「勞力の分立の場合に於けるが如く産業の地方化に於ても該傾向は、前者は各個人間に、後者は各地方間に、生産的職分を専門化するの方針に進みつゝある在り。かくて地方又は村落が都市に對し食物を供給し、其交換として製造せられたる財貨を收受することの地域的専門化——斯くて社會は勞力を地方的及び都市的の二方面に區分するに至る——は野蠻時代に於て男子と女子との間に起りたる職業の原始的分立と類似す。而して或る農業地方が殆んど排地的に或る一種の生産物、又は僅少なる二三種の生産物のみを生産し、同時に他の一方に於て製造業の中心地は之と同様に或る一種の貨物又は僅少なる二三種の貨物のみを製造するに過ぎざるまでに産業の専門化に進みたるは、已に論究せる勞力の分立

即ち分勞の形體と其軌を一にするものなり。

第十二回合衆國勢調査は勞力の地域的分立、又は産業の地方化に關して有益なる多くの説明を與へたり。該統計に據り合衆國に於て製造せらるゝ手袋を、その價格によりて計算するに、總生産額の半額以上はニュー、ヨーク州の東中部地方に於けるグーヴァースヴィル及びジョンスタウン附近に於て製造せらるゝものなり。更に製造せられたる手袋の價格はグローヴァースヴィルの場合に於て其地方の製造にかゝる總生産價格の三分の二以上は同市の生産にして、又ジョンスタウンの場合に於て二分の一以上は同市の生産なり。ニューヨーク州トロイは價格に於て合衆國內に於て製造せらるゝ「カラー」及び「カフス」の殆んど四分の三を製造せり、而してトロイに於て製造業に従事する總労働者の略十分の七は此製造業に従事しつゝあるものなり。フィラデルフイア市は合衆國に於ける敷物の四五「パーセント」以上の生産を爲せり。ネブラスカ州サウスオマハに於ける労働者の十分の九は屠獸業及び肉類包装業に従事せり。而して第十三回國勢調査は勞力の地域的分立即ち地域的分勞が千八百九十九年に於けるより

も遙に進歩せるを示せり。

さて如斯く産業の地方化に導くところの諸原因中、左に挙げたる數事項は恐らくその最も重要なものなるべし。(一)材料供給に接近しあること、(二)市場に接近しあること、(三)水力の便あること、(四)氣候の順和なること、(五)必要な勞力の種類に關して地方的供給あること、(六)投資に關して資金の地方的供給あること、(七)最初事業を始むるあたり動機の與へらるゝこと等是なり。此等種々なる原因は勞力に關するよりは寧ろ地理的考慮によるものなれば、その何故に吾人が勞力組織の形態としてよりは寧ろ天然的要件組織の形態として産業の地方化を論究するかを理解し得べし。高度の文明が勞力の専門化又は分立を益増加せしむる如く、吾人は地理的界線に沿ふて産業の専門化が將來益盛なるを目標するに至るべしと期待し得るなり。政府は益鞏固なるものとなり、快速なる運搬方法は更に改良せられ、人種的猜疑及び偏執は破却せられて、こゝに世界的市場は可能的に實現しつゝあるなり、而して世界的市場の實現と共に各國及び各國の各地方は關係的なる最大利益を極度に享受せしむる財貨の生産に心を用

ゐるの經濟狀態に到達するや疑ふべからず。

五、生産組織を決定する條件

吾人は已に生産組織の能率が依りて定めらるゝところの一二の條件を論究せり。尙ほ此點に於て其等の條件を聯結し、而して同時に組織の如何に拘らず、凡べての生産を定むるところの更に重要な要件に關して説明を試みるは無用にあらざるべし。

一、人口の延長及び性質　まづ第一に論理上重要なものは人口の大サ及び性質なり。消費者にして更に多數ならんか、從つて財貨の供給は更に大ならざる可からず、而して如何なる貨物なりともその供給更に大ならんか、概して生産を經濟的に有利ならしむる爲に其組織は一層精細なるものとなるべし。此觀念は「勞力の分立即ち分勞は市場範圍の大小によりて決定せらるゝものなり」との敘述によりて屢々表示せらるゝなり。

二、資本の増加　産業組織の第二の大なる條件は資本の増加にして、その増大は機械の形態に於けると、若くは運輸交通及び交換の機關たるの形態に於けると其何れたる

を問はざるなり。機械の改良は産業の専門化及び組織を更に技術的に可能ならしむると同時に又鐵道、電信及び銀行等は市場を擴張せしめたり、而してこれによりて如斯き産業組織をして經濟的に可能、即ち有利ならしむるに至れり。

三、産業の性質 人口又は資本化の程度如何に拘らず、凡べての産業は前に敍説せしところの産業組織の或る種類に等しく適合するものにあらず。由來農業は今日に至るまで概して精細なる分勞に關する凡べての計劃を排せり。これに反して製造業は高度に進みたる分勞を採用せり。この相違に關し、學問上より其理由を明にするの論究に入ることなく、吾人は産業の内部にありて精細なる組織の必要とせらるゝは主としてかゝる産業に於て種々異なる工程が同時に行はれ得るがためなりといふに止むべし。かくして産業上のこの状態は製造業の特徴となすべきものなり、しかもこれに反して天然の變化に左右せらるゝ事實が必然に耕作上の連続工程に現はるゝところの農業の場合にありては全然この性質を缺くものなり。

四、政府の性質 産業組織の能率に關する第四の條件は政府の性質なり。最も進歩せ

る邦國に於てすら其の政治的構成に於て、又は強制せらるゝ法律上の状態に於て多くの相違あるものなり、然れども凡べての文明國は其政治組織を有效ならしむべく少くとも次ぎの如き状態を維持せり、即ち此等文明諸國は(一)私有財産制度を維持し、(二)國境の内外に於ける敵の侵略に對して國民の生命及び財産を保護し、(三)契約制度を創設し及びこれを維持し、(四)個人が全然着手せざること及び社會全體として産業の最良なる利益の個人によりて擧げ得ざることの明白に立論せられたるところの産業を直接に經營するものなり。かくして凡べての文明諸國政府は貨幣制度を維持し、度量衡を統制し、及び船渠、燈明臺、道路等を建設し且つこれを管理し、又海外諸國に領事制度を設置し且つ維持するものなり。

六、大規模生産と小規模生産との比較

近代に至りて個人的事業の平均大サは驚くべく急速に増大したり。實に過去半世紀間に起りたる事業單位の規模の上に取りたる變化は恐らく十八世紀の後半期に於て家

内工業より工場工業に移りたる變化の如く顯著なるものなり。この變化の運動はその社會的結果に關して一般に恐怖を誘致するに至りたるまで遙に進みたり、而して今も尙ほ急速に進みつゝあるなり。尨大なる競争的合本組織の合同より生ずる或る種の危険につきては後に敘説する處あるべし、然れどもこゝには便宜のため、生産組織の問題と聯絡して大規模生産より生ずる利益と、而して他の一方に於ては個々別々に又は共同協力に於ける小規模生産者の收得する經濟とに關して簡單に論及すべし。

大規模生産の利益 大規模生産より生ずるところの利益は一般に自ら二種類に區別せらるゝものなり、即ち一は(一)財貨製造上に於ける經濟にして、他は(二)財貨賣却上の經濟なり。

(一)財貨製造上より見たる利益 さて第一に關して大規模生産は次ぎの如き節約ありと主張せらるゝものなり。

(a)生産物の各單位に對し使用せらるゝ固定資本又は流動資本に要する資本的費用を節約し得。

(b)最も有效なる組織の可能なるにより勞力的費用を節約し得。

(c)専門研究家又は發明家の聘用により、及び同一工場の異なる諸分科に於ける方法と又は同一所有者に經營せらるゝ種々なる工場の同一分科に於ける方法とを比較研究して改良進歩の行はるゝ可能性あるによりて節約し得。

(d)監督費用を節約し得。

(e)「スタンダード」石油會社又は牛肉及び豚肉罐詰會社等によりて經驗せるが如く廢物利用によりて節約し得。

(f)會社自ら使用する箱又は罐其他を製造すること、又は自ら鐵道或は蒸汽船を有するに依りて製造上及び市場向輸送上他の力を借ることなく自ら用辨し得ることによりて節約し得。

此最後の利益を享有する事業に於て、吾人は産業の集中若くは統合の好適例を見るものなり。

(二)貨物の市場向輸送上より見たる利益 大規模生産より生ずる第二種類の利益中、

財貨を市場に輸送するにあたり得らるゝ經濟は次ぎの如し。

(a) 廣告し又は行商を送ることによりて販路を求め得るの經濟。
 (b) 關係的最少の貯藏貨物を以て需要の動搖に十分應じ得るが故に貨物貯藏上に得らるゝ經濟。

(c) 數量の大なる貨物に對しその運賃を特別低廉ならしむる力と、又或る會社が「通過貨物」としての取扱ひを——即ち常に供給の尤も近き地點より財貨を發送し、而して夫故に消費者に到達すべき同一通路に於て相互に同種類なる財貨の發送を避け得る處の力とによりて消費者に財貨を供給するによりて得らるゝ經濟。

(d) 經濟界不景氣の時に大規模なる商社は常に起るところの激烈なる競争に耐へ得るの力を利用し、海外市場に販路を擴張し得るより生ずる經濟。

小規模生産の有する經濟 大規模生産に以上挙げたるが如き利益あるに對し、次ぎ舉ぐる諸點を考慮すれば少くとも或る種の産業に於ける小規模生産の大部分が永續すべき約束あるものといふべし。小規模生産の利益とする諸點は次ぎの如し。

(a) まづ第一に經濟とみるべきは多數の事業に於て手頃の型なる製造用の機械は實際の應用上資本的及び勞力的費用に關し最大能率を有するものなりと専門家によりて力説せらるゝことは是なり。

(b) 多くの場合に於て、力の集中によりて運用せらるゝ大規模事業の利益は近代の發明、特に電氣力に關する發明が小規模製造業者を殆んど其競争者たる大製造業者と同等の地位に引上げべく動力の分配法を革命しつゝある事實によりて緩和せられつゝあるは第二の經濟なり。

(c) 更に小製造業者の特質として知らるゝ精密且つ經濟的なる監督を、大規模製造業者も同様に有し得べきかは大に疑なき能はず、換言すれば被傭支配人は此點に關して自己の利害を感じる個人的事業家と競争し得べきかにつきて疑なき能はず。

(d) 小製造業者は其市場に於ける個人的慾望を察知するの力大なるを以て特殊の利益を有す。多くの産業に於て個人的素質は小製造業者が大製造業者を全然競争界より驅逐し得ざるまでも、永く之と對行して自ら維持し得るの要素たるものなり。

(e) 最後、隣接せる小製造業者の共同協力によりて、事業運用上、工程の發明及び改良に關して、大製造業者と同一なる機會を利用し得るは敢て不可能にあらず。
(f) 而して又大規模産業に於て常に起るものとして考へらるゝところの「廢物」の利用に關しても同一なる機會を有するものなり。

茲に注意すべきは、以上の比較は大規模生産と小規模生産との間に於ける比較にして、決して小規模生産と獨占的生産との間に於ける比較にあらざること是なり。然り大規模の生産は獨占的生産と全然同一なるものに非ず。若し吾人が獨占的財貨の生産に關して説くものなりとせば、以上挙げたる生産の利益及び諸節約の外に尙ほ多くの附加を爲し得るなり、而して已に説きたる利益の或る者は獨占の場合に於て更に大に強められ、又確めらるゝものなり。かくして「通過荷物」の場合につきて、又は廣告の場合に於て、大規模生産によりて利益は増加すと云ふを拒絶する多數の人々も、獨占業の場合に於て其等の利益を認容せざるを得ざるべし。

小規模生産及び大規模生産の關係的利益に關する以上の事項は近時に至りて寧ろ激

烈なる論争の焦點となり、従つて未だ何等の解決をも見ざるなり。

七、「トラスト」に對する社會の正當關係に 關する四個の觀察

世人が誤れる名稱「トラスト」によりて呼ぶに至りしところの大産業的會社に對する組織的社會(國家)の正當なる關係に關して四個の觀察は論理上可能なるものなり。

まづ第一の觀察は巨大なる會社は功績に於て又屬望に於て何れも福利的なり、故に社會は干涉することあるべからず、而してその所有權及び管理に於て其等の事業に直接關係するところの人々は、一般公衆が如何に其等の事業が運用せらるべきものなるかを知り得るよりも更に細しく之を知り、而して自我的利己心より生ずるところの社會的損害——若し如斯き損害の起るものとして認容せらるゝならば——かゝる損害が如何なるものなりとも、その程度は慥に無頓着にして無計劃なる社會の拙劣短見によりて生ずる社會的損害よりも遙に微少なりと論せらるゝところの觀察これなり。吾人

はこの觀察が時として、多數の大新聞に、及び他の公的報告等の有力なる材料中に更に屢々含蓄的に表明せらるゝを發見するなり、而して頻りに又多少の成功を以て米國諸政黨の評議會にその承認を強要しつゝあるなり。

第二の觀察は我等が傳習的に抱くところの他の觀念を代表するものにして「トラスト」は害毒なり、不必要の害毒なり、「トラスト」は經濟よりは寧ろ放恣、不謹慎なる力及び腐敗より發生するもの、而して可能的經濟所得は「トラスト」により收受せらるるものなりとするも、尙ほ如斯き所得は小産業が常に自發力、實業道德、個人的責任——略言すれば實業性格——を訓練するの學校として收め得るところの利益と比較して一瞬時も同格に評量すること能はずと論ずるものなり。夫故にこの觀察を主持するところの人々は社會の強大なる鉞腕によりて現時の巨人的合同を粉碎し、而して其等の大合同の解體より生ずるところの、更に少規模なる商社間に我等の祖先が常に親みたりしが如き競争を強行せしめざるべからざることを提言す。今日この觀察は關係的に僅少なる公然の辯護者を有す、然れどもこの少數辯護者の中には最も智覺の聰明な

る人々及び最も公共心に富めるの人々を包括す。かくて立法上、及び行政上に於ける實際的勢力はかゝる觀察を承認し且つ主張する其等少數者が「トラスト」の害惡を豫知せしむるために世人を指導するよりも更に大なるものなり。

第三の觀察は「トラスト」は假令その經濟があまりに屢々欺瞞騙詐及び強力によりて助成せられたりと雖も、本來は經濟の生産物なり、品性の舊小實務學校は——恐らく近き將來に於て改良せらるべき——我が現代の状態より發達し而して其等の状態に尤もよく適合せる新らしき訓練法によりて補充せられざるべからず、大規模生産の經濟は増大せる利益によりて僅少の事業的超人の富を更に増長せんよりは低減せる物價によりて普通人の利益に向け得べく、又向けざるべからず、而して若し社會にしてこの任務を盡くすに充分に聰明なる、又充分に強力なるが如きものあらんか、我等の無知覺及び微弱は、我等を犠牲に、その聰明及び強力に道を譲らざるべからず、米國の鼓吹的絶叫は有效主義、又は民主主義にあらずして有效なる民主主義なりと論ずるものなり。夫故にこの觀察をとるところの人々は、能動的、永續的にして完全なる取締を

行ふの政策に賛意を表す、而してこの政策は二十世紀の初頭に於て一般人民により急速に承認せられ、而して亦實際に於ても勢力を得るに至れり。

第四の觀察、即ち社會主義者の觀察は「トラスト」發生の經濟及びその必至的なることを確説するに於て第三觀察と同様なり。社會主義者は更に所論を進め、而して個人的分野の一部に起りたるところは、定りたる運命として普遍的に起るべきものなりと主張せり。然れども社會主義者にとりて「トラスト」を取締るべしとの提言は恩寵を愛憐し又は愛憐を恩寵する底のことなり。所謂番人を番する者は誰ぞといふことなり。若し吾人が全く自を救ひ得るものとなし、又吾人が大規模生産の經濟を吾等自身の掌中に收め得るものと爲したらんには——これ社會主義者の社會化生産と稱するものなり——吾人は集合的所有及び經營によりて之を爲し得るのみ、而して他に道あらざるなり。社會主義運動に於ける最大人物たるカール・マルクスは六十年以前に、集中に走るの傾向を見且つ之を豫知したり。彼の門下生及び崇拜者は世界がレヴェールの計算に従ふて當然在らざるべからざるの處に海王星を發見せるの功勞に對し與へ

たると同様なる榮譽をマルクスの先見又は豫言に對して與へんことを要求す。

以上各自につきその特色を擧げたる四個の觀察を更に簡單に次ぎの如く説明するを得べし、(一)「トラスト」は必至的、經濟的及び福利的のものなり、而して若し取締によりて干涉せらるゝことなくば、最も多く福利的に及び聰明的に運用せらるゝものなり、といふは第一の主張なり。(二)「トラスト」は必至的、經濟的及び福利的のものにあらず、而して夫故に強制的に解散せしめざるべからず。といふは第二の主張なり。(三)「トラスト」は必至的及び經濟的のものなり、然れどもその濫用を抑制し、而して其等の經濟(「トラスト」より得べき利得)を一般公衆の利益に轉向するにあらざれば高度に危険なるものなりといふは第三の主張なり。(四)「トラスト」は必至的及び經濟的のものなり、而して普遍的のものたるべし、從つて吾人は其等「トラスト」を取締り得ざるなり、夫故に吾人は其等「トラスト」を所有し、而して運用せざるべからず、若しこの事にして成就し得ざらんか民主主義は失敗に終らんと論ずるは第四の主張なり。

摘要

- 一、産業の廣且つ大なる發達は其結果として産業組織をして益、複雑ならしむ。
- 二、企業家は生産的要件の組織を指揮す、乍併彼等の職分は時として多數の個人間に分布せらる。
- 三、生産要件の一たる勞力組織の形態は單純なる協力、職業の分立(分業)及び勞力の分立(分勞)是なり。
- 四、生産要件の一たる天然物組織は産業の地方化に至らしむるものなり。
- 五、産業の有利なる組織を制限するものは人口の大サ及び性質、資本の多少、産業其物の性質、及び政府の性質等是なり。
- 六、或る産業にありては大規模生産によりて多くの利益を得るなり。之に對して小規模生産者は自ら之を維持し、或は利益をも享受し得るところの他の特殊なる状態にあるものなり。

七、「トラスト」の性質及び根源に關して四個の異なる觀察あり、夫故に「トラスト」に對して組織的社會のとるべき態度に關しても亦同じく四個の態度あり。

復習問題

- 一、産業革命以前にありて如何に生産要件の協力は行はれたるか、如何なる程度にまでこの方法が今日文明國に於て行はれ得るか。
- 二、企業家たるもの、義務につきその二三を挙げよ。
- 三、事業經營の種々なる形態を挙げよ。關係的長所及び短所につきての觀念點より此等の形態を論ぜよ。
- 四、如何なる點に於て職業の分立(分業)は勞力の分立(分勞)と異なるか。
- 五、勞力の分立(分勞)の利益及び不利益を説明せよ、大規模生産の利益を説明せよ、又小規模生産にも利用せらるゝところの經濟又は節約を説明せよ。

研究問題

- 一、事業單位の平均大サの増加と商業、行政、財政及び其他同種類の學校及び大學の最近設置との間に如何なる關係の存在するか。
- 二、前に擧げたる進歩と労働組合の急速なる發達との間に如何なる關係の存在するか。
- 三、「トラスト」問題に關し諸政黨によりて採らるゝ其等政黨の態度は如何なるものなりや。
- 四、勞力の分立即ち分勞の益、増加することは學校及大學教育の特殊化、即ち専門化を必要とし、又は必要とせざるの評論を起すものなるか。
- 五、勞力の分立(分勞)は生活の充實及び品性の擴張のために(a)直接に又は(b)間接に行はるゝものなるか。
- 六、市俄古屠獸場に於ける驚異すべき分勞につきて研究せよ。

七、最も廣く熟知せらるゝところの或種の産業に於ける分勞制度の工程を詳述せよ。

不下以ニ一己之利ニ爲リ、而使天下受ニ其利、不下以ニ一己之害ニ爲リ、
害、而使天下釋ニ其害、此其人之勤勞、必于千萬于天下之人。

第三部 財貨の移轉 (交換論)

第一章 小引

本題の性質 吾人は既に經濟學上の綱目及び原理の重要部分たる二大部門に關する研究を了へたり、吾人は財貨の消費并に生産に關して或ものを學びたり。茲には如何にして又如何なる方法によりて財貨が人々の間に交換せられ、及び如何にして交換の割合が定めらるゝかの問題に關して研究の歩を進めざるべからず。近代産業の狀態に依るに殆んど各個人は其消費するよりも遙に多く或一種又は數種の財貨を生産す、而して他の一方に於て自ら生産せざる甚だ多種類の財貨を消費す。換言すれば今日の生産は殆んど全く市場を目的として行はるゝものなり。而してかゝる狀態に行はるゝは一に財貨が各自の間に移轉し得らるゝが故なり。此財貨の移轉は吾人の經濟的生活の一大部分を構成す。ある一の重要な産業階級はこの財貨の移轉を營業となすものにして、商人と稱せらるゝものこれなり。一般に商人の執掌するところの業務を商業と

稱す。然れども商業は其の業務の遂行を助くる他の多くの補助的營業を必要となすものなり、就中交通、運輸及び交換の機關として利用せらるゝものを特に重要なりとす、即ち國道、鐵道、電信、電話及び銀行の如きは是なり。此等商業の補助機關は全く商人を補助することによりて其職分を拘束せらるゝことなく、財貨の移轉を圓滑ならしむることによりて全社會の進歩に裨益を與ふるものなり。

交換 貨物の移轉に二種あり、一は片務的移轉にして贈與、贈遺、財産相續、租税及び罰金の如きは是れなり、他は雙務的移轉にして經濟上凡べての移轉を包括す。茲に論せんとするは即ち是れなり。

さて研究する財貨の移轉は經濟學の一部として多數の經濟學者により「交換」と稱せらるゝものなり、何んとなれば雙務的移轉の意義に解せらるゝ用語「交換」が本研究の題目たる財貨移轉の大部分を占むるものなればなり。乍併、この第三部に於て論せんとする貨幣及び銀行は財貨の雙務的移轉のみならず、併せて片務的移轉をも補助する機關なるが故に、本題目の性質を更に完全に表示せんがために簡單なる用語「交換」

を「移轉」なる名詞中に包括せしめたり。

財貨の交換は常に交換せらるゝ財貨の効用を増加するものなるが故に、交換は生産の一部なり、従つて一般生産論の綱目中に論究せらるべきものたるや明かなり。然れども交換の現象は甚だ特殊にして、且つ重要な性質を有するものなるが故に、特にこれを生産論より分離して交換そのものゝ題目中に論究するを便利なりとす。

交換の利益 今日と雖も財貨の交換が兩交換者の唯一方をのみ利益するが如く思惟するものあるは珍しからず。時としては國家と個人たるを問はず、交換によりて一方の利得するところは、他方の損失するものなるが如く論ずるものあり。吾人が一箇の帽子を購ひ、又は一着の衣服を買ふ時に、吾人は此取引により利益を收得するは別に考慮を要するまでもなし、然れども蓋し吾人がその購入すべき財貨を、之に對し支拂ふべき貨幣よりも更に有用なりと考へざりしときに必ずや其處に交換の行はるゝことなかりしや明かなり。

さて、何故に交換が之を行ふ人々に對して利益ありと考へらるゝか、乞ふ少しく其

理由を説明すべし。

まづ第一に、(一)貨物の効用を決定する原因の一部たる嗜好及び風習は(イ)國民によりて異り、(ロ)個人によりて異なるものなり。夫故に一の貨物が夫れに對して小許の嗜好を有する一個人又は一國民より、非常に高き嗜好を有する一個人、又は一國民に移さるる時に、この交換によりて該貨物の効用は明かに増加するものなり。

第二に(二)彈圓球上に於ける異なる國家又は異なる地方は種々多様なる貨物の生産上に於ける(イ)自然的便益又は(ロ)努力的便益に於ても亦相互に異なるものなり。かくて一國家又は一地方がその優れたる自然的便益の故に、又は長期に亘る經驗より得たる勞働者の熟練の故に容易に且つ多量に生産せらるゝところの貨物も他の國家又は他の地方にありては多大の困難を以て纔に生産せらるゝものなり。如斯にして、南部地方の棉花栽培者と西北部地方の農夫とは各自の生産せる棉花と小麥とを交換することによりて相互に利益するものなり。

第三に(三)個人は(イ)その天賦の性質より、又は(ロ)訓練によりて種々異なる仕事に對す

る適合性に於て相互に異なるものなり。即ち或一人は其の性質及び訓練に依り大工たるに適し、他の一人は製粉業に適するものなり。凡てかゝる場合に於て各個人は自己に尤も適したる仕事を選びて之に従事し、その生産の剩餘を以て、自己の欲するところの他の財貨、しかも他の人々が最大關係的利益、又は最少關係的不利益を以て生産し得るところの他の財貨と交換するところによつて最大利益を得るものなり。

移轉の機關 近代の各國民間にありて移轉を容易ならしむるために、大規模の機關及び設備の存在せざるはなし。次に擧ぐるものは即ち是なり。

- (一) 交通及び運輸の設備
- (二) 度量衡の制度
- (三) 貨幣及び信用、各種の銀行、手形交換所、其他
- (四) 株式及び商品取引所
- (五) 商法、商業に關する諸法律及び商行政(之には外國に於て自國政府の商業的代理者として働く領事の幫助を含む)

(六) 小賣人及び卸賣商を包括する各種の仲介業者
 交換は生産の一部たるかぎり、此等交換の諸機關は又生産の諸機關たるものなり。而して此等交換の諸機關を通じて財貨は時間的、場所的及び所有的効用を享有し、更に之に依りて最終消費者の需要に自ら適合せしむるものなり。

摘要

- 一、財貨の移轉に二種あり、片務的及び雙務的移轉是れなり。後者は交換として知らる、而してこの題目下に於て財貨移轉の一般問題は屢々論究せらるゝものなり。又交換は價值及び價格の現象を發達せしむ。
- 二、凡べての交換は財貨の移轉上、必ず兩對手の利益たり、其然る理由は、人と場所とが相異なる生産の種類に對して自然的又は努力的適應(又は傾向)を異にし、又個人も國民もその消費に於て嗜好及び風習を異にするが故なり。
- 三、近代の産業は交通及び運輸の手段をも包括せる交換の機關を精密巧緻に發達せし

めたり、即ち度量衡の制度、貨幣、信用及び銀行、株式及び商品取引所、商法及び商行政、各種類の仲介の如きは是れなり。

復習問題

- 一、財貨の片務的移轉及び雙務的移轉の例をあげよ。
- 二、交換の利益を説明せよ。
- 三、交通及び運輸に關する二三の手段を記述せよ。
- 四、交換と生産との關係は如何なるものなりや。

研究問題

- 一、國際度量衡制度の採用は如何に交換を援助するものなりや。
- 二、郵便税の減額は勞力の地方的區別に影響することなきか。
- 三、靴製造の盛なる町に於ける兒童は靴製造業に關する熟練を得るために他の町に於

けるよりも良き機會を有するものなりや。

- 四、北米合衆國及び玖瑪間の交換によりて得らるゝ利益は如何なるものなりや、法律家及び醫師間に行はるゝ交換の利益は如何なるものなりや。

第二章 價値

價値の意義 價値の研究は經濟學に於て最も重要にして、且つ困難なる問題の一なり、而して分配論に於けるが如く財貨の移轉、又は交換論に於ける中心問題は價値の決定に關するものこれなり。さて何故に財貨は其等財貨の交換せらるゝ割合によりて相互に交換せらるゝものなるか。何故に其等財貨の交換せらるゝ割合が時を追ふて絶えず變化するものなるか。此等は吾人の將さに研究せんと欲するの問題なり。

主觀的價値の觀念 まづ第一に注意を要するは價値に關し二個の觀念あることこれなり、此等兩者は密接に關係し、然かも截然相異なるものなり、而して一は「主觀的價値」にして、他は「客觀的價値」なり。於是、吾人は此等觀念の如何なるものなるか、及び此等兩者間の關係が如何なるものなるかを研究せざるべからず。吾人は効用漸減の法則を研究して如何なる貨物と雖も其貯藏を増加する時に、限界的効用の低下するものなるを學べり、即ち附加的に増加せらるゝ部分に對するの注意は漸次に減じて其程度

の割合に微弱となるを學べり。吾人は最初に尤も強烈なる慾望を満足せしむ、而して貨物の供給が次第に増加するに伴ふて未だ満足せられざる慾望は漸次に其緊要の度を減少す。例へば若し吾人にして少量の水しか所有せざるに於ては、唯飲用の目的のみ之を使用するに止めん、而して最初の増加は沐浴のために使用せらるべく、次ぎの増加は食器及び衣服其他の洗滌に使用せらるべし。更に尙、その貯藏量が大に増加したらんには該貯藏量の單位に對する重要な程度は漸次に減少すべし、かくて吾人は附加的「ガロン」の水を得るために犠牲を拂ふこと更に少かるべく、従つて「ガロン」の損失に對する苦痛も極めて少かるべし。これ吾人の評價（見積り）に於て如何なる貨物なりとも、その貨物が經濟的重要の程度を決定するところの限界的効用なり。願望を誘起せしむるの能力、限界的効用、經濟的重要の程度、此等の用語は普通の「主觀的價値」なる用語と同一意義に使用せらるゝものなり。

主觀的使用價値 然れども、若し吾人にして深き注意を以て自己の思索につき研究したらんには、吾人は主觀的評價に二個の道程あるを知るべし。さて該問題に關す

る思想の眞の核心又は中心は、如何なる貨物なりとも、吾人の之を所有すべきものなるか、又は成るべく之を所有せんと考慮しつゝある者なるかにつきて、その貨物の單位を吾人の福利に對し重要なる者として、吾人の心裡に構成する所の觀念中に發見せらるゝものなり。かくして吾人が自己の心理を考察するときに、吾人は少くとも衣服の各部分につき、地下倉に於ける石炭の一噸につき、又吾人の所有し得ざるものなるも自動車又は飛行船につきて、而して又吾人の經濟生活に關係を有し、又は有し得る事物の配列を通じて、其等のものが吾人にとりて如何に重要なるかと粗笨ながら或評價の試みられつゝあるを知るなり。價值に關するこの根本的又は胚種的觀念は、事實に於て限界的効用の觀念と同じきものにて、主觀的使用價值の名詞によりて他の觀念より區別せらるべきものなり、而してこの主觀的使用觀念は如何なる貨物につきても、之に評價するの、人に對し該貨物の單位が有する經濟的重要そのものなりと定義するを得べし。

此等の見積、即ち此等の主觀的使用的評價は本來、他に傳へて知らしめ難きものなり。即ち吾人は他人の心に此等の主觀的評價を轉移し得ざるものなり。まづ他の方面

より適例を借り來りて説明すれば、吾人は黒色の如何なるものなるかを他人に語り能はざるなり。物理學者によれば、黒色とは光明の缺如せるを意味す、夫故に色の缺如を意味すといへる物理學的事實を立し得べし、然れども讀者は物理學者の説明を繰廻したればとて、黒色なる言葉によりて自己の心裡に起りたるところの觀念、又は感情を到底友人の心裡に轉移し得るものにあらず。かくて如何にして讀者は、黒色、青色又は白色につきての觀念を生來の盲人に傳ふべく試みんとするか。かゝる場合に讀者は恐らく「余は白色なる觀念を盲人に語り能はずとするも、白色を見たところの人に對して白色の如何なるものなるかを語り能ふ」と言ふなるべし。さて、或人が熱帯地方より雪の白色なることを一友人に報導するときに、白色なる言葉は少くとも一般の説明法に従ひ、牛乳、清明なる雲翳及び類似のものによりて與へらるゝが如き印象を彼自身の心裡に描くものなること、及び白色なる言葉は、又その目撃せると同様なる事例をその友人に想起せしむるものなることを認容せざるべからず。然れども彼は牛乳及び清明なる雲翳——白しといふこと——によりて與へらるゝ色彩に關する印象

が、その友人に對するものゝ如く彼自身にありても同様なりとの何等かの智識を有するものなりや、又は如何にしてそれと同様なるを知り得るものなりや。如斯場合に於て事實は表明をなすの必要もなく、たゞ比較以外に於て何事をも他に傳達し能はずといふと是なり。而して之と同様なる説明は主觀的使用價值の見積につきても眞實なり。吾人は主觀的使用價值の見積を他に轉移し得ざるなり。かくてその説明をなさんと試みるときに、吾人は自ら比較によるの外、他に道なきを發見す。かくして若しも或人が自ら幾冊かの書籍を要し、又は幾冊かの「ホツキ・スケート」を要するものなるをその友人に語らんと欲せば、彼は自ら「若し余にして「スケート」を所有し得るものならんには、滿一年間其等のものを所有せずとも満足すべし」、又は「余は其等のものを得んがために一ヶ月間労働するも厭はざるべし」といふが如き説明をなすの外、他に道なきを發見すべし。然れども彼はかくいふことによりて何事かをなすべきか、又は何事をも爲さざるべきか機會を以て一ヶ月なる時間の絶對的重要が彼自身にとりて如何に大なるかをその友人に語ることなかりしなり。

欠

欠

するとき、吾人は特種なる名詞、價格を使用す。されば價格は單に貨幣の名目によりて表示せられたる價值なり。價值は綱目なり、價格はその綱目のよく知られたる部類たるものなり。

市場とは何ぞや 説明を簡單ならしむるために、吾人は二人の經濟的合致點を假定して交換の由來、原因及び性質を説明したり。さて吾人の擧げたる説明の形式は若し彼我二人者の心の合致すといふより以上には市場の觀念を作くるに何事も必要にあらずとの印象を心に強く留めしむるものならば、更に一段の價值あるものなり、——この事實は尤も多數の市場が尤も多數人の心の合致を表示するものなるが故に、かへりて吾人により忘却し去られ、又は理解せられざるところのものなり。更に大なる、更に自動的なる市場に於て、價值は公平に手堅く維持せらるゝものなり、何んとなれば如斯き市場に於て多數人の心がしか合致するものなるが故なり。

吾人自ら市場に出づることは市場を構成するに必要なものにあらず、郵便、電信、電話及び無線電信を通じて、人々の心は其等の人々が自ら市場に行くの必要なくして、

多數の商品に對し多數の散布せる市場に表現し得らるゝものなり。一例をあぐれば、有價證券に對する市場は倫敦、紐育及び其他の多數都市の仲買人の意志が彼等自身の取引のために單に會合するところの場所よりも、更に甚だ廣きものなり。其等の市場は數百萬の委託者より又は恐らく世界を通じて散在する委託者より成立するものなり。若し、如何なる瞬間にありても證券(その如何なるものなりとも)の價格が加州なるレトランドに於ける觀察力強き一市民の心裡に描ける財貨が他の財貨に對する相異なる割合を表示するものならば、彼は電信を送り、その所有する證券の貯藏を増加し、又は減少することにより、及びそれに呼應して他の財貨の貯藏上に於ける彼の支配を減少し又は増加することによりて彼が、その主觀的交換的評價(價值)を市場に於て表示せらるるが如き世界の評價と同等なる點に達せしむる迄、該證券を購入し、又は賣却し得るものなり。

勿論二三の市場のみ、以上説明せるが如く公開的にして、且つ廣きに互るものなり。金は何等の疑義なく世界を市場として流通し得べし。小麥は更に限局せられたる市場

を有すると同時に、その市場は歐羅巴及び亞米利加にとりて、少くとも一の世界市場の如く見ゆるまでに廣くして國際的のものなり。然れども多數の商品につきては、其等が何れも世界的、又は國家的に廣き市場を有するものなりとは、事實上云ひ得ざるなり。如何なる特殊の市場なりともその範圍は、實質的に市場を構成するものの常に如何なるものなるかを記憶しつゝ、その特殊なる事情を研究することによりて發見せらるゝものなり。

市場と平準的價值及び價格

さてさきに擧げたる例解につきて再び考察すべし。今や吾人は或廣告の言葉を用ひて、ロー又はドウの貯藏する麪麩、又は珈琲の由來に關して「如何なる疑問も起らざりし」ことの事實にまづ吾人の注意を拂ふべし。吾人はこのことを力説するために特別なる注意をなすべし、何んとなれば重要な經濟的差別はその上に基礎を置くものなるが故なり。吾人は如何に種々異なる數量が種々なる價格にて提供せられ、(しかも何故に如斯の提供が其等の特殊價格にて爲さるゝかを尋求することなく)、又需要せらるゝことを知るものなりと假定しつゝ、吾人が如何なる

價值又は價格が何れかの時に於て、又何れかの市場に於て表記せらるべきものなるを研究し來るときに、吾人は市場價值、又市價價格の問題と關係あるものなり、この市場價值又は市場價格は、他の言葉を用ゐて説明せるが如く、常に需要及び供給が平衡せらるゝ點、更に言ひ換ふれば、大多數の交換が需要及び供給の現存的狀態に於て行はるゝところの點に於て決定せらるゝものなり。

他の一方に於て吾人が、その貯藏貨物の何處より來り、又如何なる難易を以て市場に輸送せられたるものなるか及び其他につきて研究を始むる時に、吾人は當然この問題につきて考へざるべからず、何んとなればこの問題に對する答は蓋然的將來供給及び結果的將來價格に光明を投ずるものなるが故なり。而して吾人が或瞬間、又は或短時期に——其等の期間中にありて、例へば作物收穫期に於けるが如く、貯藏財貨が増加することなき——於ける價值又は價格の如何なるものなるかにつきてにあらずして、寧ろその期間中に知られたる供給の狀態が反照せらるべき機會を有するところの或時期に於て恐らくは實現せらるべき、又は少くとも接近せらるべき理想的價值又は價格

の如何なるものなるかを理解せんと欲するときに、吾人は吾人の研究を市場價值或は價格又は短期價值或は價格の問題より平準的價值或は價又は長期價值或は價格の問題に轉進しつゝあるものなり。されば平準的又は長期的價值或は價格は理想的價值又は價格なり——そのものは必ずしも實際的價格の長期に互る平均によりて量らるるものにあらず——しかもこの理想的價值又は價格の周圍に於て市場價值又は價格は高低上下し、而して又市場價值又價格は或時期に於てこの理想的價值又は價格に向ひて不斷に接近せんとするの傾向あるものなり、尙この時期にありて供給に關する種々なる狀態の中その何れかが威壓ある勢力を振ふものとして期待せらるるなり。

平準的價值につきて更に一步を進めたる考察 平準的價值の研究はそれによりて種々なる種類の貨物が市場に到達するところの經濟狀態、即ち供給狀態の研究を包抱するものなることは明白なり。此等供給狀態の分析的研究の第一結果は此等供給狀態を觀察するの見地より財貨が三個集團に分類せらるべきものなりといふことこれなり、即ち(一)絶對に稀有なる財貨、(二)獨占せらるゝの財貨、(三)競争的に生産せらるゝの財貨、

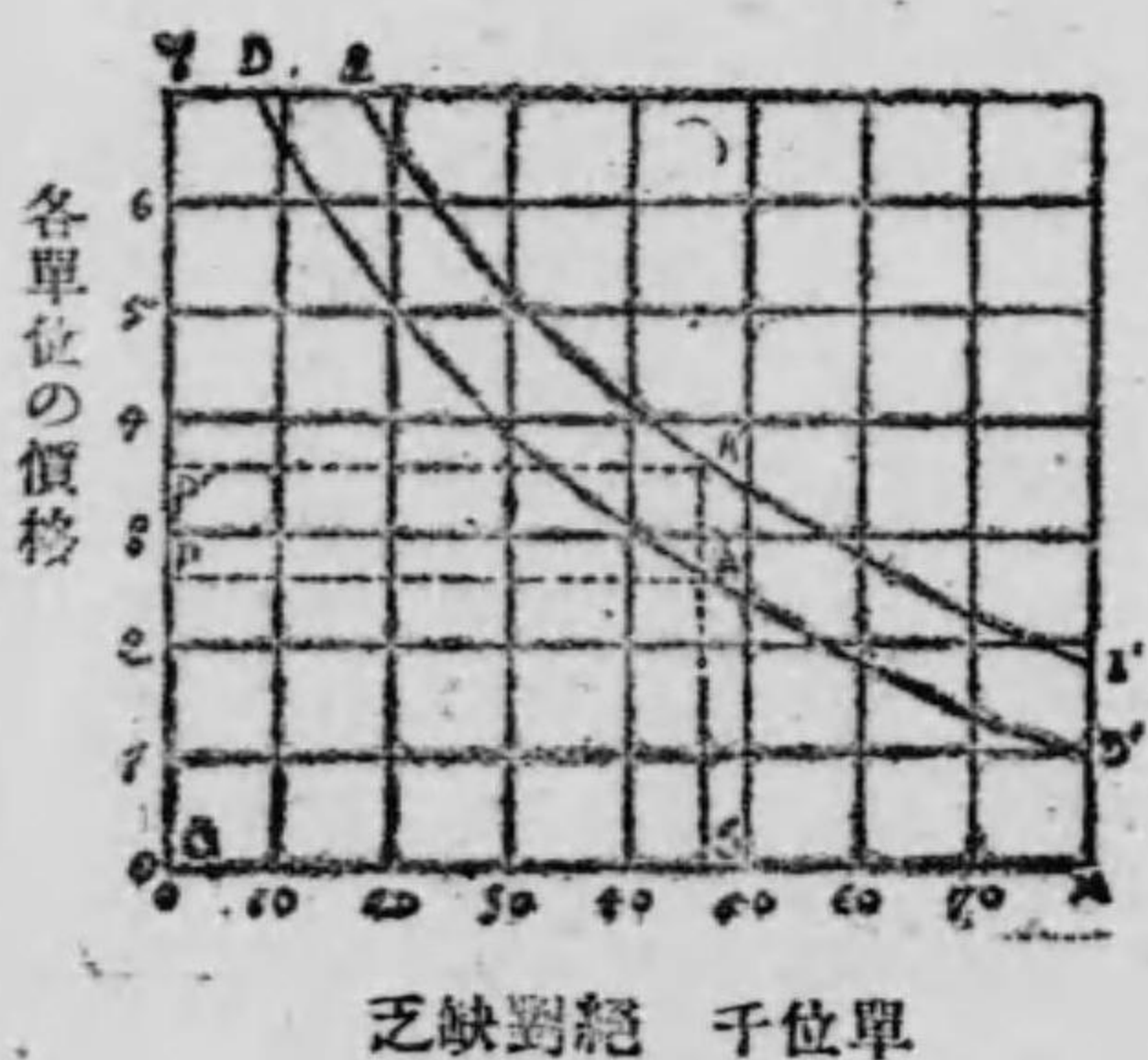
これなり。さて以上の用語を簡略ならしむるために、吾人は三種の財貨を其缺乏性の異なる性質により次ぎの如き語句を用ゐて記述するを得べし、即ち(一)絶對的缺乏、(二)獨占的缺乏、(三)費用的缺乏これなり。而して此等用語の意義に至りては次節に説明するところのものによりて更に明瞭となるべし。

絶對的缺乏財貨の價值 千八百四年の弗銀貨、又は落下せる隕石より得たる金屬の如き絶對的缺乏財貨の平準的價值又は價格の決定は夫等財貨の市場價值又は價格の決定と著しく異なるものにあらず。供給は定限せらるゝにより、大凡に實際的眞實なりとして、其等缺乏財貨の價值——平準的價值又は市場價值の何れも——は需要如何によりて定めらるゝものなりといふを得べし。教授マアシヤルが巧妙に説明せるか如く、ここに大剪刀の一對あるも、その一片刀が固着せられ而して動かし得ざるものなるるときに、吾人はその動くところの他の一片刀を用ゐて剪るの外更に道なきものなり。

次ぎの圖解は以上の事實を説明するにあたり學生諸君の理解を助くるものなり。まづOYを以て價格又は價値の軸線となし、而してOXを以て數量の軸線となすべし、

而してDD'を以て貨物に對する需要の状態を表示すべし、然るときにDD'が圖解するが如く、OX及びDD'間の垂直線的距離によりて計量せらるゝ需要價格はOXに沿ふてOよりの距離によりて計量せらるゝ假想的提供の各増加と共に下落するものなり。

さて若しも市場に存在するものとして考へらるゝ貨物の數量が限局せられ、固定せられたらんには該貨物の貯藏はOSなる距離によりて表示せらるるものとなすべし、而して其場合に於て該貨物の價値は垂直線ASによりて表示せらるべきものなり。若しも吾人が該貨物に對し増加せる需要を曲線I'Vによりて表示せらるものとなしたらんには、その新價格がA'Sによりて表示せらるゝは明白のことなり。



獨占的價値又は價格 獨占の場合に於て、供給は經濟的考慮によりて決定せらるゝが如く獨占者の意志に従ふものなり。かくて獨占及び獨占價値は次章の研究題目を構

成するものなるが故に、吾人は次節に於て論究すべき競争的費用價値の説明と關係ある場合を除きて、こゝには何等、獨占價値問題の研究に歩を進めざるべし。

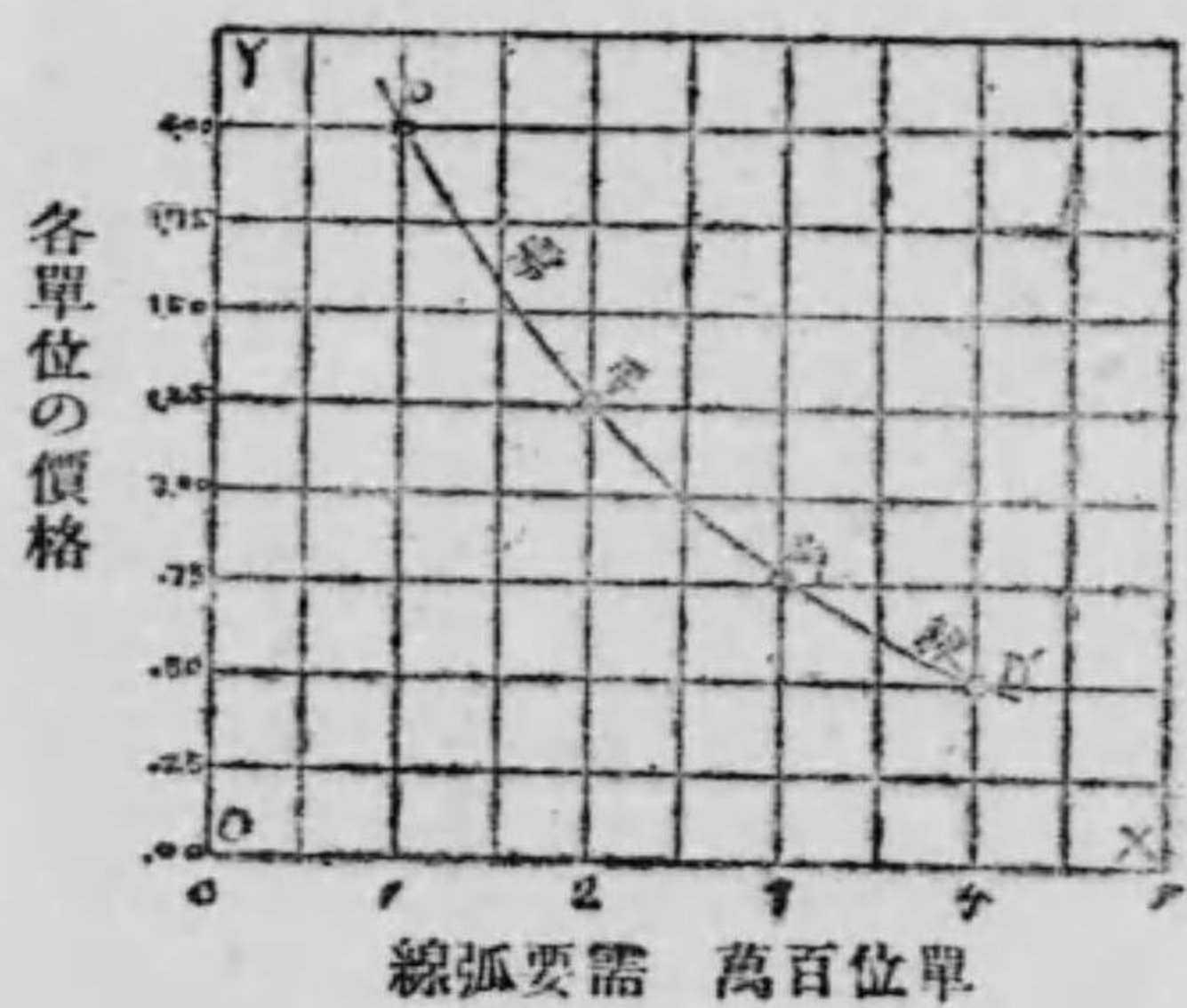
競争的生産財貨の平準的價値 こゝに、吾人は競争が實際上近代的産業世界に於ける財貨の生産及び賣却の上に如何に影響するかの範圍を研究するの必要なし。よし産業の各分派が大なり小なり獨占又は絶對的缺乏性の痕跡あるを表示するものなりと認容せられざるを得ざるものなりとはいへ、吾人研究の目的に對し現時産業の大部分に亘り、競争は或程度まで價格政策を支配するの勢力あるものなりと主張するを以て充分なりとす。尙、競争の下に、平準的價値又は價格の決定に關する問題を考慮するにあたり、吾人は若しも實際に於て競争の完全ならんには、如何に價格及び價値の樹立せらるべきものなるかを問はんとするものなり。而してこの質疑に對する答案は吾人が如何に價格又は價値が、産業上に於ける絶對的缺乏、獨占、及び競争の關係的勢力に準據して、或一定産業に於て事實上定めらるゝかを自ら決定するにあたり使用し得るものなり。

さて吾人が平準的價値又は價格の研究を始むるときに、吾人はこゝに價値の凡べて他の場合に於けるが如く、凡べて價値又は價格を決定するもの、第一は社會の必要なことを發見す。需要の法則は處々に擧げられ、而して説明せられたり。こゝには數字的事例により又圖解によりて該法則を説明すべし。さて或一定時期に於て、ある貨物に對する社會の需要は次ぎの如きものなりと假定すべし。

- 一、〇〇〇、〇〇〇 單位に對して社會は各單位 二弗を拂ふべし
- 二、〇〇〇、〇〇〇 單位に對して社會は各單位 一弗二十五仙を拂ふべし
- 三、〇〇〇、〇〇〇 單位に對して社會は各單位 七十五仙を拂ふべし
- 四、〇〇〇、〇〇〇 單位に對して社會は各單位 五十仙を拂ふべし

かくして、絶えず此等の範圍外、又は範圍内に於て他の價格及び數量に對して社會は支拂ふものなり。勿論、需要に關する完全なる描寫を與ふるところの數表のために紙面を割くことは明かに不可能なり。而して次ぎの圖表は同じく需要の假定的狀態を圖解的に表示するために用ゐらるゝものなり。

さてさきの圖表に於けるが如く、こゝにも、數量はOX軸線に沿ふてOY線より右方に進むところの距離によりて計量せらるゝものなり。又、願望の限界的強サ、又は寧ろ購買力によりて支持せられ、及び購買力によりて計量せらるゝところの限界的強サはOY軸線に沿ふて表記せらるゝ如く、OX軸線に於ける垂直線の距離によりて表示せらるゝものなり。此等二個の要素、即ち數量及び限界效用は相互に攀縁して變易するものなり。OYより右方に進むに従ひ水平的距離によりて表示せらるゝ數量は更に増



大する者なり、而してOXより上方に向ふ垂直線の距離によりて表示せらるゝ限界效用は漸次に減少するものなり。夫故にDD'なる孤線の性質は茲に假定せる需要の状態を表示するものなり。されば需要を表示するの孤線としてのDD'は更に殆んど水平線的に描寫せらるべきものなるべし、而して實にその孤線が數量の各増加に對して絶えず減少するところの限界效用を表示し得べく描寫せ

らるゝものならば、需要の他の可能的状態を表示するところの或傾斜又は傾斜の結合せるものをも描寫せらるべきものなるべしとは學生諸君の考慮によりて明瞭ならん。

以上の數表及び圖解を念頭に置くと共に、吾人は眞の根本的意義に於て購買者が常に價值又は價格を決定するものなりと指示せざるを得ず。言ひ換ふれば、提供せられたる或數量に對して、その價值又は價格を決定するものは該數量の各單位に對して如何に支拂ふべきかを表明するところの社會これなり。

乍併、價值又は價格が如何なる場合に於ても社會によりて決定せらるゝものなりとはいへ、已に説明せる如く、價值は提供せられたる數量の如何によるものなり、而して夫故に吾人は完全なる競争の行はるゝことの假定に於て、市場に提供せらるる數量が如何に決定せらるべきものなるかにつきて考慮せざるべからず。

已に生産要件の章に於て、吾人は或一定時に於て天然的生产要件の單位に勞力及び資本を使用するにあたり其處に放下點あり、而してこの放下點を超えたる投資の報酬か比例的報酬よりは更に少許なる所以を説明したり。されば若し吾人にして、その生

産に併用せらるゝ天然的原料品が決定的部分を演ずるところの或貨物の競争的に生産せらるゝ場合につきて考へたらんには、各生産者又はその生産に與かる凡べての競争的生产者等は彼等の生産貨物を市場に提供するにあたり、如上の勞力及び資本放下の法則に支配せらるべきものなり。

こゝに再び數表及び圖解によりて如上の状態又は地位を説明すべし、然かもこゝに引例せらるゝ貨物も亦さきに需要の數表及び圖解に於てあげしところのものと同一なりと假定すべし。更に又、實際的經驗を有する生産者の數千人又は數百萬人がA、B、C、Dなる四人の生産者よりてに代表せらるゝこと、及び此等生産者の生産費用は種にして次ぎの如しと假定すべし、

- Aは一單位二十五仙の費用にては 一五〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位五十仙の費用にては附加的 一〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位七十五仙の費用にては附加的 五〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位 一 弗の費用にては附加的 三〇、〇〇〇 單位を生産し

- 一單位一弗五十仙の費用にては附加的 四〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位二弗の費用にては附加的 一〇、〇〇〇 單位を生産す
- Bは一單位二十五仙の費用にては 三〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位五十仙の費用にては附加的 二〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位七十五仙の費用にては附加的 一〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位一弗の費用にては附加的 五〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位一弗五十仙の費用にては附加的 六〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位二弗の費用にては附加的 五〇、〇〇〇 單位を生産す
- Cは一單位二十五仙の費用にては 四〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位五十仙の費用にては附加的 三〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位七十五仙の費用にては附加的 二〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位一弗の費用にては附加的 一二〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一單位一弗五十仙の費用にては附加的 一五〇、〇〇〇 單位を生産し

- 一 單位二弗の費用にては附加的 一四〇、〇〇〇 單位を生産す
- Dは一單位二十五仙の費用にては 五〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一 單位五十仙の費用にては附加的 四〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一 單位七十五仙の費用にては附加的 三〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一 單位一弗の費用にては附加的 二〇〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一 單位一弗五十仙の費用にては附加的 二五〇、〇〇〇 單位を生産し
- 一 單位二弗の費用にては附加的 二〇〇、〇〇〇 單位を生産す

此等の數表を綜合して、こゝに凡べての假定的生産者に對する供給數表を構成し得るなり、その數表次ぎの如し。

種々異なる供給に對する種々なる限界的費用

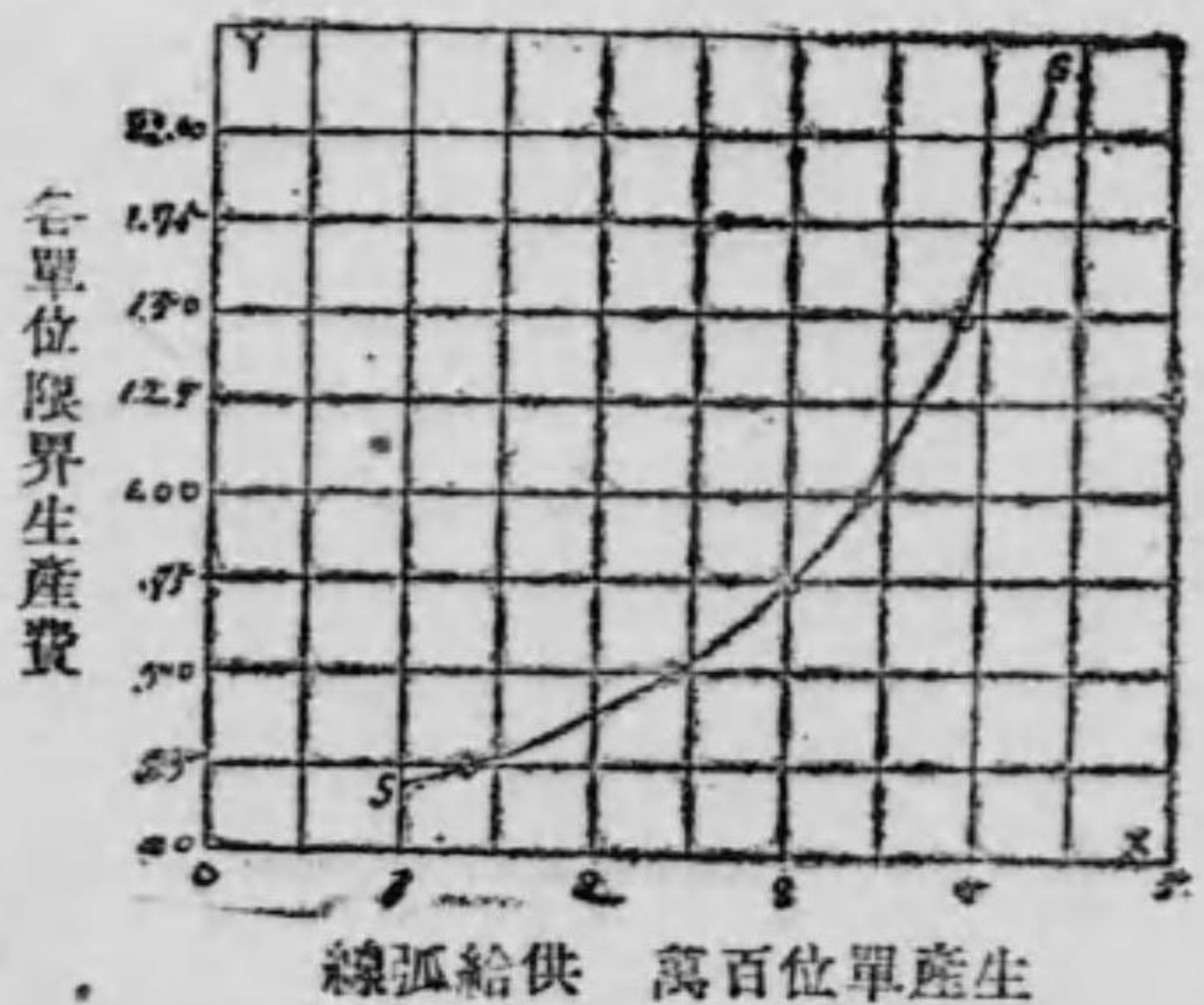
- 二十五仙の限界的費用に於て 一、三五〇、〇〇〇 を供給し
- 五十仙の限界的費用に於て 二、三五〇、〇〇〇 を供給し
- 七十五仙の限界的費用に於て 三、〇〇〇、〇〇〇 を供給し

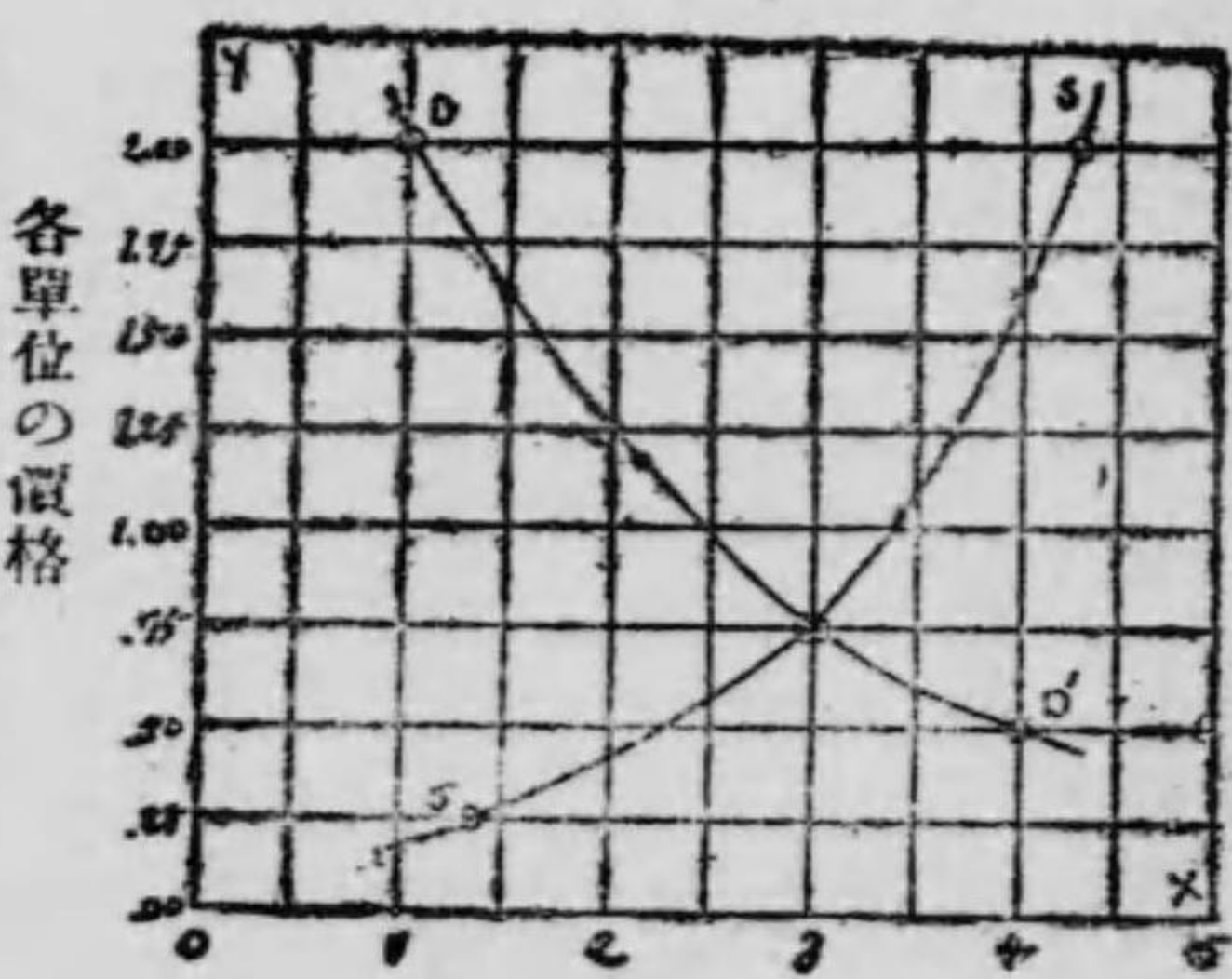
- 一弗の限界的費用に於て 三、四〇〇、〇〇〇 を供給し
- 一弗五十仙の限界的費用に於て 三、九〇〇、〇〇〇 を供給し
- 二弗の限界的費用に於て 四、三〇〇、〇〇〇 を供給す

以上の數表又は供給數表が更に圖解を以て説明せらるゝときに次ぎの如し。

需要の圖解に於けるが如く、數量はOY軸線より右方に進むところの水平的距離によりて計量せらるゝものなり。而してこゝにOX線上に於ける垂直線の距離は貨幣單位の名目にて計量せられたる生産の限界的費用を表示す、S'S'は夫故に數量及び限界的費用の相互關係的變化の結合的運動を説明す。

而して次に又圖解によつて説明せらるゝが如く、需要の圖解の上に供給の圖解を重ねて需要及び供給の關係を觀察すべし。かくて上掲の圖解は需要及び供給兩數表の比較の如何なるものなるかを





供給及要需 萬百位單

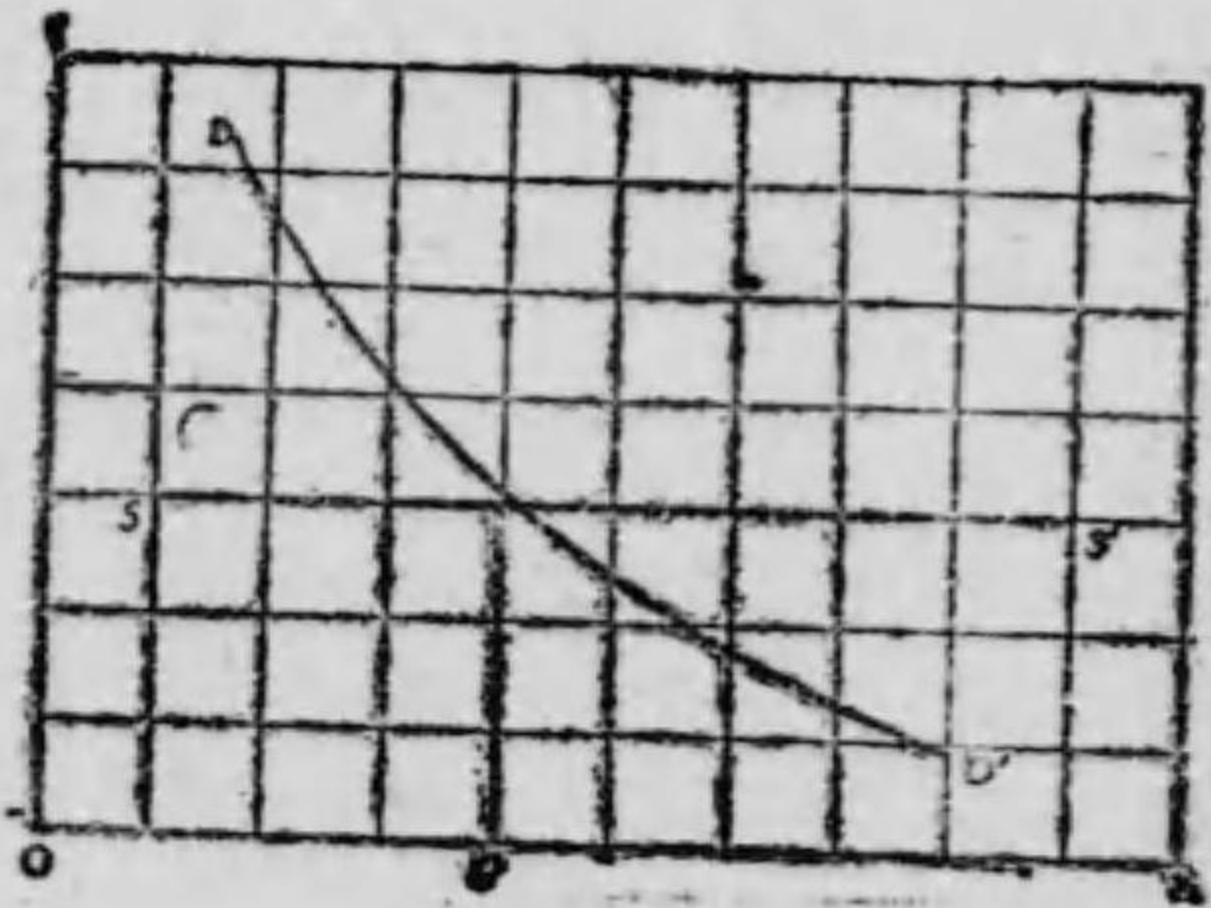
用、又は最後單位の費用として、附加的單位の大多數の平均費用を採用してあまりに吾人の研究問題を單純化したり。然れども該單純化はこゝに吾人が單に例説しつゝあるところの眞理を毀損するものにあらず。

こゝに吾人が假定せる状態の下に、該貨物の平準的供給は三、〇〇〇、〇〇〇單位なり、何んとなればこの數量は社會が如斯數量に對して仕拂はんと欲するよりも更に大ならざる限界費用に於て生産せられ、且つ市場に提供せられ得るの數量なるが故なり、

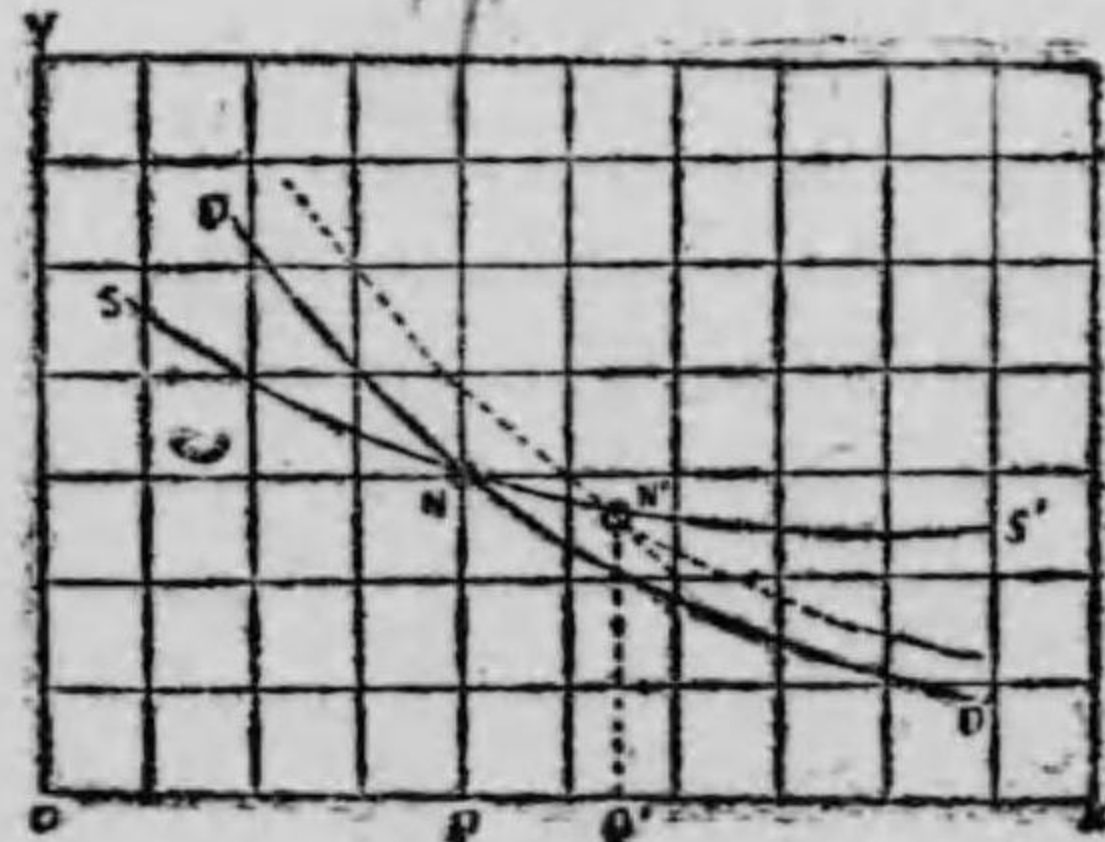
而して七十五仙は平準的價值又は價格なり、何んとなれば七十五仙に於て、社會はこの七十五仙の限界費用にて生産し得らるゝところの凡べての數量を都合よく買取らんと欲するものなるが故なり。

市場價格、即ち物價を論究するにあたり、吾人は市場價格は需要及び供給が平衡するの點に於て決定せらるゝものなりと説きて、その論を結べり。競争的に生産せられたる財貨の平準的又は長期價格の場合に於て、吾人は更に一步を進めて平準的價值又は價格は漸減的限界効用が生産の限界費用と平衡するに至るところの價值又は價格なりと言ふを得べし。

吾人は説明の爲めに報酬漸減の法則に従ふ所の一生産物を引用したり。次ぎの圖解は同様なる方法により、第一に限界費用は生産せらるゝ數量に於ける變化と共に、即ち恒久的費用の状態の下に變化し爲さるもの、而して第二に限界費用は全生産高の數量に於ける増加と共に、即ち費用減少又は報酬増加の状態の下に減少するものなりとの假定に於て如何に競争的平準的價格が決定せらるゝものなるかを説明す。第二圖



用費的久恒

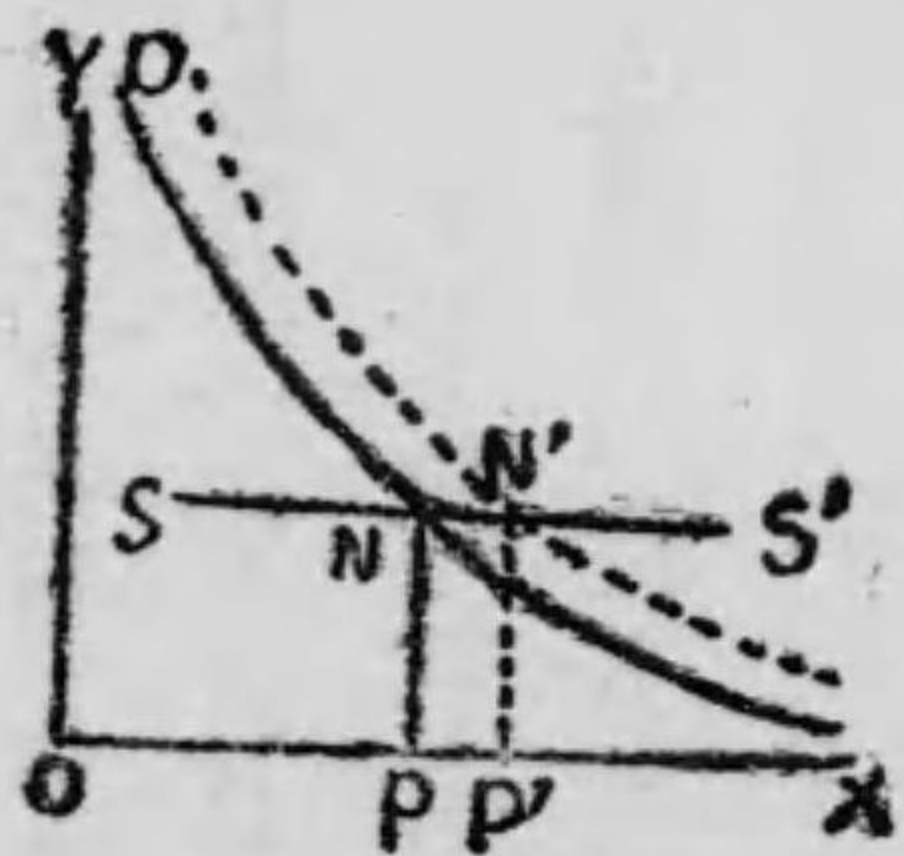


用費的少減

して、簡單なる一例をとり、吾人をして、生産費用が恒久に増減なきものと假定し、

貨物の平準的價值に於ける需要増加の結果を説明するため一圖解を描かしめよ、而して此等圖解の説明はこれを省略すべし。

さて競争的平準的價值の決定に關する議論を進むるにあたり、以上説明せるが如き學説が種々なる勢力により變更せら



用費的久恒及び増加

るゝところのある事實的狀態の説明を以てその議論を終るを常とす。而して吾人はただ其等勢力の最も重要なものゝ二三の名を擧ぐるに止めて、如何なる範圍にまで及び、如何なる方法に於て其等勢力が以上數節に亘りて敷演し且つ説明せる一般的結論を變更し、又は其等結論と衝突するかの問題に至りては専ら學生諸君の考慮に待たんとす。而して時として「摩擦的要素」と稱せらるゝ諸勢力の中、尤も重要なものは慣習、勞力及び資本の非移動性、不公平なる租税、無計畫の生産及び「副生産物」これなり。

次章に於て吾人はまづ最初に獨占の如何なるものなるか、而して如何なる點に於て競争と異なるかを説明したる後、更に獨占的價值又は價格の問題に關する論究に歩を進めざるべからず。

摘要

一、經濟學に於ける用語價值は説明せられたる意義以外に種々なる意義を有す。

- 二、主觀的使用價值とは貨物を評價する人々に對してその單位の經濟的重要を指すものなり。
- 三、主觀的使用價值は他に傳達し得ざるものなり。
- 四、主觀的交換價值とは貨物の評價をなすところの人々の心理に於ける二個の主觀的使用價值間の數量的割合なり。
- 五、交換は主觀的評價(價值的比較)に於ける相異より起る。
- 六、相異なる主觀的交換價值を考慮するところの二人又は四人以上の心が合致するときに、其等心の合致は市場を構成す、其市場に於て、主觀的交換價值に於ける差異は交換によりて消散す、而して交換の割合は其市場に於ける客觀的交換價值なり。
- 七、價值なる言葉は、單獨ゾロに使用せらるゝときに、普通に客觀的交換價值を意味す、——即ち或る二個の財貨又は勤勞が交換せらるゝところの數量的割合なり。
- 八、價格は貨幣の名目により表示せられたるところの客觀的交換價值なり。
- 九、市場價值(即ち市價又は物價)は何れの市場に於ても、又何れの時に於ても、その

市場、その時に於ける實際的價值なり、而して該價值は常に需要及び供給が平衡を得たるの點に於て決定せらるゝものなり。

- 十、平準的價值は市場價值が、その期間中供給の知られたる状態又は事情がその威壓ある勢力を振ふところのある時期の間、當然歸向せんとするところの理想的價值なり。
- 十一、財貨は其等供給の見地より絶對的缺乏財貨、獨占財貨、及び自由生産財貨として分類せらるゝものなり。
- 十二、絶對的缺乏財貨の平準的價值は需要によりて決定せらるゝものなりといふを得べし。
- 十三、自由生産財貨は、(一)増加インクリーゼンク、ユニット、コスト的單位費用に於て、(二)恒久的單位費用コンスタント、ユニット、コストに於て、(三)減少デクリーゼンク、ユニット、コスト的單位費用に於てその數量を増加し得べし。
- 十四 何れの場合に於ても、平準的價值は限界効用が限界費用と平衡するの點に於て定るものなり。

十五、所謂摩擦的要素、即ち價值の一般原則を不明瞭のものたらしめ、又は變更するところの事情は慣習、勢力及び資本の不動性、不平等なる租税、無計畫の生産及び「副生産物」を包括す。

復習問題

- 一、主觀的使用價值、主觀的交換價值、客觀的交換價值、價格、及び市場の定義を擧げよ。
- 二、さきに定義せられたる價值の三概念の關係を指示せよ。
- 三、財貨供給の三状態を區別せよ。
- 四、「自由に生産」せらるゝ財貨の供給が其等状態の下に増加せられ得るところの三状態を區別せよ。
- 五、(a) 社會的需要、(b) 恒久的出費によりて生産せらるゝ貨物の供給を説明するため、圖解を應用すべし。

六、如何なる點に於て市場價格は決定せらるゝか、又如何なる點に於て、自由生産財貨の平準的價格は決定せらるゝか。

研究問題

- 一、價值なる言葉の語源(出處)は如何。經濟學以外に用ゐらるゝ價值なる言葉に關する二三の意義を説明せよ、種々に使用せらるゝ意義に共通的満足の得らるゝものありや。
- 二、友情又は愛は主觀的に評價し得らるゝものなりや、又は客觀的に評價し得らるゝものなりや。
- 三、絶對的缺乏財貨、獨占的財貨、及び自由生産財貨につきて二三の例を擧げよ。
- 四、費用増加の状態の下に又は費用減少の状態の下に生産せらるゝ財貨の二三をあげよ。
- 五、主觀的使用價值に於ける一般的騰貴は考へ得べきことなりや、又主觀的交換價值

に於ける一般的騰貴、客觀的交換價值に於ける一般的騰貴、及び價格に於ける一般的騰貴は考へ得べきものなりや。

六、如何に木綿に對する需要の増加は棉種油の價格に影響するものなりや、讀者はガ
スリン油の價格が自動車價格に於ける顯著なる低落によりて如何に影響せらる
るかを知らんと期待するものなりや。

七、羊肉又は羊毛は牧羊業に於ける副産物なりや、如斯きは何れの處にありても同様
なるものなりや。

第二章 獨占及び獨占的價值

前章に於て吾人は貨物が競争狀態の下に自由に生産せらるゝ場合に、其價值は限界費用コストが供給の限界効用と平衡するの點に於て決定せらるゝものなることの結論に到達せり。同時に凡べての貨物は如斯にして生産せらるゝものにあらざることをも指摘したり。如斯く例外と認むべき財貨の最も大なるものにして、しかも最も重要な種類は獨占業者によりて生産せらるゝところのものより成立す。夫故に價値の原理を完成せんがために、吾人は獨占的價値が如何に決定せらるゝものなるかを研究せざるべからず、而して是に關する理解を得るの順序として先づ獨占とは如何なるものなるかを知るの必要あり。

定義と分類 獨占の定義は次の如し、而して學生諸君は其各語各句の意義に就て宜しく精細に理解するを要す。

獨占とは、或る種の事業に従事する一人又は一人以上の行動の實質的結合を意味す。

而して假令其行動は專一ならずとするも、その市價に關しては特に排他的支配力を有するところのものなり。

さて獨占問題を取扱ふところの學者は獨占の種類に關して多數の分類を試みたり、而して如斯きは種々異なる見地より分類せられたるがためなり。さて獨占そのものにつきてよりは寧ろ獨占力の根源につきて試みられたる次ぎの分類は實際的獨占の起源及びその實性質を説明するに於て特に裨益すること少からざるべしと信ず。

イ、社會的獨占

一、一般の福利に關係ある獨占

(一) 專賣特許權

(二) 版權

(三) 商標權

(四) 公共的消費獨占

(五) 財政的獨占

ロ、特殊の權利に關する獨占

(一) 公共の利益保護に基ける獨占

(二) 私人の利益保護に基ける獨占

ハ、天然的獨占

一、原料供給の制限より生ずる獨占

二、事業其物の特殊なる性質より生ずる獨占

三、祕密より生ずる獨占

社會的獨占 事業が其物の性質に依るにあらずして、法律の制定に依り、若くは性質上天然的獨占の一部と見らるるまでに、天然的獨占と密接なる關係を有することに依りて獨占業となりたる場合に之を社會的獨占と稱す。

往時王或は女王は屢々寵人に事業上の排他的特權を許可せり、而してその指名される本人を除きて、何人にもその事業に従事するを許さざりき。然れど如斯の獨占は一般に甚だ嫌惡すべきものなりしより、君主は其特許を停止するの已むを得ざるに至れ

り。今日政府は專賣特許及び著作権の法律に依りて尙ほ排他的特權を創設す、然れども此等は一般公共の利益のために設けられたるものなり。即ち著作者及び發明家は一時期の間、その生産物に對して排他的權利を賦與せらるゝものなり。此等の獨占は、發明家及び著作者を奨励するの一方法として正當と信せられたり。然れども凡べて智識上の成功は部分的に社會的生産物と云ふべく、發明家及び著作者等はその大部分に於て前代の成功に負ふものなるを忘るべからず。例へば電話は音響を線により傳送し得るに至るまで一世紀の間繼續せる科學的發明及び發見を前驅として完成せしものなり、而してその研究實驗者の多數は不幸にも十分の報酬を得ざりしなり、たゞ大體に於て經驗は專賣特許及び著作権が有益なる制度なるを是認するものゝ如し、然れども專賣特許は二人の著作家が精密に同一なる著書を爲し能はざるが故に著作権の場合に於けるが如く強固なる基礎の上に立つものにあらずとの議論も、また認めらるるが如し。

商標は專賣特許及び著作権と同様なる立法上の獨占なり、而して事實に於て夫自身

著作権たるなり。しかも著作権より分離して特立せる地位の與へられたるは、商標が近代的營業に於て特に重要なものとなりたるが故なり。更に放縱なる廣告と關係して、近時に於ける商標は種々なる利益の基礎とせらるゝに至れり。

公共的消費獨占及び財政的獨占は特種の説明を必要となすものなり。而して此等の獨占は政府が此等獨占を設くるに至りたるところの目的を知ることによりてのみ區別するを得べし。若し政府が消費を調節するの目的を以て酒類の賣買取引の獨占を自ら行ひ、又は之を他の人に特許することあらば、該獨占は公共的消費獨占なり。他の一方に於て、若しその主要目的が調節にあらずして、收入にあるならば、該獨占は財政的獨占なり。この二個の目的の結果として生じたる其等獨占を區別することの困難なると、又は不可能なることの爲めに屢々混同せらるゝものなり。

以上の分類は特權的獨占到二種あるを示せり。特別關稅々率上の利益又は他の立法に歸因するの獨占は公共的恩恵に基くところの獨占なり。特權的獨占の他の種類は他の獨占。特に鐵道の如き天然的獨占到對して許與せられたる特別の恩恵より生ずると

この獨占より成立す。

天然的獨占 天然的獨占は其存立のために、社會の意志或は同意に依るよりは寧ろ事業(商賣)其物の内部に於ける事情又は状態に依るところの獨占なり。此等の獨占は社會的意志又は願望と離れて獨立に發達し、而して時としては其等と直接反對の方向をとりて發達したり。吾人が如上の分類に使用したる名詞は獨占のよりて發生するに至りたるところの種々異なる本源を充分に説明するものなり。更に進んで凡べての獨占中尤も重要なるものは天然的獨占の第二種に屬す、而して其主要なるものを擧ぐれば車道、街路、運河、船渠、橋梁、及び渡船場、水路、埠頭、燈臺、鐵道、電信、電話、郵便、電燈、水道事業、瓦斯事業、各種の市街鐵道これなり。而して常に此等の種類に屬する獨占をして發生せしむるところの特殊的性質は次ぎの如く説明せらるるものなり、即ち聯合の結果としてそれより生ずる所得が確定的に増加するものなる場合には、如何なる時なりとも、凡べての障礙を排除し之に打克つところの獨占に進まんとするの傾向あり。この聯合より生ずる所得の確定的増加は常に(a)土地の特に

便宜ある場所又は區域を占有するところの事業及び(b)工場設備に關係して使用せらるべき勤勞又は貨物を供給するところの事業に於て見らるるものなり。

近年多數の經濟學者は以上に於て指示せられたるが如き何等利益なく共、獨占が大資本の優越力及び大集中の優越經濟を透して自然に發生し得べしと論ずるに至れり。

而して彼等は此種のことを資本的獨占と呼べり。しかも所謂資本的獨占に關する論斷に同意するを得ざるの理由は、之を此處に絮説するの餘地なし。茲には一二甚だ緊要なるものゝみを擧ぐべし。大資本に附隨して獨占に進むの傾向あるを主張せんが爲めに擧げたる實例につきての周到なる研究は、其引例せる獨占中以上已に説明せる獨占的利益の一、又は夫れ以上を享受せざりしといふが如き一例をも見るを得ざりしなり。又大資本の所有が表面上威壓的勢力なるものゝ如く見ゆる多數の場合も、皆短き間存在せしのみにして、之を引用せし論者の議論を維持するに足らず。最後に大資本により如何なる利益の生ずるに拘らず、巨大なる事業設備は利益の輕微なる差額にあ

るも尙その事業を創立するに至らしむるが如く常に競争者を見出し得るまでに資本の饒多なるを記憶せざるべからず。

斯くて吾人の到達せし結論は次の如し、已に説きたるが如き理由より、産業界において競争が自然に且つ永久に行はれざるところの一大分野ありて、その範囲は次第に擴大しつゝあるものあり、次に獨占が無謀なる社會の行動によりて容易に起こされ得るも、國民の智識及び思慮の啓發さるゝと共に次第にその範圍の狭めらるゝところの分野あり、最後に天然的獨占の存在せず又は存在し能はざるところの第三分野あり、而してこの分野には恐らくまた社會的獨占も起り得ざるものなり。

獨占的價格の第一法則 既に獨占の何者なるかを説明せるを以て、吾人は進んで獨占的價值又は獨占的價格が如何にして決定せらるゝかの問題の研究に入らんとす。

まづ第一に、吾人は獨占的價值が凡べての客觀的交換價值の如く需要及び供給兩者間の關係によりて決定せられ、及びこゝにいふところの需要は他の場合に於けるが如

く限界効用によりて決定せらるゝものなりと言ふを得べし。然れども、獨占的價值の場合に於ける供給は自由競争の下に於けるが如く限界費用の點に於て決定せらるゝことなく、獨占業者が需要の現存状態に於て出來得る限り量大量の純收入を收得し得るの點に於て決定せらるゝものなり。言ひ換ふれば競争より自由に、即ち競争なく而して單に需要のみを考慮することによりて支配せらるゝところの獨占業者は價格（物價）が最高なる純報酬を與ふるの點に立ち得るが如き方法に於て供給を需要に調節するの力あるものなり。されば以上の事實を呼びて供給の立場より見たる獨占的價格の法則と稱するを得べし。されば若干の數量が供給せられざるべからざるか、而して夫故に如何なるものが公衆の需要によりて定められたるの價格なるか、——言ひ換ふれば最高なる純報酬は如何なるものなるか——を決定するにあたり、獨占者は意識的に、又は無意識的に次ぎの原則に依りて行動するものなり。

一、獨占者はその獨占的生産物の提供に於ける各増加が限界的効用を低下せしむるに至るべく、而して夫故に該生産物の需要價格を低下せしむべく、同時に該提供に於け

各減少が限界的効用を昂騰せしむるに至るべし、而して夫故に需要價格を昂騰せしむるものなることを現實に理解し居るものなり。

二、生産費用につきて考ふるに、供給に於ける變更と共に殆んど規則的なる比例を以て其等生産費用の總計に於て變更するところの或種の費用あり。されば若し該生産物にして倍加せらるゝならば、原料品の合計費用も當然倍加せらるに至らん。而して如斯の費用を變更可能の費用と稱す。

三、更にその生産物の數量如何に不拘、或範圍内にありては其等費用の總計に於て更に殆んど變更あらざるところの他の費用あり。かくて固定的なりと稱せらるゝところの費用は工場設備的諸機械の費用、監督者の俸給、社債の利子及び其他を包括するものと知るべし。學生諸君はこゝに變更可能なりと稱せらるゝ費用は其各單位に對する費用が寧ろ恒久的又は變更不可能なるも、たゞ其等總計に於て變更可能なること、同時に固定的費用と稱せらるゝところの費用はたゞその總計に於て恒久的又は固定的たるも、生産物の單位に對しては實際、變更可能なることに注意せざるべからず。され

ば社債利子によりて表示せらるゝ合計費用は固定的又は變更不可能なるより、固定的費用として分類せらるゝと同時に、生産物の何れの單位に對しても要求せらるべき利子の數量は産出高の各増加と共に減少するものなり。

以上の原則より、獨占業者はその營業より最高限度の純收入を得んと求めつゝあるものなるが故に、彼は生産物の價格を立つるにあたり、固定的支拂要求(費用)には注意することなし、然れどもたゞ種々なる價格に於てその生産財貨に對する蓋然的需要と關係ある變動可能なる費用のみを考慮するものなり。

以上の説明　こゝに吾人は一例を舉げて以上原則の運用を説明すべし。而して次ぎの統計的數表に於て、平行的縦列は種々異なる價格にての獨占的財貨の賣上高の數量、合計所得、變動可能の費用、固定せる費用、合計費用、而して最後に純收入又は獨占的利益を表示するものなり。

單位に對する價格	賣上高	所得合計	變動可能の費用	變動可能の費用合計	固定的費用	合計費用	純收入
10	100,000	100,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
20	200,000	200,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
30	300,000	300,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
40	400,000	400,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
50	500,000	500,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
60	600,000	600,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
70	700,000	700,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
80	800,000	800,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000
90	900,000	900,000	30,000	130,000	50,000	180,000	20,000

九、〇	八、〇	七、〇	六、〇	五、〇	四、〇
八、〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
七、二〇〇	九六、〇〇〇	一、二六、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
二、四、〇〇〇	三六、〇〇〇	五四、〇〇〇	七五、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
五、〇、〇〇〇	五、〇、〇〇〇	五、〇、〇〇〇	五、〇、〇〇〇	五、〇、〇〇〇	五、〇、〇〇〇
七、四、〇〇〇	八六、〇〇〇	一〇四、〇〇〇	一二五、〇〇〇	一五五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
減 二、〇〇〇	増 一〇、〇〇〇	増 三、〇〇〇	増 二五、〇〇〇	増 二〇、〇〇〇	〇、〇、〇

以上の數表を研究することによりて、何故に獨占的価格がこゝに假定せるが如き場合に於て、六仙に定まるかの理由を了解し得べし。

若し競争の行はるゝものならんには、平準的利益の收得せらるゝかぎりその供給を増加して競争の繼續せらるゝものなり。而して如上の數字的説明に於て。生産の行はれ得るところの最低価格は四仙なり、而して夫故に、商賣取引上の最も弱き競争者が事業經營に要する凡べての費用を辛ふじて回収し得るものなりと假定して、四仙は競争的価格、又は生産の限界費用に對する限界效用の平衡によつて決せらるゝの價格なり。他の競争者は、更に有力なるが故に、比較的輕少の費用にて生産物の大部分を生

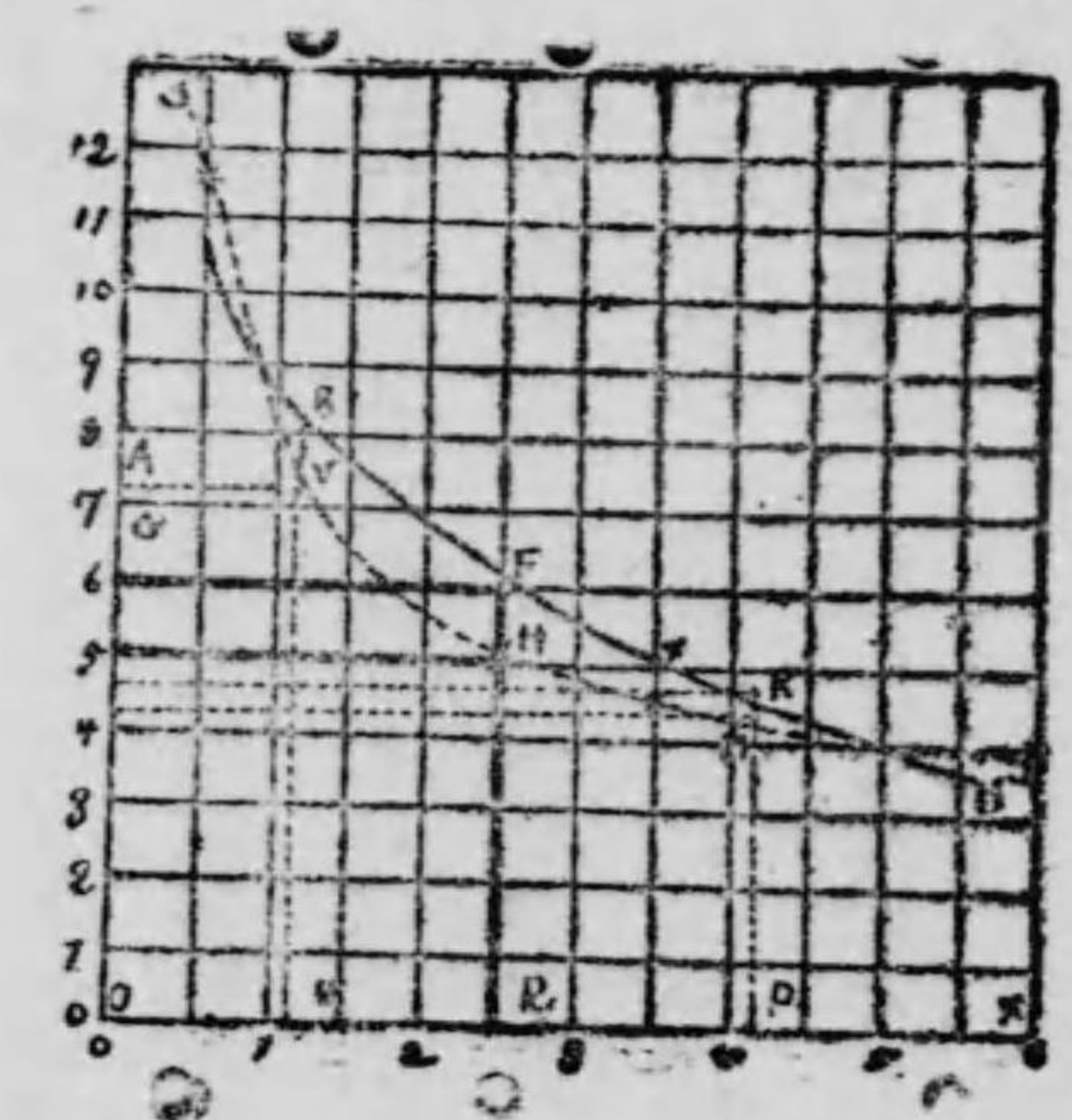
産し、尙該價格によりて利益を收得し得べし。乍併獨占業者は市場に於ける財貨の供給を支配するの力を生産上に有するが故に、彼は限界の效用を指示するところの二、五〇〇、〇〇〇單位に於て生産を制限するに至るべし、かくして其等單位に對する需要は、各單位の價格を六仙に定むべく、而して二五、〇〇〇弗といへる最大なる報酬を收得せしむるものなり。

以上の數表によりて表示せられたるの事實を更に圖解的形式によりて表示することは學生諸君にとりて一層興味深きことなるべし。たゞ此處に擧ぐるところの圖解は種種なる場合の一にして、この場合に於て獨占業者が貨物の製造上その生産高の増加するに従ひ、費用減少の法則の下に、單位に對する費用の低下する貨物の生産に従事しつゝあるの場合を説明す。而して如斯状態、又は事情は獨占の創設に尤も都合よきものなり。乍併獨占は又單位に對する恒久的。又は増進的費用の状態の下にも存立し得るものなり。

第三五五頁に於ける圖表は總賣上高、合計費用、及び獨占業者がその生産物を賣却

するにあたり撰定すべき三個の異なる價格により生ずるところの純利益を表示す。若し獨占がその價格を四仙半に定むるならば、その合計賣上高は直角長方形なるJKPOの面積と同様なるものなり、同時に生産の合計費用はLMPOの直角形によりて表示せらるゝものなり。同様に六仙の賣却價格に於て直角長方形EFROは合計賣上高を表示し、而してGHR Oは合計費用を表示するものなり、同時に八仙の價格に於て同様なる事實は相互的にABNO及びCVNOなる直角長方形によりて説明せらるるものなり。さて獨占は合計純利益につきて感ずるが如く總賣上高又は總費用に於てあまりに多く利害を感ずるものにあらず。單位に對する利益は明瞭に供給及び需要の兩弧線間なる垂直線の距離によりて表現せらるゝものなり。然れども合計利益は單位に對する所得に依るのみならず、亦賣却せらるゝところの單位數にも依るものなり。而して此等數量の生産物は八仙、六仙、及び四仙半の價格に於て順次にABCV、EFGH及びJKLMなる直角形によりて表示せらるゝものなり。而して出來得るかぎり此等利益の直角形を大ならしむることは獨占にとりて利益の増大となるものなり。

若し獨占業者が四仙半にその價格を定めたらんには、彼は四、二〇〇、〇〇〇單位を賣却し得べく、而してその利益はJKLMなる直角形によりて表示せらるゝなり。さはいへ、若しも彼にしてその價格を六仙にまで引上げたらんには、彼はその賣却高を



二、五〇〇、〇〇〇單位に減少するに至るも、彼の純所得はEFGH 直角形によりて表示せらるゝが如く、事實上利益の増加となるものなり。かく刺戟せられて、獨占業者は更にその價格を八仙に引上げんと試むることあらん、然れどもかゝる場合に於て、彼の試みたる値上げは過大に失せり、即ちこの價格に於て社會はたゞ一、二〇〇、〇〇〇單位を需要するに過ぎざるべく、而して夫故にABCVなる直角形によりて表示せらるゝ純利益は價格六仙の場合に於ける所得を表示するところの直角形EFGHよりも更に甚だ小なるものなり。されば、獨占業者は明かにこの需要及び供給の状態に於て各單位の價格を

六仙前後に於て維持することに努むるなるべし。

課税の結果 以上の數字的説明及び圖解は更に獨占業及び獨占的價格の上に及ぼす課税の勢力に關する説明にも應用せらるゝものなり。さて固定的費用は價格を決定するにあたり何等の勢力を有せず。夫故に若し固定的租税、例令へば一年五〇〇〇弗の租税が獨占業の上に賦課せらるゝとするも、價格を増加するに至らざるべし。さて數表につきて研究するに、如斯き租税の賦課せらるゝときに八仙の價格に於ける純收入は五〇〇〇弗なるべく、七仙の價格に於て一七、〇〇〇弗なるべく、六仙の價格に於て二〇、〇〇〇弗なるべく、五仙の價格に於て一五、〇〇〇弗なるべく、而して四仙の價格に於て五、〇〇〇弗の不足となるべし。その然る理由は固定的租税は獨占業にありて固定的費用の一部分を構成するものなるが故なり。かくして六仙の價格は尙最高限度の純收入の點にあり、而して夫故に獨占的價格たるものなり。他の一方に於て變動可能の租税、例へば各單位一仙の租税は獨占的價格を引上ぐべき結果を生ずるものなり。されば以上の圖解に於て如斯き課税の結果、八仙の價格に於ける純收入は二、〇

〇〇弗の不足となり、七仙の價格に於て四、〇〇〇弗となり、六仙の價格に於て過不足なく、及び五仙の價格に於て一五、〇〇〇弗の不足となるものなり。かくして假令獨占業が如斯き租税の賦課によりて大にその利益の減殺せらるゝことあるを見るも、消費者は獨占的生産物に對し各單位につき更に多く一仙の支拂を要請せらるゝことあるべし。夫故に社會が該租税より享受し得るところの可能的便益アドヴァンティヂは公衆か該貨物に對して支拂はざるを得ざる價格の騰貴によりてその全部、又は一部分の相殺せらるゝものなり。然れども若しも最高價格に於ける需要が最低價格に於けるが如くその純收入を大ならしむること能はざるものならんには、以上の如き價格の騰貴は恐らく起ることなかるべし。夫故に、固定的租税、又は獨占業の純收入に課せらるゝの租税は價格を變更することによりて之れが全部又は一部分を他に轉嫁し得ざるものなり。而してこれと同時に商取引の數量に比例して課せらるゝの租税は、變動可能の費用に附け加へらるゝものなるが故に、價格を變更することによりて之れが全部又は一部分を他に轉嫁し得るものなりと結論し得るなり。

若し如上の圖解が再び説明のために使用せらるゝならば、固定的租税は如何なるものなりとも純利益を表示する直角形より控除せらるべきものなるを容易に理解し得べし。されば如斯き租税を比較的小なる一直角形よりは寧ろ更に大なる直角形より引去ることの獨占業者にとりて利益なるは明瞭なることなり。他の一方に於て出來高の各單位に對する一仙の租税は全延長に亘り各單位に對し同數量の生産費用を表示する條線を引上ぐるものなり。而して如斯きは種々異なる利益を表示する直角形の形態及び面積を全く變更するに至るべし、而してこゝに考慮せらるゝが如き場合に於て、その最高限度の純利益を表示する直角形は七仙の價格に於て見るを得べし。

獨占的價格の第二法則 獨占化したる財貨の價格は専ら獨占業者の意思に存するものなりとは屢稱せらるゝ處なり。然かも嚴密なる意義に於て此の如きは眞實にあらず。如上説明の示す如く、獨占業者は經濟的動機によりて最高限度の純收入が得らるるの點に獨占的價格を設定せんと努むるものなり。夫故に需要の側に於て獨占的價格を決定する上に決定的勢力を有するところの或條件あり。吾人は一般的説明として此

等條件の最も重要なものを一と纏めに摘説し得べし、而してこれを需要の立場より獨占的價格の法則と稱するを得べし。獨占化したる貨物(即ち獨占的貨物)又は勤勞の習慣的使用の強サが更に大ならば、經濟的福利の一般的平均は更に高かるべし、而して一般に財富が更に容易に費消せらるゝならば、最大なる純報酬を與ふところの獨占的價格は更に高かるべし。かくして獨占業は何等夫自身の努力によることなくして、國家に於ける財富増加の分配にあづかり、且つその財富の大部分を吸収するものなり。一例を擧ぐれば他の諸勢力中にありて更に大なる財富及び自由に財富を消費せんとする更に大なる意志は獨占業をして獨逸及び其他の歐洲諸國に於けるよりも北米合衆國に於て更に有利のものたらしむるに至れり。されば他の例を引證して此獨占價格の法則を説明することは學生諸君にとり興味あり、且つ有益なる實習なるべしと信ず。さて、以上試みたる獨占價格の論究に於て、ある假定は合意的に用ゐられたり、而してこゝには其假定そのものにつきて説明し且つ簡單に論究するところあるべし。即ち吾人は獨占業者が其價格政策を構成するにあたり、彼は最大なる貨幣報酬を得んと

するの願望によつて刺激せらるゝこと、彼はその獨占的貨物に對する需要に影響を及ぼすか如き輿論を除きては同情なき輿論に注意を拂ふものにあらざること、彼は市場にその種々なる可能的提供をなすにあたりその提供貨物の各單位費用及び合計費用を確的に知り、又同様なる確實サを以て公衆が如何に其等種々なる可能的提供に對しその各單位に支拂ふべきものなるかを知るものなることの假定を以て論せり。勿論、此等假定の何れもが如何なる獨占業者にとりても完全に眞實なりとは容易に言ふべからざるなり。世人の好評に注意することは恐らく獨占業をして其獨占的勢力をなるべく可能的のものたらしむるよりは、寧ろ社會より更に少許の利益(貨幣)を收得せしむるに至るものなり。他の一方に於て獨占業者はその獨占的所得の放縱にして且つ派手なる博愛的支出によりて公衆の稱賛を博し得べしとの期待に於て利益を得るためには輿論をも顧みざることあるべし。輿論は獨占力を制限せんと欲するところの立法に於てその表現を發見し得べし。再び假定せられたるが如き需要の状態に關する智識は殆んど不思議なるまでに二三の獨占業者によりて有せらるゝことありとするも、實際生活

に於ては恐らく有り得ざることなり。かくて何れの獨占業者の場合に於ても、吾人の假定が眞實ならざるかぎり、其範圍に伴ふて、實際の獨占的価格は前數節に於ける分析的研究によりて表示せられたる價格の上位又は下位にあるべし。而して如何なる程度にまで該假定の眞實なるかは何れの場合に於てもその場合、場合に於ける特種事情につきての注意深き研究によりてのみ知るを得べし。

第二種の天然的獨占 曾つて伶俐なる英國技師の言へるあり、曰く合同の可能なる所には、競争は不可能なりと。さて合同は第二種の天然的獨占の場合に常に可能なるものなり。されば如斯き事業に於ける合同は實に避くべからざるものなり。若し一都市に於ける二個の瓦斯會社が、各自一百萬弗の資本を有して合同せざる場合に一〇「バアセント」の利益を收得し得るものなりとせば、その合同したる場合に、其等會社は一〇「バアセント」以上の利益を收得し得るものなり。如斯く利益を増進し得べき合同の力は、たとへ一様に行はるゝものにあらずとするも、其等會社を誘致すべく重力の吸引するが如く絶えず働くものなり。

此點に關する實驗上の證明は甚だ多し。此等の事業合同の分野にありて如何なる競争も決して行はるゝものにあらず、さて合同の條件を決定せんがためには、時として『戦争』を生ずることとなり、而してかゝる場合に於て瓦斯戦争、又は何々戦争といふが如く、『戦争』なる言葉を使用することは、この通俗語の用法によるも科學的に正當なるものなり。而して既に結論的經驗の一世紀を過したる今日に於てさへ、尙都市は例令へば一の新らしく「獨立」の電話會社が永久にその料金を低下し、しかもその獨立を持續し得べきものなりと浪費的廣告によりて信せしめらるゝとの屢あるものなり。さてかゝる場合に政府は如何なる政策をとりて此等の産業を取扱はんとするか。我が合衆國にありて吾人は如斯基獨占業の私人的所有(即ち私有)及び私經營に代りてその國家的所有(即ち國有)及び公經營の方法に依らざるべからざるか。此等獨占業の或ものは私人的企業の可能的分野に屬すべきものにあらずと考へられて、早くより公益事業として政府により經營せられたり。その二三の例を擧ぐれば道路、街路、郵便局、及び多くの場合に於て運河等の如きこれなり。其他の獨占業に關しては、これを

許可するにあたり少くともその特許を制限し、而して後日に至りその集積せる經驗が變更の有利なるを表示するときに、政府をして容易に且つ迅速に如斯基の變更をなさしむるために、將來公平なる條件に於て買收し得るの權利を含めて、よく公權の保留をなすべきなり。米合衆國に於ける産業時代を叙述せるの章に於て、吾人は既に此等獨占業との關係に於て國家が採りたる政策の歴史に關し考慮するところありたり、而して公有政策を可として常に主張せらるゝの議論はしばらく保留せられたりしもこゝには其等問題の論究に歩を進めん。

獨占業を公有となすの利益 天然的獨占業の公有に關して主張せらるゝ主要なる利益をあぐれば次ぎの如し。

一、公共的繁榮の増進及び傳播、現時私的獨占業によりて得らるゝ大なる收入を一般社會の間に傳播することは、財富の不相當なる集中を緩和し、同時に一般的繁榮を増進するの傾向あるものなり。合衆國に於ける巨大なる大富豪の多數は私有に屬する天然的獨占業より直接に生じたるものなり。若しかゝる私的獨占業が政府によりて經營

せらるゝならば、其等獨占業より得らるゝ収入が、二個の方法の何れかによりて傳播せらるゝものなることに注意せざるべからず。

即ち其一は獨占業を公有となすの目的は利益の收得を許すものにあらざるより、其價格を單に費用を償ふを以て足れりとなすの程度に止めて、その要求すべき料金の低下せらるゝことなり、——この方法は我が米國にありては郵便事業に、英國にありては電信事業に採用せられたり。其二は獨占業より收得するところの利益を租稅輕減のために使用し、又は他の方法に使用して人民の福利を増進することなり。

二、經濟及び能率 天然的獨占業の分野に於て企てられたる競争が如何に大なる浪費を生ずるものなるかは各方面に目撃し得らるゝの事實なり。數年前、多少の誇張を以て過去五十年間、米合衆國に於ける鐵道の敷設及び作業に於て、經濟的資源、——そのものゝ經濟的に使用せられたりしならんには、當時米國に於ける凡べての男子、婦人及び兒女に對し愉快なる家庭を作るに充分なりしまでに——經濟的資源が甚だしく浪費せられたりと推算せられたりき。夫故に如斯き獨占業の公有は、私有又は私的經營

の政策によるよりも更に經濟的なるものなりと主張するの論者に強固なる論理的根據を提供するものなり。

獨占的性質の事業が公共團體によりて行はるゝときに、大なる經濟的節約は水道、瓦斯、及び電燈事業の如き種々なる事業を聯結的に經營することによりてその目的を達し得べし。且つその結果として善良なる經營の行はるゝに至るものなり。かくて私的企業は常に如何なる場合に於ても公的企業より優れたるものなりとの觀念は民俗的迷信にして、今や次第にその勢力を失ひつゝあるなり。而して事實の示すところによれば公的企業及び私的企業の何れもは夫自身の分野内にありて各自優越なるものなりといふことはなり。

私的企業が自發的に改良進歩をなすものなりといふの點に於て、常に公的企業に優りたるものなりとの議論も肯綮に中れるものにあらず。即ち米國の郵便局は爲替送金事業を發達せしむることに於て、かへりて米國郵送會社に先立つその通路を開きたるにあらずや。又英國の郵便貯金銀行は支店の設立につき、及び貯金の方法として小型

の「カード」に切手を貼附し使用するにつき率先して模範を私立貯金銀行に示せるにあらずや。

三、政治の廓清 私的獨占業は國家の權力によりて支配せられざるべからず、然れども支配は私的事業に對し干涉を意味し、而して干涉は概ね腐敗を生ず。米合衆國に於ては特許權の申請及び其擴張に關し、又は私人の所有に屬する獨占業が特權を得んとし、或は當然負ふべき義務より免れんとし、或は當然受くべき刑罰より免れんとし、賂賄及び種々の不正なる方法を講じたる實例の暴露によつて驚殺せられざるの年とてはこれあらざるなり。獨占事件に尤も精通せる一法律家が獨占的會社を調査したる結果、その公開演説に於て是等私的獨占的會社が支拂はざるを得ざりし、「アンテナタル」税、即ち特許權を得んが爲めに使用せらるゝ賂賂は、其營業費中の一定項目なることを公言せり。これ、何故に我が都市政府の出費多きかの一理由なり。さればかゝる種類の獨占業が公有となり且つ公經營となることによつて、公的利益と私的利益とは相互に一致するものなり。而して善良なる市民はこれを以て善良なる政府の原因として不

可分的忠順を捧げ得るものなり。

千九百年乃至千九百十年の十年間に於て、米國人民は曾つては決して見ることもなかりし腐敗の範圍及び種類が大なる天然的獨占業の私有者によりて行はれたりしを知るに至れり。所謂穢物(金錢)搔集者に謝すべきか、公的利益を凌辱的に横取せんとせるの奇怪なる事件は奇怪なる事件を以て打續けり。かくして「ダイオゼネス」及び彼の提燈の古傳説にのみたゞ悲むべき微笑を洩さしめ得るの極點に達せり。その結果は——本書第二篇第五章に於て簡單に論究せる如く——多數の立法となれり、而して此等の立法は公設委員會、又は其他の立法により私的獨占業を適當に取締ることのために企てられたるものなり。

四、有害なる社會的獨占業の排棄 專賣特許及び著作權に根ざせる社會的獨占業は一般に公衆にとり有益なるものとして考へられたり。他の一方に於て商標獨占、公的消費獨占、及び財政的獨占は社會的獨占業の形式をとれり、而して此等の獨占業は議論なくしては一般に認容せられざるところのものなり。最後に第一種の特權的獨占は一

般公衆の後援を失ひつゝあり、同時に第二種の特權的獨占は今や到處に於て社會の最上福利に特に有害なるものとして認めらるゝに至れり。此等有害なる社會的獨占業の二三は現に考慮しつゝある天然の獨占より收受したる特種なる恩惠により可能的に存立するに至りたるものなり、假令へば競争者が支拂ふよりも一層低廉なる割合に於て運賃を支拂ふが如きこれなり。若し凡べての市民が天然の獨占業の側に於て正當にして平等なる取扱の確保せらるゝならば、競争の限界は擴張せらるべく、同時に獨占の範圍は制限せらるゝに至らん。然れども、天然の獨占が私人の掌裏に握らるゝ間、如斯く正當にして且つ公平なる取扱が希望せられ得るや否やは問題なり。

ジエボンの提唱せる標準 英國の經濟學者ジエボンはその著書『社會改革の方法』に於て獨占業の政府經營に關し慎重なる研究を試みたるの結果として、如何なる種類の獨占業が最も安全に國家によりて經營し得らるゝかを判斷するところの一般の原則又は特質ありといへるの結論に到達せり。其等の特質は下の如く略説するを得べし。

(一) 其事業は作業を有效ならしむるために單一にして總べて外延的なる組織を必要となさざるべからず。

(二) 其事業は例令へば郵便事業の如く規則正しく行はるゝ分掌的性質を有せざるべからず。

(三) 其事業は絶えず公共的精査及び批評の標的となるが如き性質を有するものならざるべからず。

(四) 其事業はその爲したる事業の數量に對して資本的支出の數量が比較的少額を要するものならざるべからず。

此等の標準(又は法則)につきてみるに、まづ第一に此等の標準は如何なる事業を國家が成功を以て尤もよく經營し得るかにつきてのみ單に述べたるものなるを觀察すべし、——然かも、その成功又は不成功は専ら私的事業經營者の立場より見たるものなり。言ひ換ふれば此等原則の説明に於て、國家が私人的企業者の用語に於て損失ありと稱せらるゝところの事業を經營することによりて社會的福利を増進し得べしといふが如きは考慮中に入れざるなり。新米國の國道は殆んど到る處其州、其州によりて

經營せらるゝの獨占事業にして、其等は租税によりて築造せられ、且つ維持せらるゝものにして、手数料又は交通税によるものにならざるなり。夫故に私的經營の標準によりてのみ判斷するに、國道の如きは商賣として成功すべき性質のものにならざるなり。而して今日何人と雖も以上の如き事業の經營を「成功」せしめ得るところの公的政策を變更することに賛成するものあらざるべし。

第二に、吾人は永久に國家の活動を、以上の如く定めたる「範圍内」に制限するを好むものにあらざるも、尙吾人は國家が天然的獨占業の經營に敢えて當らざるべからざるところの順序を決定するの一助としてジェボンZepponの標準を適用することの便利なるを承認せんとす。更に一考すれば、現に種々なる天然的獨占業が此等標準と一致する程度に於ける相違が永久的のものにあらずして、常に變化しつゝあるものなることを知るべし。かくして鐵道事業の如きは規則正しき分掌的經營に依らざるべからざるの感を生せしむるものなり、而して更に如斯き事業に對するの必要は日々に増加し來り、而して更に又社會公衆の聰明なる批評の目標たるに至るべし。夫故に吾人は私的事業

の立場より判斷して、凡べての天然的獨占業が將來國家により經營せられて成功し得るものなりや否やを問はんとするものなり。

結論、第二種の天然的獨占業の公有より生ずるところの利益は既にこれを説明したり。而して此等利益を承認すると同時に、吾人は政府が之を公有し且つ管理するにあたりて幾多の困難あるを看過すべからず、——即ち政府組織に關して包含せらるゝ重要な諸問題、即ち優越なる能力を有するの人々が政府の執務を永久的にして、且つ興味ある經歷として考ふるまでに行政事務を改善するの問題、政府の事業に於ける信用と能率とを大ならしむるの問題等これなり。國有鐵道の場合に於て、運賃の賃率に關する問題、及び相異なる地方間の需要の衝突及び相異なる産業的利益の衝突に關する問題は必然に起り來るべし。歐洲諸國に於て、此等の困難は甚だ緊切なる問題となれり、而して尙、その最後の解決は、實に我が米國に於ける鐵道の私有及び私營問題の解決と同じく甚だ遼遠なるものなり。(歐洲大戰の結果として戰時中鐵道の國有及び國營は試験せられ、更に五ヶ年間その試験の繼續せらるゝことゝなれり。)

さて如斯き獨占業の公有を主張する論者の多數は恐らく凡べての天然的獨占が私人の所有より全く離るゝに至るは長年月を要するものなるを認むるものならん。これと同時に特權フランチャイズの許可、其擴張及び再許可を如何に取締るべきかの問題及び政府は如斯きの事業を如何に監督すべきかの問題は永久に複雑なる問題として残るべし。されば此等の天然的獨占業を監督せんとするの企圖より起るところの困難にして且つ複雑なる問題の數のみを記述することに於てすらあまりに吾人を迷はしむるものなり。殊に過去數年間各州及び合衆國の議院及び法廷は此等の複雑なる問題を以て煩はさるゝに至れり、而してこの煩はしき争論は年を追ふて更に甚しかるべきなり。而して價格又は貸率管理の一例を擧ぐるに、州及び合衆國委員會、議院及び法廷は假令その問題が絶対に解決し難きものにあらずとするも、極度に困難なる問題に逢着しつゝあるは明瞭なり。思ふに、州及び合衆國委員會は一州の境域内に於ける運輸貨物に對し要請せらるゝ確定的又は制限的貸率に最終權力を行使せざるべからざるか。如何に如斯きの貸率は「コスト、オペレーション勤務の費用」、運搬せらるゝ貨物の價值の基礎の上に、又は該運輸貨物の負擔

し得るところのものを要求することの原則の上に確定せられ、又は制限せらるべきものなるか。此等基礎の何れかその一を假定しつゝ、尙該鐵道は戦争又は産業沈衰の時に於てすら、常に利益を興ふるところの貸率を要求すべく許さるべきものなるか。更に如何なるものが鐵道に對し許すべき正當なる利益なりや。人口増加のために鐵道線路の價值に於ける増加は積荷委託者及び最終消費者に對し貸率を引上げたるの結果、投資の一部分として計算すべきものなるか。若し政府が貸率を決定するものとせば、その貸率が部分的に關係するところの労働者の賃銀に關しても亦干渉せざるべからざるか。若し政府が鐵道労働者傭入の賃銀及び條件の取締に干渉することの拒否せらるゝならば、彼等労働者は同盟罷工をなすべき權利を繼續的に把持せざるべからざるか。如斯きの諸問題に關して論究を試みんか多大の紙數を要すべく本書の堪へ得るところにあらず。而して更に新らしき問題は年々に起りつゝあるなり。實に此等諸問題の未だ解決せらるゝことなきに、更に他の問題が起り來るといふの現状なり。而して此等の問題は現今の紛亂時に於けるより更に緊切なるものこれあらざるなり。

摘要

- 一、獨占の根本觀念は價格及び其他の條件を支配するに至る行動の統一ユニチーこれなり。
- 二、獨占的價値は競争的價値と異なるものなり、即ち獨占的財貨の供給は生産費用によりて決定せらるゝものにあらず。
- 三、獨占的價格は最高限度に純收入を與ふるの價格なり。されば供給及び價格を定むるにあたり、獨占業者は固定的費用を閑却す、夫故に獨占業に於ける固定的租税も亦轉嫁せられざるものなり。
- 四、獨占的價格は需要の側にありて消費者の財富及び購買上の慣習によりて支配せらるゝものなり。
- 五、天然的獨占業の公有を提唱するにあたり、一般的繁榮を傳播するところの公有政策は經濟的なり、政治上の弊風を廓清す、有害なる社會的獨占業を排除すと主張せらるゝものなり。

六、獨占業の公有に關するシェポンの標準は作業を有效ならしむるために單一なる外延的組織の必要、業爲の規則正しき分掌的性質、社會的批評に對する公開、少額なる固定的資本支出これなり。

復習問題

- 一、獨占の定義を擧げよ、獨占の種々なる種類をあげ、且つ其等種類の定義を與へよ、その知るところの獨占業の二三を擧げよ、而して其等獨占業は如何なる獨占的利益を收得しつゝあるかを説明せよ。
- 二、第二種天然的獨占業の特殊なる性質を簡單に記述せよ、この種類の獨占業の二三をあげよ。
- 三、數字的表示及び圖解によつて如何に獨占的價格の決定せらるゝかを説明せよ、獨占的價格と競争的價格との相違を説明せよ。
- 四、獨占業に對する課税の種々異なる方法の結果につきての相違を説明せよ。

五、如何なる利益が天然的獨占業の公有につきて主張せらるゝか、如何なる困難が如斯きの政策に起るものなるか。

六、供給の側より獨占的價格の法則を説明せよ、又需要の側より同法則を説明せよ。

研究問題

一、「スタンダート」石油會社の價格政策は如何なる程度にまで輿論により、又法律によりて影響せられたるか、如何なる程度に純獨占價格にまで該會社は常に接近したりや。

二、獨占的利益の一部分が、獨占業者の意志及び好意により、教育的學院、大學教師に對して養老年金、衛生學的研究所及び其他を建設することに使用せらるものなりと假定して、其等生産財貨に對し低廉なる價格を支拂ふと、又は獨占的價格を支拂ふとの何れか米國人民にとりて宜しきものなりや。

三、都市が獨占的市街鐵道業に課税するためにその運轉する各電車に固定的年額を賦

欠

欠

るものなり、何んとなれば一國民は他國民の紙幣の法貨たる性質を承認するものにあらず、而して外國人は金屬貨幣と等價に維持せられざる紙幣に信用を置くものにあらざるが故なり。政府は何時たりとも金貨の需要せらるゝときに金貨兌換によりて政府紙幣を等價に維持し得るものなり。如斯き場合に於て紙幣は兌換可能なりと稱せらるるなり。

複本位

千八百九十六年以後に生れたる青年に對し、複本位問題につき當年に行はれたる政治的論争の激烈なりしことの相當觀念を與ふるは恐らく不可能のことなるべし。而して該論争は多くの點に於て戦争に類似し、而して屢々内亂の確かなる前兆たるを示したりき。殊に、一代をも經ざる以前に於て大統領選挙が二十年間に亘りて價格の下落しつゝありしことの事實を問題として行はれたりしことを現實に想起するは今日の青

年にとりて甚だ困難ならざるべからず。

若し今日の學生諸君がこの問題に充分の興味を惹起し能ふならば、吾人は複本位問題の如何なるものなるかにつき簡略に考慮せざるべからず。

複本位主義の制度を構成するために、三箇の要件を必要とす、即ち二個金屬、一定の割合に於て兩金屬の自由鑄造及び兩金屬に充分に法定貨幣たるの性質を與ふることこれなり。十九世紀に至るまで、勿論金の使用せられたりしも、尙、銀は商業及び計算の通常貨幣たりしなり。政府は一般に同世紀の後期に於て重量の一定割合に準じて金銀二金屬の自由鑄造を行ひたり。而しその履行はれたるところの割合、即ち金銀比價は一對一五 $\frac{2}{3}$ なりき、而してこの比價は政府が金貨に相應して同一價値を有する名目上の銀貨を鑄造するにあたり、金の十五倍半にあたる銀の多數ゲレオンを使用することを意味するものなり。さて北米合衆國が新に國民として獨立したるの始めにあたり、一對一五の割合を選びたり、其後千八百三十四年に一對一六・〇〇二、而して千八百三十七年に一對一五・九八八の割合に變更したり。この金銀比價は普通の談話に

於て一對一六として知らるゝところのものなり。

羅甸貨幣同盟 歐洲の金銀比價は十九世紀に於ける略七十年間に亘り兩金屬の自由鑄造を以て狹隘なる範圍内に於て、最初は佛蘭西の行動により、次ぎに羅甸貨幣同盟と稱せらるゝ諸國の聯盟せる行動によりて維持せられたり、而してこの同盟中にありて佛蘭西、白耳義、瑞西及び伊太利は尤も有力なるものなりき。而して複本位制を採用せる此等諸國に於て如何なる形態に於てなりとも金又は銀を所有するところの人々は鑄造上確定せる割合によりて貨幣に交換せられたりしなり。

銀貨鑄造上の制限 然れども、千八百七十三年頃、從來銀貨の自由鑄造たりし獨逸は銀本位制を金單本位に變更するに決し、而して世界の市場に巨額なる銀を放出し、同時に金に對する需要を増加せり。同年合衆國も、數年來事實に於て鑄造されざりしとはいへ、銀貨を事實上造幣廠に於ける鑄造表より除去し、金單本位の基礎を確立したり。此の如くにして銀の價値は急激なる低落を惹起し、而して其後間もなく羅甸同盟をして銀貨の自由鑄造を停止するの已むなきに至らしめたり。この動搖に加

ふるに、殆んどこれと同時に大銀鑛の發見ありて、銀の供給増加は大、且つ急なりき。是等變動の結果は兩金屬間の割合をして激烈なる差等あらしめたり、即ち金に對する銀の價値は非常に低落し今日金一「オンス」を購買する爲めには、銀三十八「オンス」を要するに至れり、換言すれば市價の割合は舊市場割合、即ち金一對銀十五、二分の一より、金一銀三十八に激變したり。

貨幣制度の變更より生ぜざる結果 以上説明せる變化は自然に價格を低落せしむることとなり、かくして當然に凡べての負債を増加し、従つて大困難を生ずるに至れり。然れども負債の増加は不幸の一部分に過ぎざりき。南亞米利加及び東洋諸國は銀貨本位なりしが故に、貿易は金銀貨が一定の割合にて敏活に交換せられたりし間は容易に行はれたりしも、其割合の大に動搖するに至りしときに始めて不安を生じ、若しくは妨害たるべき要素は貿易界に入り來り、遂に取引をして投機的のものたらしめぬ、而して夫故に全體に於て世界の被りたる不利は甚だ大なりき。かくて印度に於ける商人に貨物を賣りたる「リバープール」の商人は、交換上一定額の銀貨を受取るに同意した

りしならん、然れども該英商人にとりて其受取りたる銀貨を金貨に交換するの必要あるが故に、該取引の時期中に起りたる銀價の低落は該商人をして破産の悲運に陥らしむるともあらん。斯かる事情の下に、東洋に對する製造貨物の輸出は阻碍せられたり。

以上擧げたるところのものは、簡單なれども、多くの人々によりて、大部分は銀貨鑄造の一般的制限より生じたるものなりと信せらるゝところの困難の一二なり。而して複本位は其救治策として提案せられたり。複本位制度の下に政府は鑄造を願ふところの何人の請求に對しても一定の割合によりて凡べての金銀貨を鑄造す、換言すれば政府は私人勘定に於て金銀貨の鑄造に應ず。複本位鑄造が唯一國によりてのみ行はるゝ時に之を國家的複本位と稱す。經濟學者の一般的觀察によれば今日何れの國家も提議せられたる鑄造上の一定割合に於て價値の均等を維持するに必要な兩金屬に對する需要を充分に充實するまでに商業上有力なるものにあらざるなり。

乍併、千八百七十四年以前に於ける匈羅貨幣同盟の如き協約に基きたる複本位主義を意味するところの國際的複本位主義を以てしては、全くこれと異なるものなり。經濟

學者は曾つて一度は如斯き貨幣政策に左袒せんとしたるものなり、而して今日尙歐米諸國にありてすら、如斯き國際的貨幣政策の實行せらるべきものなるを信する幾多の經濟學者あるなり。彼等は假令へば若しも英吉利、米合衆國、獨逸及び佛蘭西の四國が如斯きの國際的協約を結ぶに至らんか、其等諸國は兩金屬の割合を維持し得べしと信するものなり。國際的複本位論者は金及び銀が主として貨幣用として使用せらるゝこと、而して金及び銀の所有者は該金屬を政府の定めたる割合に於て鑄造するか、又は技藝用として市場に賣却するか何れとも國際的協約によりて強要せらるゝものなることに吾人の注意を喚起せしむ。然れども技藝用として使用せらるゝの數量は年産出額の比較的小部分か、又は現在せる總供給高の更に更に少許なる部分の需要せらるゝに過ぎざるなり。夫故に政府は既に獨占業者の地位にあるもの、従つて其等政府の協約一致により確定せる鑄造之價の維持し得らるべしと主張するものなり。

最近の貨幣史

國際貨幣會議 有名なる經濟學者及び諸國に於ける實際的政治家によりてその必要を感せられたる國際複本主義に對する熱望は國際貨幣會議を繰廻し開かしむるに至れり。而して此等國際會議の中尤も注意に値するものは千八百七十八年に於ける巴里會議及び千八百九十五年に於けるブラッセル會議これなり。然れども此等の會議は複本位制度を回復するまでに至らざりき。而して債權國としての英吉利はこの國際的運動につきての凡べての計劃に反對するに至れり。

千八百七十八年及び千八百九十年の銀塊購買條例 さて何れの大國なりとも兩金屬を以て自由に貨幣を鑄造し爲さるるなり。米合衆國に於て、銀塊の購入及び制限せられたる數量に於ける銀貨の鑄造に關する千八百七十八年の「ブランド・アッソン」條例は千八百九十年に於て「シャーマン」條例によりて引續かれたり、この「シャーマン」條例は銀塊購入に關して、その數量を増加すべく企てられたるところの折衷法案たりしものなり。

シャーマン條例の廢止 さて二三年間に亘りて合衆國の金貨は著るしく海外に輸出

せられたり、而して其結果として若し「シャーマン」條例にして直ちに廢止せられざる限り、金の輸出は合衆國をして銀貨國たらしむるに至るまで繼續すべしといふの議論を生ずるに至れり。此危機の時にあたりて印度の造幣局は銀の自由鑄造を停止せり、而して其市價は三日間に一「オンス」八十二仙より六十七仙に暴落せり。加ふるに合衆國の収入は經常支出よりは遙か少額に下り、爲めに財政上の不足を生ぜり。是等の事情相結合して千八百九十三年夏の終りには臨時議會を開かざる可からざるに至り、而して討論の結果として、「シャーマン」條例の銀購入に關する個條は削除せられたり。

千九百年の通貨條例 千八百九十三年乃至千九百年の間に貨幣狀態は次第に改善せられたり、然れども二三年間に亘りて合衆國政府は通貨を保護する必要より、甚だ不利なる條件の下に公債の發行を繰返さざるを得ざるに至れり。千八百九十六年に民主黨の大統領候補者として、「合衆國の獨立行爲によりて一對十六の割合に於ける金銀貨の自由無制限鑄造を主張せる政綱を高唱せるブライアン氏の失敗は、千九百年二月十四日合衆國議會を通過せる新通貨條例の制定に至るべき一路を開きたるものなりき。

該條例は金弗貨が合衆國に於ける價值の標準たるべきこと、及び凡べて他の種類の貨幣は金貨と同一價值に維持せらるべきものなるを宣言せり。該條例は更に合衆國出納官をして合衆國紙幣兌換の爲めに特別準備基金を維持せしむべきことを規定したり。該基金は凡べての場合に於て金に、若くは金及び兌換紙幣にて一億五千萬弗に上らざるべからず。若し金の數量が一億弗以下に降下せる場合、及び該基金の他の一部たる兌換紙幣が、其時にありて國庫に於ける「自由」金と交換し得ざる場合には短期金債券を發行して基金の不足を補ふを得べし。又該條例は銀貨鑄造に關して、その發行すべき數量が銀に對する支拂のため發行せられたる「千八百九十年の國庫紙幣」によりて表示せらるゝ數量と同額に達するまで、現に存在する銀の貯藏中より鑄造すべきことを規定せり。是等の銀弗貨、又はその代用たる銀貨證券は「シャーマン紙幣」が引換のため國庫に呈示せられたる場合に、該紙幣償還のために支拂はれたり。而して該「シャーマン紙幣」が全部償還せられたる時に、政府の購入せる銀地金の殘額——銀貨鑄造より生じたる鑄造料を代表する——は補助貨幣として鑄造せらるゝに至れり。